

# 庄屋野遺跡

—第8次発掘調査報告—

令和6(2024)年3月  
久留米市教育委員会

# 庄屋野遺跡

—第8次発掘調査報告—

令和6(2024)年3月  
久留米市教育委員会

## 序

久留米市は、筑紫平野の中央に位置し、陸路と水路の要衝であることから、古くから筑後地方における政治・経済・文化の中心地として発展を遂げてきました。また、それに伴い市内各所に数多くの文化財が残されています。久留米市教育委員会は、開発によって失われる先人が残した貴重な文化財を後世に伝えていくために、現状保存、あるいは発掘調査を行うことで記録保存の措置を講じています。

今回の発掘調査は、久留米市の西部にあたる安武町安武本で実施しました。発掘調査では、縄文時代の落とし穴や奈良時代から平安時代の掘立柱建物、廃棄土坑などを確認することができました。今回の発掘調査とその成果を通して、久留米の歴史と文化財保護に対する理解や普及などに貢献できれば幸いです。

末文となりましたが今回の発掘調査に際して、土地所有者の方々をはじめ、関係各位に多大なご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

令和6年3月31日

久留米市教育委員会  
教育長 井上 謙介

## 例 言

1. 本書は、宅地造成に先立ちアット・ホーム株式会社の委託を受けて実施した、庄屋野遺跡第8次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の長谷川桃子が担当した。
3. 遺構実測図の作成は、長谷川と熊代昌之、川島絵津子、進上裕永、中村麻衣、藤木幸子、松尾朱美、山口誠也が行い、浄書は長谷川、横井理絵が行った。
4. 遺物の実測は、長谷川と江島伸彦、宮崎彩香、今村理恵、江藤玲子、江口里織、佐藤節子、山元博子が行い、浄書は長谷川、山元、湯川琴美、横井が行った。
5. 遺構写真は Canon EOS6D Mark II を用いて長谷川が撮影した。遺物写真は久留米市埋蔵文化財センターにおいて、PENTAX K-1 II を用いて長谷川が撮影した。なお、本文中の遺物番号・遺物実測図・写真図版の遺物番号は同一である。
6. 遺構配置図は、トータルステーションを用いて測量し、測量データは「遺構くん cubic」で編集・保存した。なお、個別遺構図については水系メッシュ法（1/10）で記録した。
7. 図面の方位は座標北を示す。基準点の座標は、国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を用いた。なお、平成28年の熊本地震に伴うパラメーター補正は行っていない。
8. 遺構表記の略記号は、以下の通りである。  
S A—柵列 S B—掘立柱建物 S E—井戸 S K—土坑 S P—ピット
9. 遺物観察表の凡例は、以下の通りである。
  - ・法量の単位は cm である。（ ）内の数値は復元値および残存値を示す。
  - ・色調は、『新版 標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1997年版）に拠るものである。
10. 出土遺物・図面等諸記録は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
11. 庄屋野遺跡第8次調査の略記号は S Y N—008、調査番号は 202114 である。
12. 第32・33図については、比佐岡一郎（奈良大学文学部教授）が福岡市埋蔵文化財センターにおいてマイクロデジタルスコープを用いて撮影した。
13. 本文の執筆・編集は長谷川が行った。

## 本文目次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査及び報告書作成にかかる体制	1
3. 調査の経過	2
II. 位置と環境	3
III. 調査の記録	6
1. 検出遺構	6
2. 出土遺物	36
IV. 総括	61

## 挿図目次

第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25,000)	5	第17図 S E 1194土層断面図 (1/40)	18
第2図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/5,000)	5	第18図 S K 48・160・212・523 実測図 (1/40)	20
第3図 遺構配置図 (1/500)	折込	第19図 S K 145 実測図 (1/40)	22
第4図 I区遺構配置図 (1/300)	折込	第20図 S K 260 実測図 (1/40)	23
第5図 II区遺構配置図 (1/300)	折込	第21図 S K 548・549・560 実測図 (1/40)	24
第6図 III区遺構配置図 (1/300)	折込	第22図 S K 561・562・563・564・761 実測図 (1/40)	25
第7図 IV区遺構配置図 (1/300)	7	第23図 S K 833・834・864・879・881 実測図 (1/40)	26
第8図 V区遺構配置図 (1/300)	8	第24図 S K 882 実測図 (1/40)	27
第9図 S A 701、S B 573・702 実測図 (1/80、土層断面図は1/40)	9	第25図 S K 992・994・995・996 実測図 (1/40)	28
第10図 S B 804 実測図 (1/80、土層断面図は1/40)	10	第26図 S K 980・1004・1005・1006・1009・1107・1192・1193 実測図 (1/40)	29
第11図 S B 805・813 実測図 (1/80、土層断面図は1/40)	11	第27図 S K 998 実測図 (1/40)	30
第12図 S B 836 実測図 (1/80、土層断面図は1/40)	12	第28図 S K 1210・1212 実測図 (1/40)	32
第13図 S B 986・1219 実測図 (1/80、土層断面図は1/40)	13	第29図 S P 522・736・803・806～812・981・982 実測図 (1/40、S P 736は1/20)	34
第14図 S B 1074 実測図 (1/80、土層断面図は1/40)	14	第30図 出土遺物実測図① (1・9:1/2、その他:1/4)	36
第15図 S B 1220・1242 実測図 (1/80、土層断面図は1/40)	15	第31図 出土遺物実測図② (1/4)	38
第16図 S B 1243・1345 実測図 (1/80、土層断面図は1/40)	16	第32図 ●部分顕微鏡拡大写真1 (193)	39
		第33図 ●部分顕微鏡拡大写真2 (193)	39
		第34図 出土遺物実測図③ (1/4)	40

第35図 出土遺物実測図④(1/4) ……………	42	第42図 出土遺物実測図⑩	(296・297・298・300・301:1/2、その他:1/4) ……	50	
第36図 出土遺物実測図⑤	(116・119・120・122・129・140:1/2、 その他1/4)……………	44	第43図 出土遺物実測図⑪	(333・334・336:1/2、その他:1/4) ……	51
第37図 出土遺物実測図⑥(1/4) ……………	45	第44図 出土遺物実測図⑫	(356・361:1/2、その他1/4) ……………	52	
第38図 出土遺物実測図⑦(1/4) ……………	46	第45図 安武地区における古代の集落の位置とその消長 ……	62		
第39図 出土遺物実測図⑧	(208・209・210・212:1/2、その他:1/4) ……	47	第46図 奈良時代の主要遺構配置図(1/1,000) ……	64	
第40図 出土遺物実測図⑨(1/4) ……………	48				
第41図 出土遺物実測図⑩(1/4) ……………	49				

## 表 目 次

第1表 出土遺物観察表1 ……………	53	第6表 出土遺物観察表6 ……………	58
第2表 出土遺物観察表2 ……………	54	第7表 出土遺物観察表7 ……………	59
第3表 出土遺物観察表3 ……………	55	第8表 出土遺物観察表8 ……………	60
第4表 出土遺物観察表4 ……………	56	第9表 掘立柱建物一覧表 ……………	61
第5表 出土遺物観察表5 ……………	57		

## 図 版 目 次

図版1	(1) S B 804 P 6 土層断面(東から)
(1) I区全景(南上空から)	(13) S B 804 P 7 土層断面(東から)
(2) II区全景(南上空から)	(14) S B 804 P 8 土層断面(東から)
図版2	(15) S B 804 P 10 土層断面(南から)
(1) III区全景(南上空から)	(16) S B 804 P 11 土層断面(南から)
(2) IV・V区全景(南上空から)	(17) S B 804 P 13 土層断面(南から)
図版3	(18) S B 805 P 1 土層断面(南から)
(1) S A 701 P 1 土層断面(東から)	図版4
(2) S A 701 P 2 土層断面(東から)	(1) S B 805 P 2 土層断面(南から)
(3) S A 701 P 3 完掘状況(西から)	(2) S B 805 P 3 土層断面(南から)
(4) S A 701 P 4 完掘状況(西から)	(3) S B 805 P 4 土層断面(東から)
(5) S B 573 P 1 土層断面(南から)	(4) S B 805 P 5 土層断面(東から)
(6) S B 573 P 2 土層断面(南から)	(5) S B 805 P 6 土層断面(東から)
(7) S B 573 P 3 土層断面(南から)	(6) S B 813 P 1 土層断面(東から)
(8) S B 804 P 1 土層断面(東から)	(7) S B 813 P 2 土層断面(東から)
(9) S B 804 P 2 土層断面(東から)	(8) S B 813 P 3 土層断面(東から)
(10) S B 804 P 3 土層断面(南から)	(9) S B 813 P 4 土層断面(南から)
(11) S B 804 P 4 土層断面(南から)	(10) S B 813 P 5 土層断面(南から)

- (11) S B 813 P 6 土層断面 (南から)
- (12) S B 836 P 1 土層断面 (東から)
- (13) S B 836 P 2 土層断面 (東から)
- (14) S B 836 P 3 土層断面 (東から)
- (15) S B 836 P 4 土層断面 (東から)
- (16) S B 836 P 5 土層断面 (東から)
- (17) S B 836 P 6 土層断面 (西から)
- (18) S B 836 P 7 土層断面 (北から)

図版 5

- (1) S B 836 P 9 土層断面 (東から)
- (2) S B 986 P 2 土層断面 (南から)
- (3) S B 986 P 3 土層断面 (南から)
- (4) S B 986 P 4 土層断面 (南から)
- (5) S B 986 P 5 土層断面 (南から)
- (6) S B 1074 P 1 土層断面 (南から)
- (7) S B 1074 P 2 土層断面 (南から)
- (8) S B 1074 P 3 土層断面 (南から)
- (9) S B 1074 P 4 土層断面 (南から)
- (10) S B 1074 P 5 土層断面 (南から)
- (11) S B 1074 P 6 土層断面 (南から)
- (12) S B 1074 P 7 土層断面 (南から)
- (13) S B 1074 P 8 土層断面 (南から)
- (14) S B 1074 P 9 土層断面 (南から)
- (15) S B 1219 P 2 土層断面 (南東から)
- (16) S B 1219 P 3 土層断面 (南東から)
- (17) S B 1219 P 4 土層断面 (北西から)
- (18) S B 1220 P 2 土層断面 (南から)

図版 6

- (1) S B 1220 P 3 土層断面 (南から)
- (2) S B 1220 P 4 土層断面 (北から)
- (3) S B 1220 P 5 土層断面 (南から)
- (4) S B 1220 P 6 土層断面 (南西から)
- (5) S B 1243 P 1 土層断面 (北東から)
- (6) S B 1243 P 4 土層断面 (南から)
- (7) S B 1345 P 4 土層断面 (東から)
- (8) S B 1345 P 5 土層断面 (東から)
- (9) S B 1345 P 6 土層断面 (東から)
- (10) S E 1194 土層断面 (東から)

- (11) S E 1194 掘削状況 (北西から)
- (12) S K 48 土層断面 (東から)
- (13) S K 48 完掘状況 (北から)

図版 7

- (1) S K 121 遺物出土状況 (北東から)
- (2) S K 145 土層断面 (西から)
- (3) S K 145 土層断面 (南から)
- (4) S K 145 完掘状況 (北東から)
- (5) S K 260 土層断面 (北西から)
- (6) S K 260 遺物出土状況 (東から)
- (7) S K 523 完掘状況 (東から)
- (8) S K 548 土層断面 (南西から)

図版 8

- (1) S K 549 土層断面 (南から)
- (2) S K 560 土層断面 (南から)
- (3) S K 560 完掘状況 (北から)
- (4) S K 561 土層断面 (東から)
- (5) S K 562 土層断面 (東から)
- (6) S K 563 焼土出土状況 (北東から)
- (7) S K 564 完掘状況 (北から)
- (8) S K 761 土層断面 (南から)

図版 9

- (1) S K 833 土層断面 (東から)
- (2) S K 834 土層断面 (東から)
- (3) S K 881 土層断面 (東から)
- (4) S K 881 完掘状況 (北西から)
- (5) S K 882 土層断面 (南西から)
- (6) S K 882 土層断面 (北西から)
- (7) S K 882 完掘状況 (北西から)
- (8) S K 980 土層断面 (東から)

図版 10

- (1) S K 992 土層断面 (南から)
- (2) S K 994 土層断面 (東から)
- (3) S K 994 完掘状況 (南東から)
- (4) S K 995 土層断面 (南から)
- (5) S K 995 完掘状況 (北から)
- (6) S K 998 土層断面 (東から)
- (7) S K 998 土層断面 (北から)

(8) S K 998 完掘状況 (北東から)

図版 11

(1) S K 1005 完掘状況 (南から)

(2) S K 1006 完掘状況 (北西から)

(3) S K 1009 完掘状況 (南から)

(4) S K 1192 完掘状況 (南西から)

(5) S K 1193 完掘状況 (南東から)

(6) S K 1192・1193 土層断面 (南から)

(7) S K 1210 土層断面 (東から)

(8) S K 1210 土層断面 (南から)

図版 12

(1) S K 1212 土層断面 (東から)

(2) S K 1212 土層断面 (北から)

(3) S P 522 土層断面 (西から)

(4) S P 736 遺物出土状況 (南西から)

(5) S P 803 土層断面 (南から)

(6) S P 806 完掘状況 (北から)

(7) S P 807 土層断面 (南から)

(8) S P 808 土層断面 (南から)

(9) S P 809 土層断面 (南から)

(10) S P 810 土層断面 (南から)

(11) S P 811 土層断面 (南から)

(12) S P 812 土層断面 (南から)

(13) S P 981 土層断面 (南から)

(14) S P 982 土層断面 (南から)

図版 13 出土遺物 1

図版 14 出土遺物 2

図版 15 出土遺物 3

図版 16 出土遺物 4

図版 17 出土遺物 5

図版 18 出土遺物 6

図版 19 出土遺物 7

図版 20 出土遺物 8

図版 21 出土遺物 9

図版 22 出土遺物 10

図版 23 出土遺物 11

図版 24 出土遺物 12

図版 25 出土遺物 13

図版 26 出土遺物 14

図版 27 出土遺物 15

図版 28 出土遺物 16

図版 29 出土遺物 17

図版 30 出土遺物 18

図版 31 出土遺物 19

図版 32 出土遺物 20

図版 33 出土遺物 21

図版 34 出土遺物 22

図版 35 出土遺物 23



## I. はじめに

### 1. 調査に至る経緯

本調査は、宅地造成に伴う事前の発掘調査である。令和3年9月27日、土地所有者のアット・ホーム株式会社代表取締役森永正彦氏から久留米市安武町安武本庄屋野五2932-1、2938、2940-1、2940-3、2940-4、2957、2958、2959、2961、2963-1、2963-3、2964-1における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の庄屋野遺跡の範囲に含まれるため、恒久施設である道路部分に対し発掘調査が必要である旨を回答した。令和3年11月15日に発掘調査の依頼が提出され、久留米市長と土地所有者は同年11月26日、庄屋野遺跡第8次調査の協定書と委託契約書を取り交わした。

現地での発掘調査は同年12月1日に着手し、令和4年6月21日に終了した。遺物整理と報告書作成は協定書に基づいて委託契約を取り交わし、令和6年3月31日まで行った。調査面積は3,074㎡である。

### 2. 調査及び報告書作成に係る体制

調査委託者：アット・ホーム株式会社 代表取締役 森永 正彦

調査主体：久留米市教育委員会 教育長：井上 謙介

調査総括：久留米市 市民文化部 部長：竹村 政高

次 長：深堀 尚子（令和3・4年度）

古賀 裕二（令和5年度）

文化財保護課 課 長：水島 秀雄（令和3・4年度）

井上 英俊（令和5年度）

課長補佐：久保田由美（令和3年度）

田中 健二（令和4年度）

甲斐田邦彦（令和5年度）

課長補佐兼主査：丸林 禎彦、白木 守

主 査：水原 道範（令和3年度）

小澤 太郎（令和4・5年度）

事務主査：小澤 太郎（令和3年度）、江島 伸彦

調査担当：長谷川桃子

整理担当（会計年度任用職員）：宮崎 彩香（令和3・4年度）

今村 理恵

江藤 玲子（令和5年度）

## 1. はじめに

### 会計年度任用職員（発掘調査作業員）

青木佐智子、秋永 絹子、池田 隆司、稲益 元之、井上 吉清、岩橋彦左衛門、太江田博子、川島絵津子、川野 洋之、川原 初美、川原 光貴、紀伊 一慶、北原 優、黒岩 秀則、古賀 守、小林伸一郎、佐藤 陽一、清水 一則、進上 裕永、高尾 春代、高崎 佳枝、田中 樹子、永田 徹、永野 高弘、中村 麻衣、原 学、廣田 淳、福田 孝利、藤木 幸子、舟越 朝菜、本荘 郁子、松尾 朱美、松本 金一、丸山 幸、溝口 輝男、箕浦 イルマ・グラシエラ 桂子、宮原 眞助、山口 英志、山口 誠也、山崎 秀雄、渡辺 しげ子

### 会計年度任用職員（出土品整理作業員）

江口 里織、大津山恵津子、田中千佐子、野間口靖子、原口 節美、山元 博子

## 3. 調査の経過

今回の調査の目的は、縄文時代と古代の遺構の広がりを確認することであった。

今回の調査面積が3,000㎡と広大であり、一度に全ての表土を剥ぐことは、安全管理上不適当であることから、Ⅰ～Ⅴ区に分けて調査を行った。表土剥ぎや空中写真撮影の予定の関係上、複数の調査区を並行して調査を行った期間もある。以下、簡略に調査の経過を記す。

令和3年12月1日

ユニットハウス・簡易水洗トイレ搬入  
重機による表土剥ぎ（Ⅰ区）

令和4年1月25日～26日

重機による表土剥ぎ（Ⅱ区）

令和4年2月9日

空中写真撮影（Ⅰ区）

Ⅰ区調査終了

令和4年2月16日～18日

重機による表土剥ぎ（Ⅲ区）

令和4年3月3日

空中写真撮影（Ⅱ区）

Ⅱ区調査終了

令和4年3月24日

機材撤収

令和3年度の調査終了

令和4年3月31日

令和3年度調査委託契約終了

令和4年4月

令和4年度調査委託契約締結

令和4年4月11日

ユニットハウス・簡易水洗トイレ搬入

令和4年4月12日～13日

重機による表土剥ぎ（Ⅳ・Ⅴ区）

令和4年5月20日

空中写真撮影（Ⅲ区）

Ⅲ区調査終了

令和4年6月17日

空中写真撮影（Ⅳ・Ⅴ区）

機材撤収し、調査終了

## II. 位置と環境

久留米市は、筑紫平野の中央に位置し、筑後川の中・下流域に面する。筑後川は宝満川と合流して流れを南西へと変え、その左岸には筑後川や金丸川、広川によって形成された氾濫平野が広がる。氾濫平野の東側には津福本町から大善寺町にかけて標高 10 m 程の台地がある。この台地は浸食によって谷が入り、台地の中でも広狭がある。この台地の一番西に上野遺跡・塚畑遺跡・女堀遺跡・野畑遺跡・安武三反野遺跡などの遺跡群が所在し、この遺跡群の谷を挟んだ東側の台地に庄屋野遺跡は展開する。庄屋野遺跡の南側には南北方向の谷が入り、台地の幅は狭まるが、南西方面に至ると幅が広くなり、そこに野瀬塚遺跡・坂本遺跡・今泉遺跡などの遺跡群が所在する。

安武町や大善寺町の北部については 1980 年代後半～90 年代の圃場整備等によって発掘調査が行われ、旧石器時代から近世に至るまでの成果が蓄積されている。以下、今回の調査で検出した遺構の主な時代である縄文時代から古代の状況を中心に述べる。

周辺での最古の遺物は、庄屋野遺跡や穴口遺跡で出土した細石刃核や細石刃、城崎遺跡で出土した彫器といった旧石器である。いずれも後世の遺構への混入品だが、台地が狩場として利用されたとみられる。

縄文時代の遺構として、落とし穴状遺構が挙げられる。念仏塚遺跡や道蔵遺跡、筒川遺跡で検出された他、庄屋野遺跡、穴口遺跡、古牟田遺跡、野畑遺跡、野瀬塚遺跡、今泉遺跡、坂本遺跡では落とし穴状遺構が列状に配置され、台地上での獣道に沿った狩猟を示唆するものと考えられている。ただし、落とし穴状遺構以外の遺構は確認されていない。時期が明確な遺物は庄屋野遺跡の落とし穴状遺構から出土した早期の押型文土器と晩期の土器の破片である。

弥生時代に入ると、集落域と墓域を確認することができる。まず、集落域について述べる。前期では、城崎遺跡、野畑遺跡、塚畑遺跡、坂本遺跡といった遺跡群から土坑や貯蔵穴、竪穴住居が検出された。汐入遺跡、碓遺跡、道蔵遺跡からも竪穴住居や土坑が検出されており、それぞれの台地上に集落が展開したようである。前期末には、今泉遺跡で竪穴住居 20 軒と土坑 23 基が馬蹄状に配置された。また、中期初頭の遺構としては、庄屋野遺跡の台地北端を廻る大溝があり、環濠集落の存在が推測される。中期前半では、東鳥遺跡で 22 軒の竪穴住居が確認された。他にも、酢正免遺跡や安武三反野遺跡、道蔵遺跡で土坑が検出されている。中期後半では、道蔵遺跡で溝や土坑、筒川遺跡で土坑が検出された。後期に入ると、塚畑遺跡と道蔵遺跡で環濠を伴う集落が営まれる。道蔵遺跡は、大正 3 年（1914）に出土したとされる広形銅戈や韓式土器、青銅製ヤリガンナ等の出土物から拠点集落と考えられている。他にも上野遺跡と庄屋野遺跡で竪穴住居、押方遺跡で竪穴住居と掘立柱建物、碓遺跡の掘立柱建物や溝、井戸、土坑群などがある。安武三反野遺跡では 39 棟の掘立柱建物と大溝が検出されており、塚畑遺跡を中心とした集落域の南限を示すものと考えられる。前期末から終末期にかけ、野畑遺跡で掘立柱建物と土坑が分布し、塚畑遺跡の大溝と同

方向の溝が検出されている。

弥生時代の墓域としては、前期の酢正免遺跡の土壌墓や前期末の安武三反野遺跡の壺棺墓群、汐入遺跡の木棺墓や土壌墓などが挙げられる。中期では、安武三反野遺跡や汐入遺跡、筒川遺跡、道蔵遺跡、東鳥遺跡で甕棺墓が確認されている。特に汐入遺跡では計 27 基の甕棺墓が集落を囲むように台地周縁部を囲う様相がみられた。後期の墓域としては、中期から継続して安武三反野遺跡で甕棺墓や石蓋土壌墓が確認され、特に裏面に「+」字形が複数線刻された石蓋が目される。

古墳時代になると、『日本書紀』に登場する水沼君の奥津城とされる国指定史跡「御塚・権現塚古墳」の築造を契機として、数多くの古墳が築造されたが、追分古墳、往還西古墳、糠尾古墳群以外の大半は調査を経ずに大正時代の耕地整理により消滅した。先述した 5 世紀後半の全長 78 m の帆立貝式古墳である御塚古墳、6 世紀前半の径 50 m の円墳である権現塚古墳、そして 6 世紀前半以降の前方後円墳と伝わる銚子塚古墳が首長墓だと考えられている。古墳以外の墳墓については、坂本遺跡で土壌墓 23 基と石棺墓 1 基、汐入遺跡で鉄鏃を副葬した土壌墓が検出された。庄屋野遺跡周辺の古墳時代の集落としては、宮ノ木遺跡の 6 世紀代の溝などが挙げられる。

律令期の安武町一帯は『倭名類聚抄』によると筑後国三瀨郡にあたり、「田家郷」に比定される。道蔵遺跡では正方位に配置された 8 世紀後半～9 世紀の建物群や 8 世紀末～9 世紀後半の道路遺構が検出され、越州窯系青磁碗や緑釉陶器、陶硯、「三万」「三万領」「大領」と書かれた墨書土器なども出土したことから、三瀨郡衙の可能性が指摘されている。野畑遺跡から今泉遺跡にかけて、8 世紀～9 世紀の官衙関連施設や工房、在地有力者の居宅等様々な性格が想定される建物群が所在する。野畑遺跡では総柱建物に伴う 30 棟近い建物群が検出され、土坑から「大印」「小印」と記した刻書土器が出土した。念仏塚遺跡では正方位の建物群や多重の耳皿、「大印」「南宅氏」と記した墨書土器が出土した。今泉遺跡では 8 世紀後半～9 世紀初頭の掘立柱建物と目隠し塙、井戸を検出した。野瀬塚遺跡では、二彩陶器や「三万大領」「因領」「三万少」と書かれた墨書土器、鞆羽口が出土した。庄屋野遺跡はこれらの遺跡群から北へ約 600～900 m のところに位置しており、1・2 次調査では雨落ち溝を有する 2 間×3 間の東西棟建物を検出し、8 世紀後半を中心とした遺物や見込み「主」と刻書された土師器が出土した。この他にも 8 世紀から 10 世紀にかけて天神免遺跡で館跡、宮ノ木遺跡や酢正免遺跡、寺島遺跡、杉ノ本遺跡、夫婦塚遺跡、伽藍田遺跡、御供田遺跡で遺構が見つっている。なお、念仏塚遺跡では焼土・炭を含む 9 世紀～10 世紀代の遺構や鉄滓や鞆羽口が出土しており、鍛冶が行われたと推定されている。

『日本書紀』巻第二十九には、天武天皇七年(678)12月に筑紫国で大地震、いわゆる「筑紫大地震」が発生したと記されている。これは、耳納山地北麓の水縄断層が活動したことによるもので、安武町一帯でも、庄屋野遺跡や女堀遺跡、城崎遺跡、西鳥遺跡、東鳥遺跡、礎遺跡で地割れ痕跡や噴砂痕が検出されている。特に東鳥遺跡では、埋没した弥生時代の竪穴住居から地割れが確認され、伏せて埋まった弥生土器が地割れによって二分された状態で出土した。



### Ⅲ. 調査の記録

#### 1. 検出遺構

調査地は台地の東斜面に位置し、南西方向から北東方向へ向かって傾斜する。東側は谷に面している。標高は、9.0 m～9.9 mである。遺構面までの深さは0.2～1.0 mで、Ⅲ区の西壁が最も深い。

主な検出遺構は、柵列、掘立柱建物、井戸、土坑である。

##### 柵列

##### SA 701 (第9図、図版3)

Ⅱ区西部で検出した柵列である。南北3間(5.3 m)であるが、南側へさらに延びる可能性がある。柱間は1.7～1.8 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.4 m、深さ0.4～0.5 mを測る。P 2・3は柱痕があり、直径10～20 cmである。主軸方位はN-12.7°-Wである。なお、西側のⅣ区に対応するピットはなかったものの、東側にあるピットと対応し、掘立柱建物を構成する可能性はある。遺物は、P 1・2・4から土師器の甕が出土している。

##### 掘立柱建物

##### SB 573 (第9図、図版3)

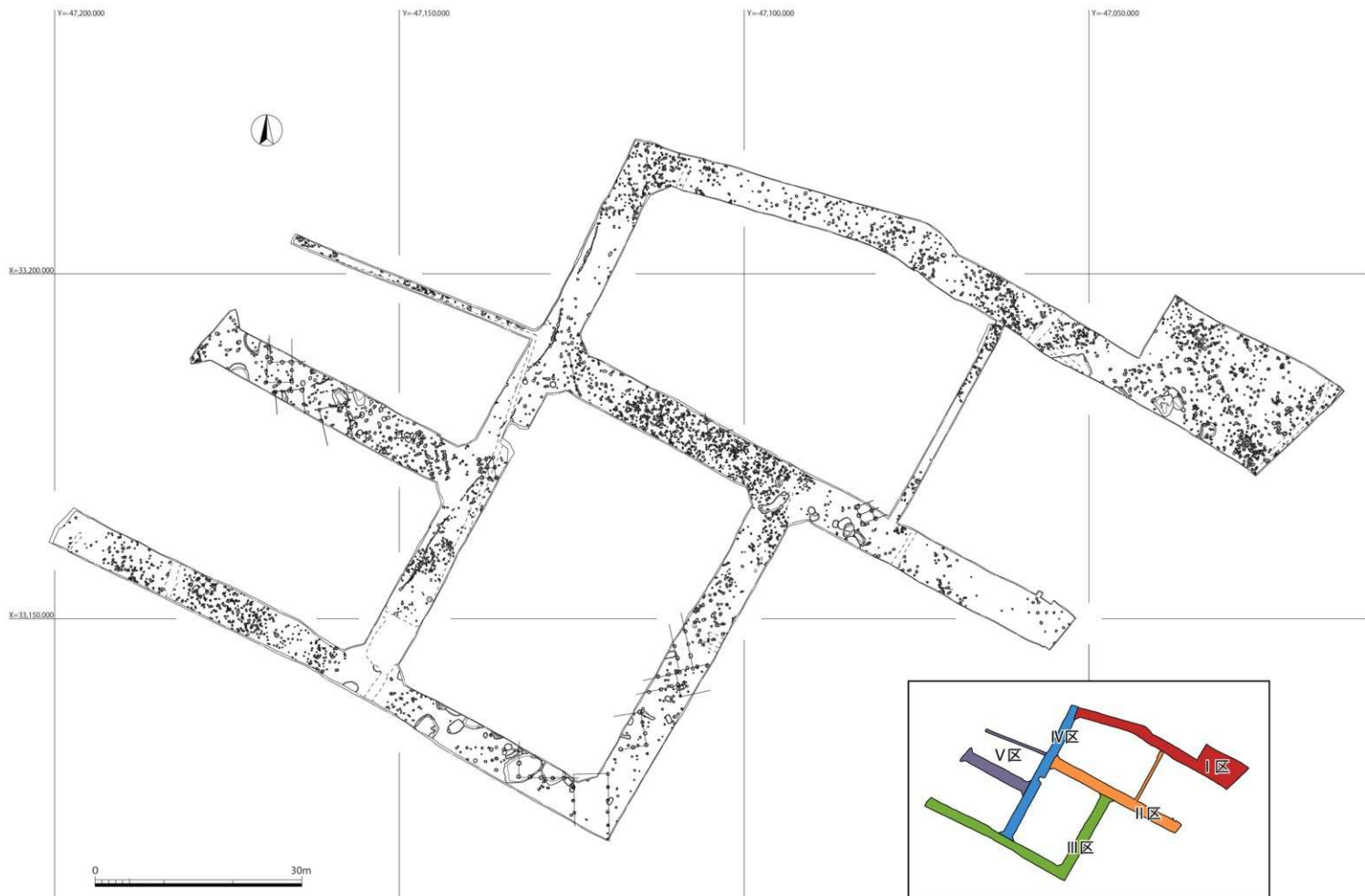
Ⅱ区東部で検出した総柱建物である。南北2間(2.6 m)、東西1間(2.0 m)以上の規模を有する。柱間は南北1.3 m等間、東西2.0 m等間である。柱掘方の平面形は円形・不整形円形・隅丸長方形を成し、直径0.6～0.8 m、深さ0.4～0.6 mを測る。主軸方位はN-20.4°-Wである。遺物は、P 1から土師器の坏・甕、須恵器の坏、刀子、P 2・3・5から土師器の坏・甕、P 4から土師器の坏・埴・甕が出土している。

##### SB 702 (第9図)

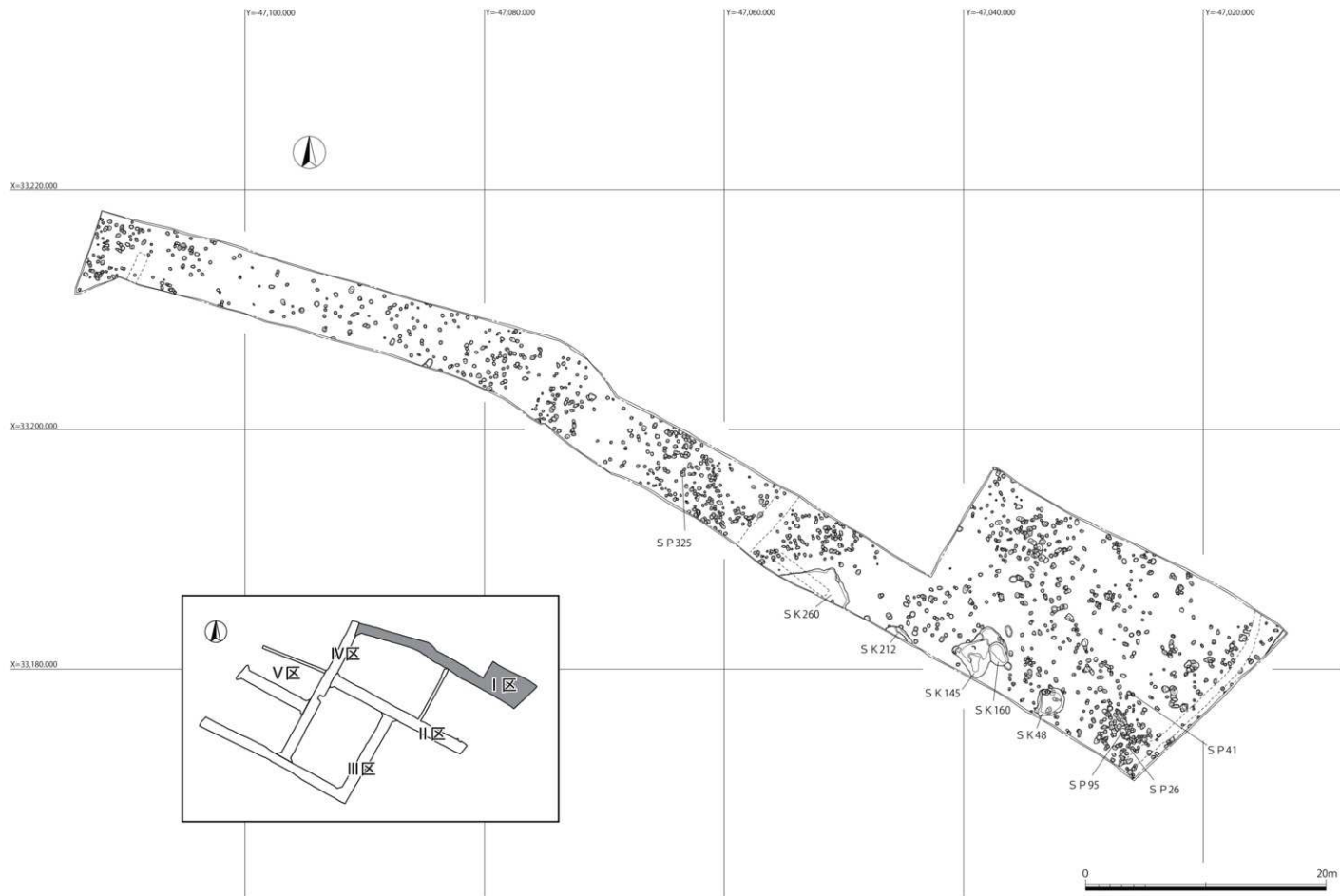
Ⅱ区西部で検出した掘立柱建物である。南北1間(1.6 m)以上、東西1間(1.5 m)以上の規模を有する。柱掘方は円形を成し、直径0.5～0.6 m、深さ0.5 mを測る。主軸方位はN-8.7°-Wである。遺物は、P 1・2から土師器の甕が出土している。

##### SB 804 (第10図、図版3)

Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南・東側に廂もしくは目隠し塀がつくものとみられる。身舎の規模は、南北2間(4.0 m)以上、東西2間(3.3 m)以上であり、柱間は南北2.0 m等間、東西1.6～1.7 mである。柱掘方は円形を成し、直径0.4～0.5 m、深さ0.1～0.5 mを測る。P 1・3で柱痕を確認しており、直径0.1～0.2 mである。廂もしくは目隠し塀の規模は南北3間(5.6 m)以上、東西3間(5.3 m)以上であり、柱間は南北1.6～2.0 m、東西1.7～1.8 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは隅丸長方形を成し、直径0.4～0.6 m、深さ0.2～0.4 mを測る。P 1・3・6～8・12・13で柱痕を確認しており、直径10～20 cmである。主軸方位はN-10.9°-Wである。SB 805と重複関係にあり、SB 805に後出する。P 1柱痕から土師器の坏・甕、P 2掘方から

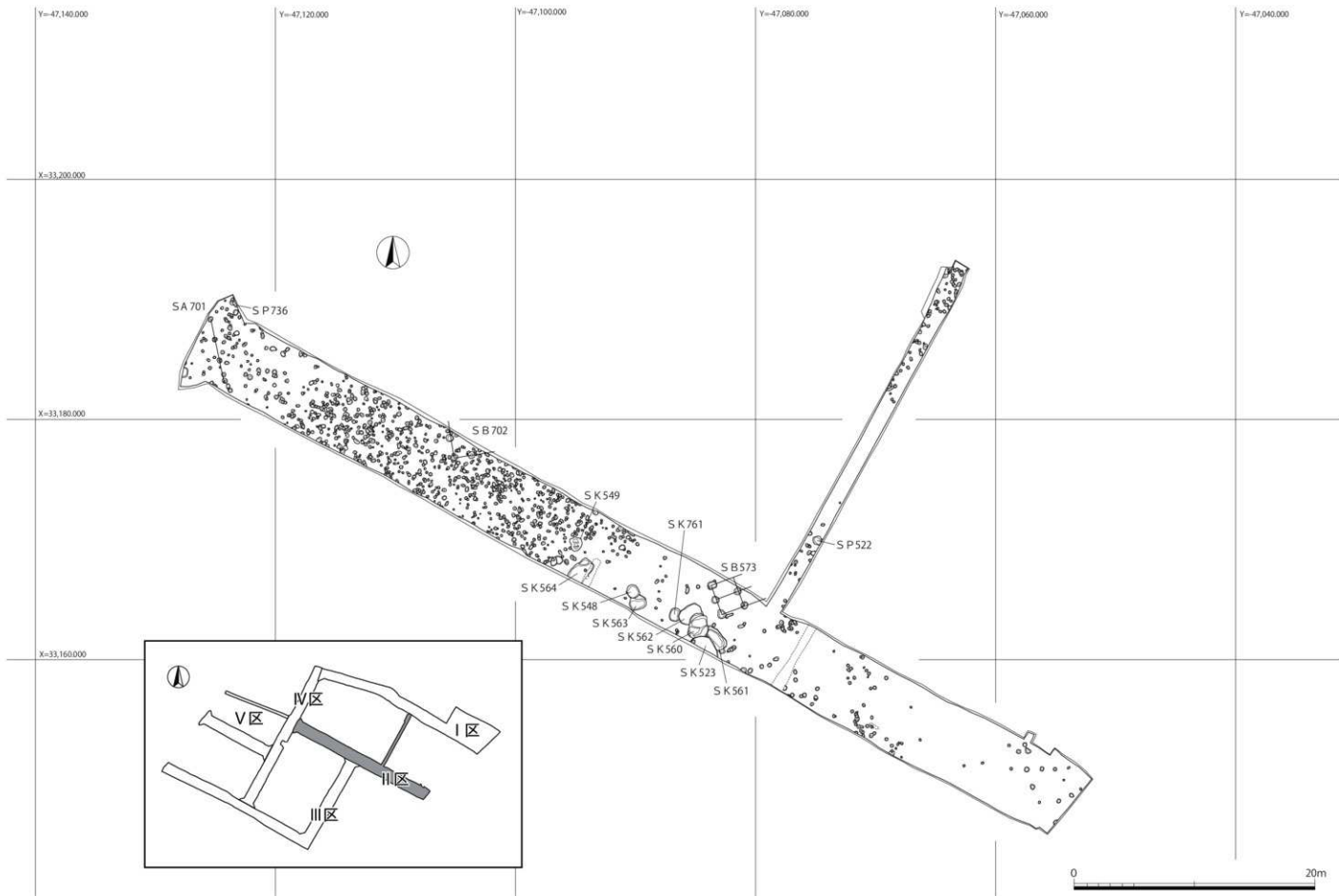


第3圖 遺構配置圖(1/500)



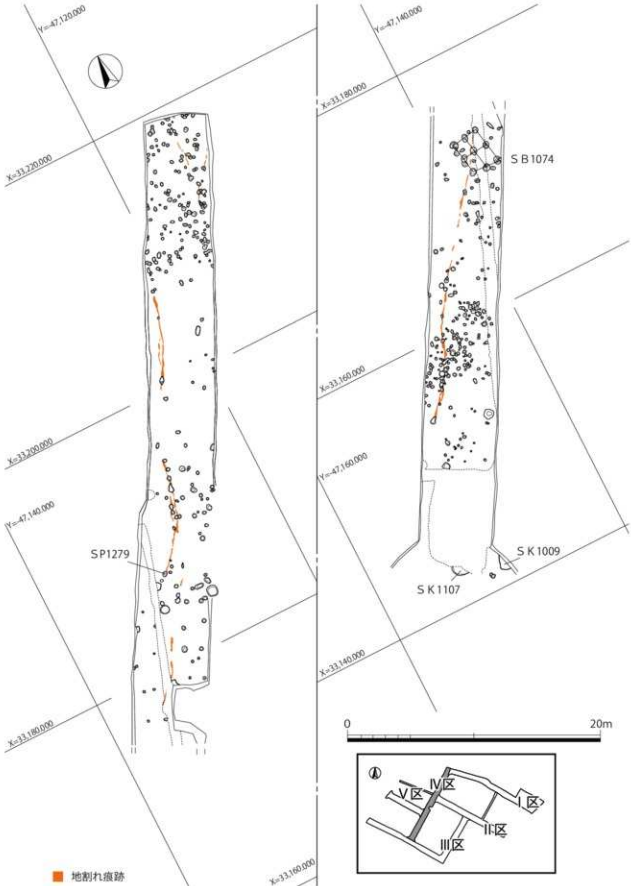
第4图 I区遺構配置図(1/300)





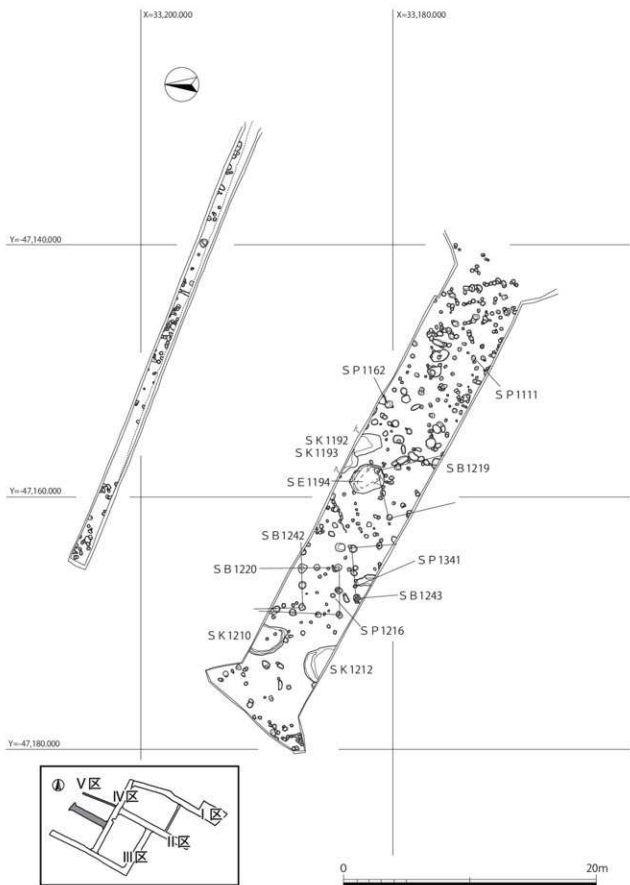
第5图 II区遗址配置图(1/300)



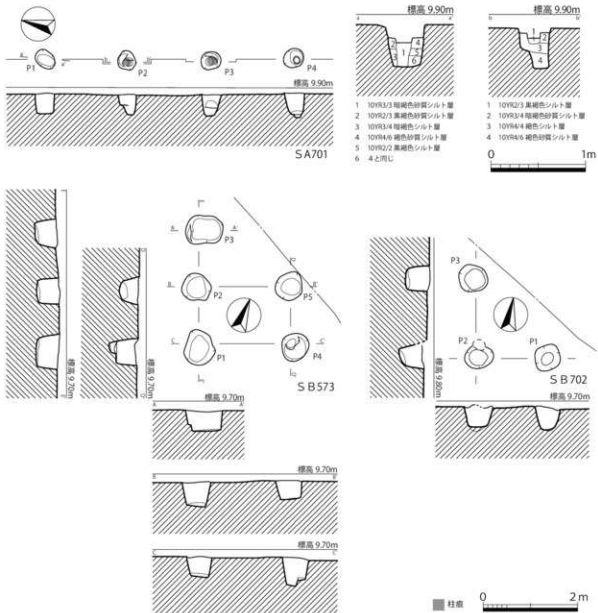


第7図 IV区遺構配置図 (1/300)

Ⅲ. 調査の記録



第8図 V区遺構配置図 (1/300)



第9図 SA 701、SB 573・702実測図 (1/80、土層断面図は1/40)

土師器の坏・埴・甕、須恵器の蓋・甕、粘土塊、P 2から土師器の坏・甕、須恵器の蓋・甕、粘土塊、P 3・P 7掘方・P 8掘方・P 12から土師器の坏・甕、P 4から土師器の坏・甕、須恵器の蓋、P 6柱痕から土師器の甕、P 6掘方から土師器の蓋・坏・甕、P 9から土師器の甕、P 11から土師器の甕、須恵器の坏、P 13から土師器の蓋・坏・甕、須恵器の甕が出土している。

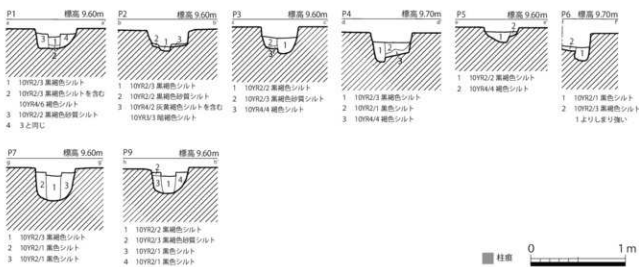
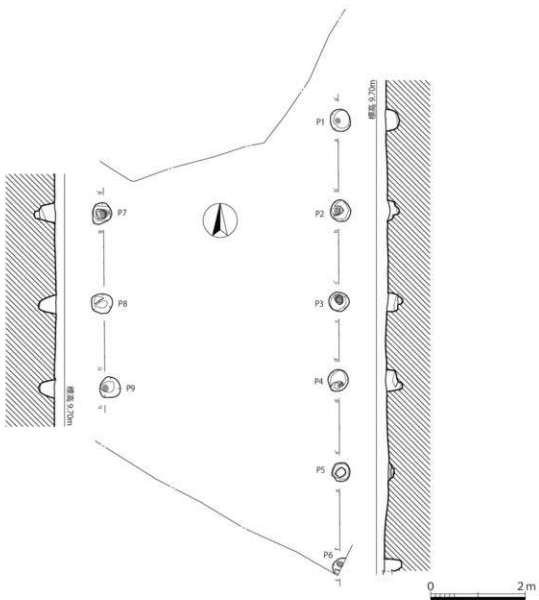
SB 805 (第11図、図版3・4)

Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南北2間(3.6m)、東西3間(4.8m)以上の規模を有し、東西棟とみられる。柱間は南北1.6~2.0m、東西1.5~1.8mである。柱掘方の平面形は円形を成し、直径0.4~0.6m、深さ0.1~0.5mを測る。P 1・2・4・5で柱痕を確認しており、直径20~30cmである。主軸方位はN-100.3°-Wである。SB 804と重複関係にあり、SB 804に先行する。遺物は、P 1柱痕・P 4から土師器の坏・甕、P 1掘方から土師器の甕、P 2掘方から



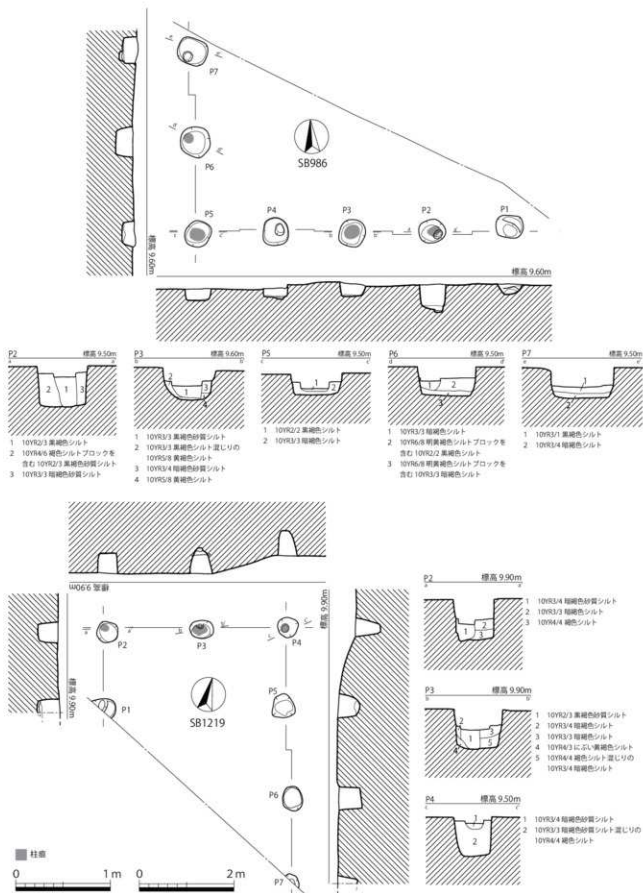


III. 調査の記録



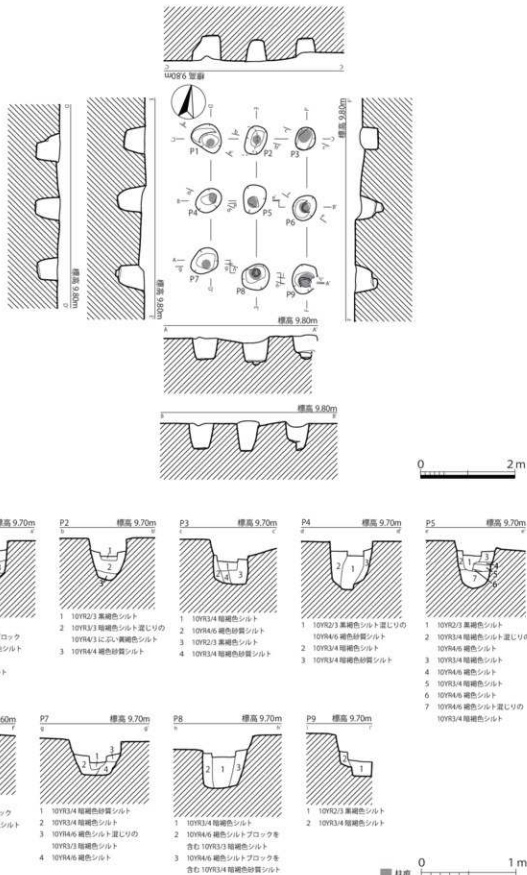
第12図 S B 836 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)





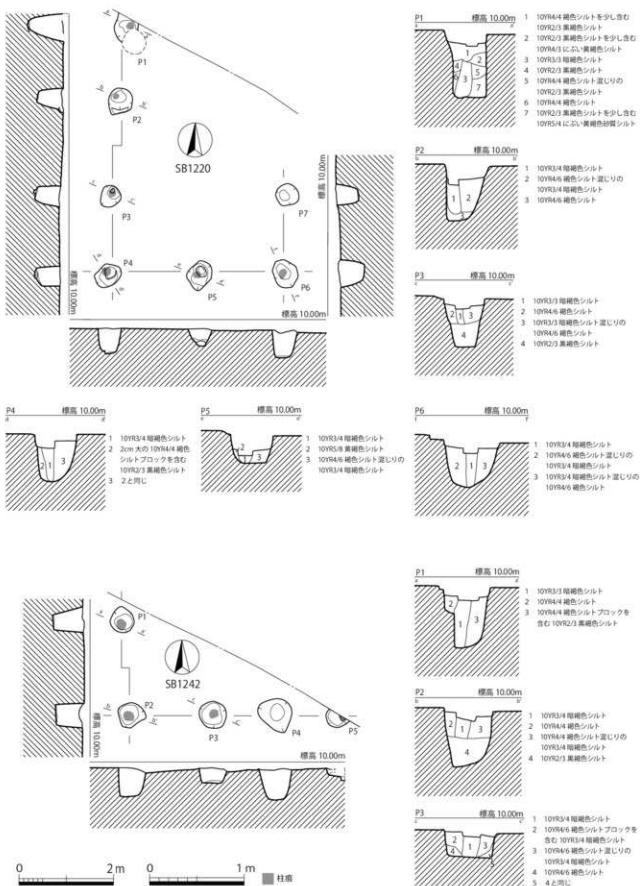
第 13 図 S B 986・1219 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

III. 調査の記録



第 14 図 S B 1074 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)

III. 調査の記録



第15図 S B 1220・1242 実測図 (1/80、土層断面図は 1/40)



土師器の坏・甕、須恵器の坏、P 5から土師器の坏・埴・甕、須恵器の蓋・坏、粘土塊、P 6柱痕・掘方から土師器の甕が出土している。

#### SB 813 (第11図、図版4)

Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南北3間(4.9 m)以上、東西2間(3.8 m)以上の規模を有する。柱間は南北1.6～1.7 m、東西1.9 m等間である。柱掘方の平面形は円形を成し、直径0.5～0.6 m、深さ0.2～0.4 mを測る。全ての柱穴で柱痕を確認しており、直径20cmである。主軸方位はN 11.8°-Wである。遺物は、P 1・6から土師器の坏・甕、P 4・5から土師器の甕が出土した。

#### SB 836 (第12図、図版4・5)

Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南北5間(9.3 m)以上の規模を有し、南北棟とみられるが、妻柱列を検出できていないため、平行関係にある2条の櫛列である可能性もある。なお、側柱列間の心々距離は5 mである。柱間は南北1.8～1.9 mである。柱掘方の平面形は円形を成し、直径0.4 m、深さ0.1～0.4 mを測る。P 1～4・6～7・9で柱痕を確認しており、直径10～20cmである。主軸方位はN-0.2°-Eである。遺物は、P 2から土師器の坏、P 7掘方から土師器の坏・甕、須恵器の坏、P 8・9から土師器の甕が出土した。

#### SB 986 (第13図、図版5)

Ⅲ区東部で検出した掘立柱建物である。南北2間(3.7 m)以上、東西4間(6.7 m)以上の規模を有し、東西棟建物とみられる。柱間は南北1.7～2.0 m、東西1.5～1.8 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは隅丸長方形を成し、直径0.6 m、深さ0.2～0.6 mを測る。P 2・3・5・6で柱痕を確認しており、直径20～30cmである。主軸方位はN-93.7°-Eである。SK 882と重複関係にあり、SK 882に後出する。遺物は、P 2から土師器の蓋・坏・甕、須恵器の蓋、P 3から土師器の蓋・坏・埴・甕、須恵器の蓋、P 4掘方から土師器の蓋・坏・埴・甕、須恵器の蓋、刀子、P 5から土師器の坏・甕、P 6柱痕から土師器の蓋・坏、P 6掘方から土師器の坏・甕、須恵器の坏、P 7柱痕・掘方から土師器の坏、P 8柱痕から土師器の坏、P 8掘方から土師器の蓋・坏・高坏・甕、須恵器の蓋が出土した。

#### SB 1074 (第14図、図版5)

Ⅳ区中央部で検出した総柱建物である。南北2間(2.6～3.1 m)、東西2間(2.0 m)の規模を有する。柱間は南北1.2～1.6 m、東西0.8～1.2 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.5～0.7 m、深さ0.4～0.6 mを測る。全ての柱穴で柱痕を確認しており、直径20～30cmである。主軸方位はN-9.4°-Wである。遺物は、P 3柱痕から須恵器の甕、P 5から土師器の甕、須恵器の蓋、P 8から土師器の坏・甕が出土した。

#### SB 1219 (第13図、図版5)

Ⅴ区中央部で検出した掘立柱建物である。南北3間(5.4 m)以上、東西2間(3.8 m)の規模を有し、南北棟建物とみられる。柱間は南北1.7～1.9 m、東西1.8～2.0 mである。柱掘方の平面形は円

### Ⅲ. 調査の記録

形もしくは楕円形を成し、直径0.4～0.5 m、深さ0.4～0.5 mを測る。P 2～4で柱痕を確認しており、直径10～30cmである。主軸方位はN-13.1°-Wである。S E 1194と重複関係にあり、S E 1194に後出する。遺物は、P 1から土師器の坏・甕、P 2から土師器の坏、P 3柱痕から土師器の甕、P 3掘方から土師器の坏・甕が出土した。

#### S B 1220 (第15図、図版5・6)

V区中央部で検出した掘立柱建物である。南北3間(5.3 m)以上、東西2間(3.7 m)の規模を有し、南北棟建物とみられる。柱間は南北1.6～2.1 m、東西1.8～1.9 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.5～0.6 m、深さ0.4～0.7 mを測る。P 1～P 6で柱痕を確認しており、直径10～20cmである。主軸方位はN-1.0°-Wである。S B 1242と重複関係にあり、S B 1242に先行する。遺物は、P 1掘方・P 2・P 6から土師器の坏、P 3柱痕・掘方から土師器の甕、P 4掘方から土師器の甕、P 5掘方から土師器の坏が出土した。

#### S B 1242 (第15図)

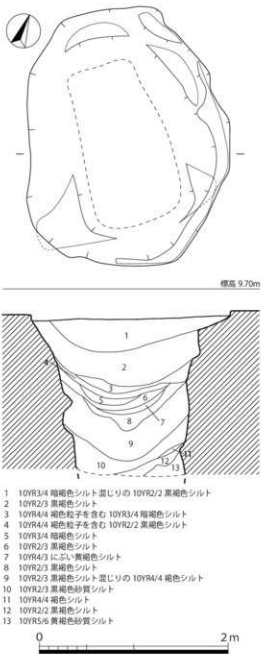
V区中央部で検出した掘立柱建物である。南北1間(1.9 m)以上、東西3間(4.5 m)以上の規模を有する。柱間は東西1.3～1.8 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは不整形円形を成し、直径0.5～0.6 m、深さ0.2～0.6 mを測る。P 1～3・5で柱痕を確認しており、直径20cmである。主軸方位はN-0.8°-Wである。S B 1220と重複関係にあり、S B 1220に後出する。遺物は、P 1掘方・P 3～5から土師器の坏が出土した。

#### S B 1243 (第16図、図版6)

V区中央部で検出した掘立柱建物である。南北1間(2.0 m)以上、東西2間(4.0 m)以上の規模を有する。柱間は東西2.0 m等間である。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.4～0.7 m、深さ0.6～0.8 mを測る。P 1・2・4で柱痕を確認しており、直径20cmである。主軸方位はN-4.7°-Wである。遺物は、P 4から土師器の坏・甕、P 5から土師器の甕が出土した。

#### S B 1345 (第16図、図版6)

Ⅲ区西部で検出した総柱建物である。南北2間(2.2



- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 混じりの 10YR2/2 黒褐色シルト
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト
- 3 10YR4/4 褐色粒子を含む 10YR3/4 暗褐色シルト
- 4 10YR4/4 褐色粒子を含む 10YR2/2 黒褐色シルト
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト
- 6 10YR2/3 黒褐色シルト
- 7 10YR4/3 に近い黄褐色シルト
- 8 10YR2/3 黒褐色シルト
- 9 10YR2/3 黒褐色シルト 混じりの 10YR4/4 褐色シルト
- 10 10YR2/3 黒褐色砂質シルト
- 11 10YR4/4 褐色シルト
- 12 10YR2/2 黒褐色シルト
- 13 10YR5/6 黄褐色砂質シルト

第17図 S E 1194 土層断面図 (1/40)

m)、東西2間(2.4～2.5 m)の規模を有する。柱間は南北1.0～1.2 m、東西0.9～1.5 mである。柱掘方の平面形は円形もしくは楕円形を成し、直径0.4～0.5 m、深さ0.3～0.6 mを測る。P 5・P 6で柱痕を確認しており、直径20cmである。主軸方位はN-37.5°-Wである。遺物は出土していない。

#### 井戸

##### SE 1194 (第17図、図版6)

V区中央部で検出した素掘りの井戸である。平面形は楕円形を呈し、長軸2.7 m、短軸2.1 mを測る。人力で1.6 mまで掘削し、その後重機で断ち割ろうと試みたが、湧水が激しく掘削できなかった。水位の上下によるものか、壁が抉れている個所が2箇所ほどあった。SB 1219に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕・壺、粘土塊が出土した。

#### 土坑

##### SK 48 (第18図、図版6)

I区東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸2.3 m、短軸2.2 m、深さ0.6 mを測る。西側に幅0.1～0.2 m、深さ0.1 mほどの段を有する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・甕・把手、須恵器の蓋・坏・皿・甕が出土した。

##### SK 145 (第19図、図版7)

I区東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸3.8 m、短軸2.4 m、深さ0.6 mを測る。底面はフラットではなく、いくつかの段を有する。SK 160に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・高坏・甕、須恵器の蓋・坏・高坏・甕・壺、粘土塊が出土した。

##### SK 160 (第18図)

I区東部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸2.0 m、短軸1.4 m、深さ0.5 mを測る。SK 145に後出する。遺物は、土師器の坏・皿・高坏・甕、須恵器の蓋・坏が出土した。

##### SK 212 (第18図、図版7)

I区東部で検出した平面形が楕円形とみられる土坑である。南部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸2.1 m、短軸0.7 m以上、深さ0.4 mを測る。底面付近から土師器の坏が2点出土した。他に、土師器の蓋・皿・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・甕が出土した。

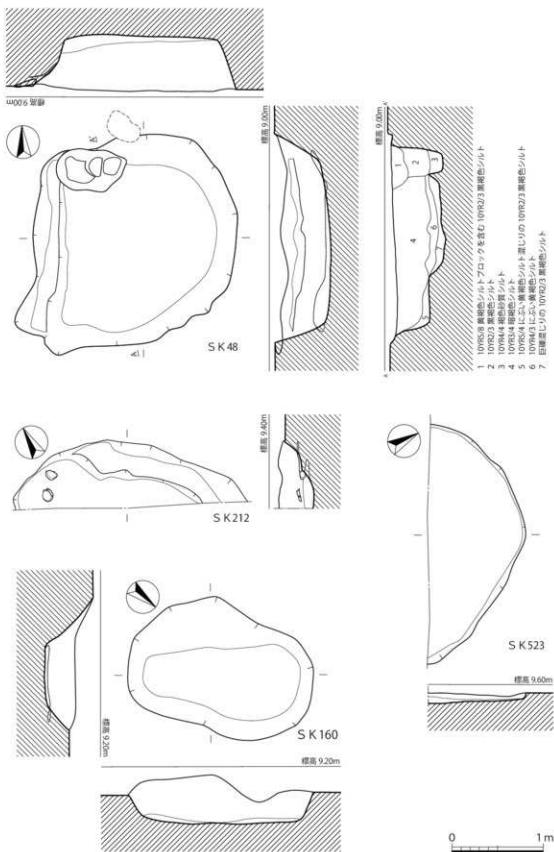
##### SK 260 (第20図、図版7)

I区中央部で検出した平面形が方形とみられる土坑である。東部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長辺4.7 m以上、短辺3.0 m以上、深さ0.3 mを測る。2層から3層にかけて土師器の坏や須恵器の蓋・坏などが投棄されていた。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・壺・高坏・鉢・甕・壺・甗・把手、須恵器の蓋・坏・皿・甕・壺、土錘、粘土塊、鉄製鋤先が出土した。

##### SK 523 (第18図、図版7)

II区中央部で検出した平面形が円形とみられる土坑である。南部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸2.6 m、短軸1.1 m以上、深さ0.1 mを測る。SK 560・561に後出

III. 調査の記録



第 18 図 SK 48・160・212・523 実測図 (1/40)



する。遺物は、土師器の坏・甕・甔、須恵器の坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 548 (第 21 図、図版 7)

Ⅱ区中央部で検出した平面形が円形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 1.0 m、深さ 0.2 m を測る。S K 563 に後出する。遺物は、土師器の坏・埴・甕、須恵器の甕、鉄釘が出土した。

S K 549 (第 21 図、図版 8)

Ⅱ区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸 1.2 m、短軸 0.9 m、深さ 0.6 m を測る。底面の北側と南側に幅 10～30cm 程の段を有する。遺物は、土師器の坏・埴・甕、須恵器の蓋・甕、粘土塊、刀子が出土した。

S K 560 (第 21 図、図版 8)

Ⅱ区中央部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 2.1 m、短軸 1.6 m、深さ 0.7 m を測る。南側に 2 段の、北側に 1 段のテラスを有する。S K 523 に先行し、S K 561・562 に後出する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊、刀子が出土した。

S K 561 (第 22 図、図版 8)

Ⅱ区中央部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 2.2 m、短軸 1.1 m、深さ 0.6 m を測る。S K 523・560 に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊、刀子が出土した。

S K 562 (第 22 図、図版 8)

Ⅱ区中央部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 2.0 m、短軸 1.3 m、深さ 0.5 m を測る。S K 560 に先行し、S K 761 に後出する。遺物は、土師器の蓋・坏・埴・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 563 (第 22 図、図版 8)

Ⅱ区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸 1.4 m、短軸 1.1 m、深さ 0.2 m を測る。北側に深さ 0.1 m の段を有する。南側の下端に沿って焼土塊を検出し、何らかの物質を焼成したと考えられる。S K 548 に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・甕、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊、炭化物が出土した。

S K 564 (第 22 図、図版 8)

Ⅱ区中央部・Ⅲ区北部で検出した溝状の土坑である。長さ 4.5 m、幅 1.5 m、深さ 0.3 m を測る。遺物は、土師器の坏・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕・壺、粘土塊が出土した。

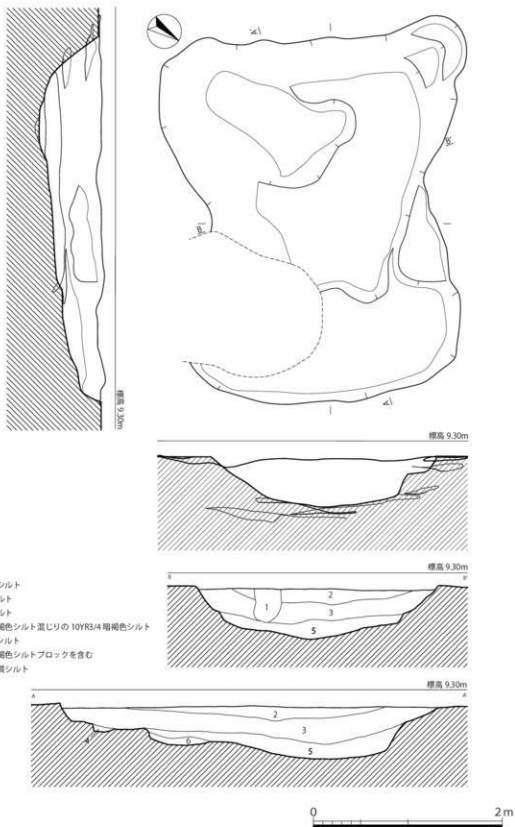
S K 761 (第 22 図、図版 8)

Ⅱ区中央部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深さ 0.3 m を測る。S K 562 に先行する。遺物は、土師器の坏・高坏・甕、粘土塊が出土した。

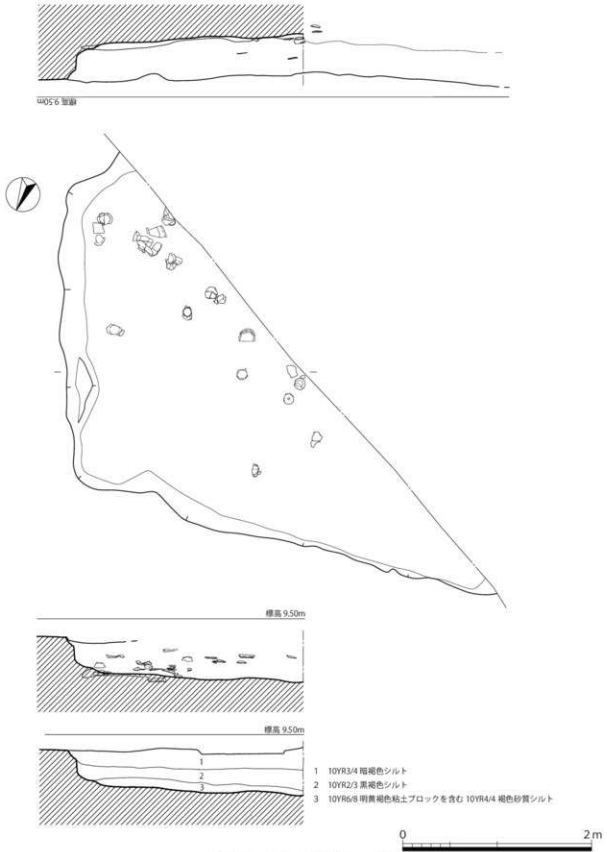
S K 833 (第 23 図、図版 9)

Ⅲ区東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深さ 0.6 m を測る。遺物は出土していないが、平面形と埋土が暗褐色を呈することから落とし穴遺構と判断した。

III. 調査の記録

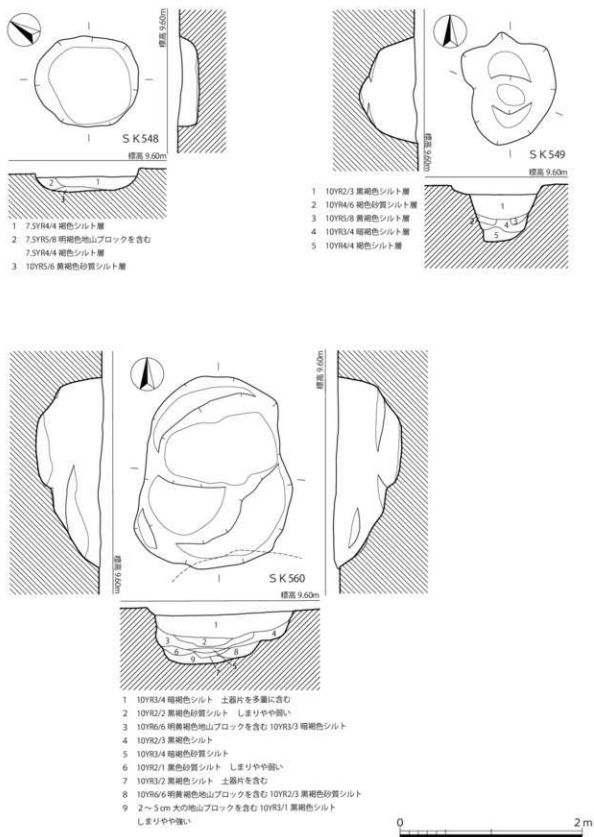


第 19 図 S K 145 実測図 (1/40)

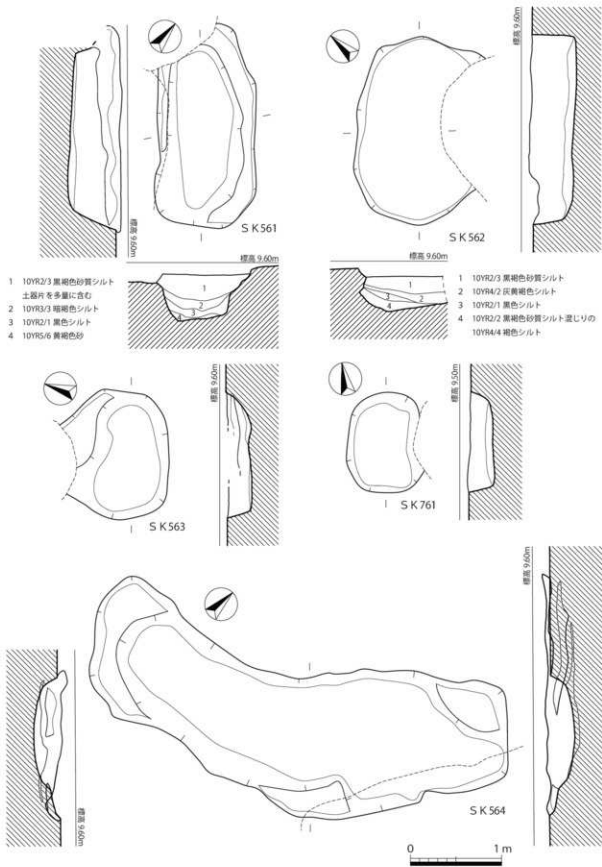


第 20 図 S K 260 実測図 (1/40)

Ⅲ. 調査の記録

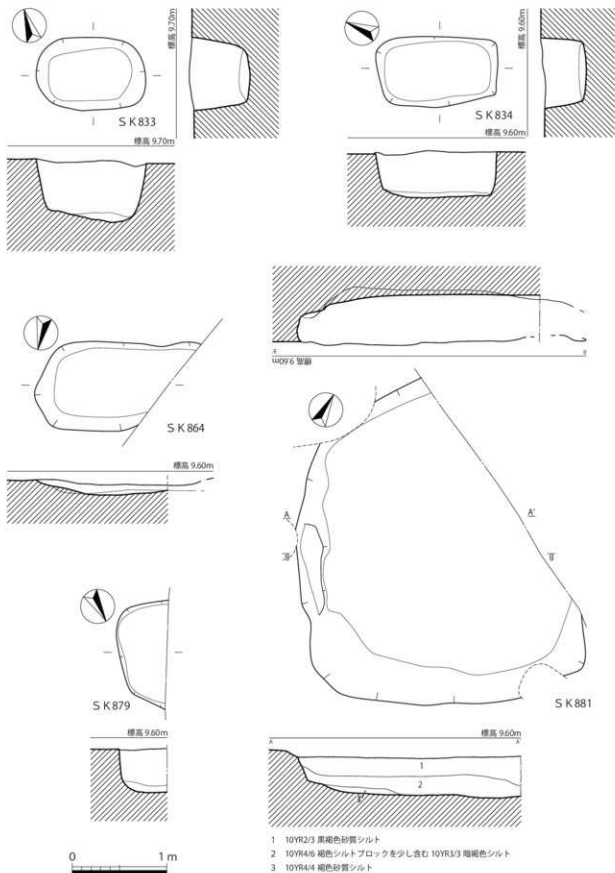


第 21 図 S K 548・549・560 実測図 (1/40)

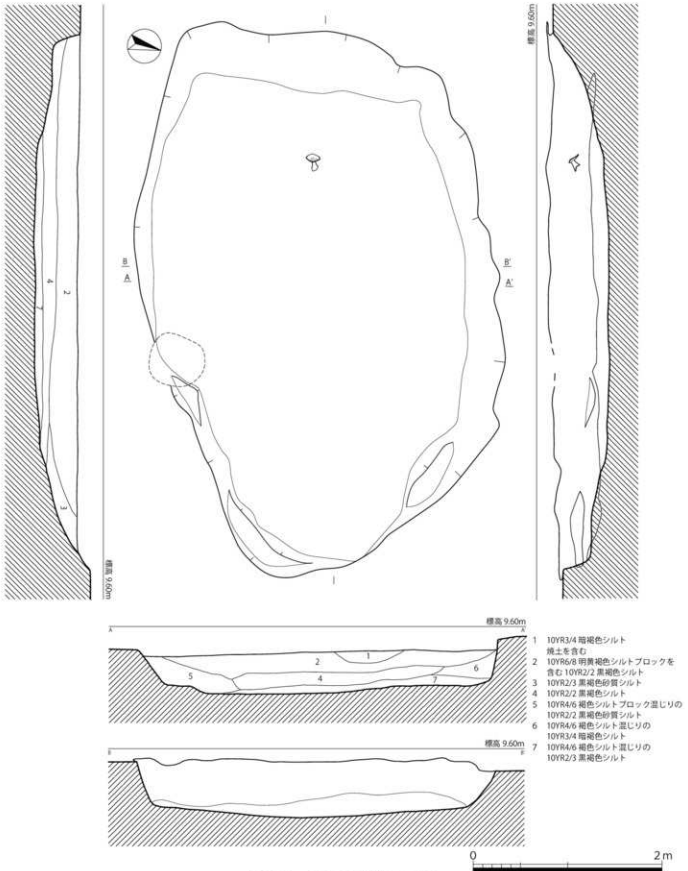


第 22 図 S K 561・562・563・564・761 実測図 (1/40)

III. 調査の記録

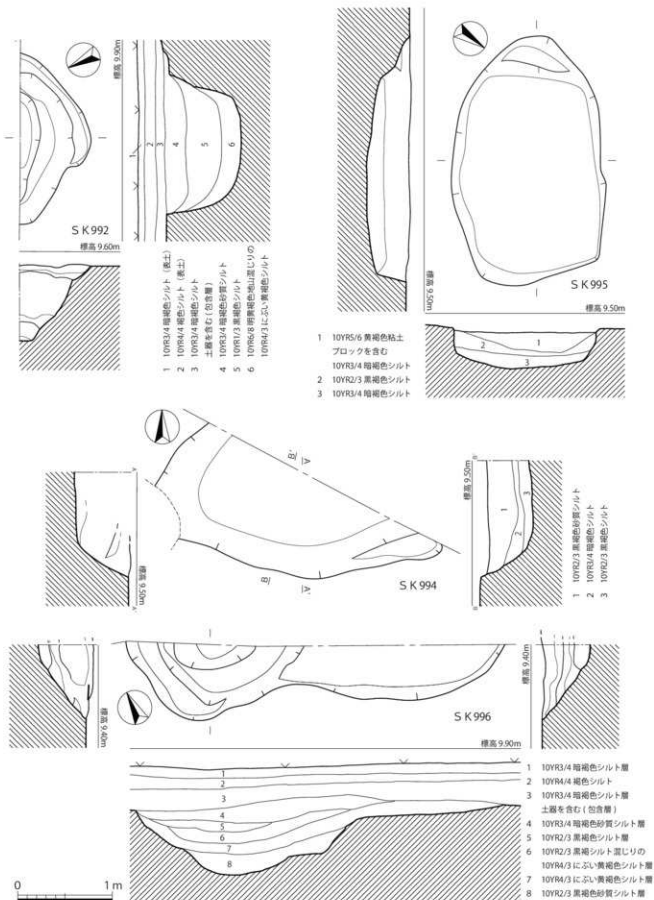


第 23 図 S K 833・834・864・879・881 実測図 (1/40)



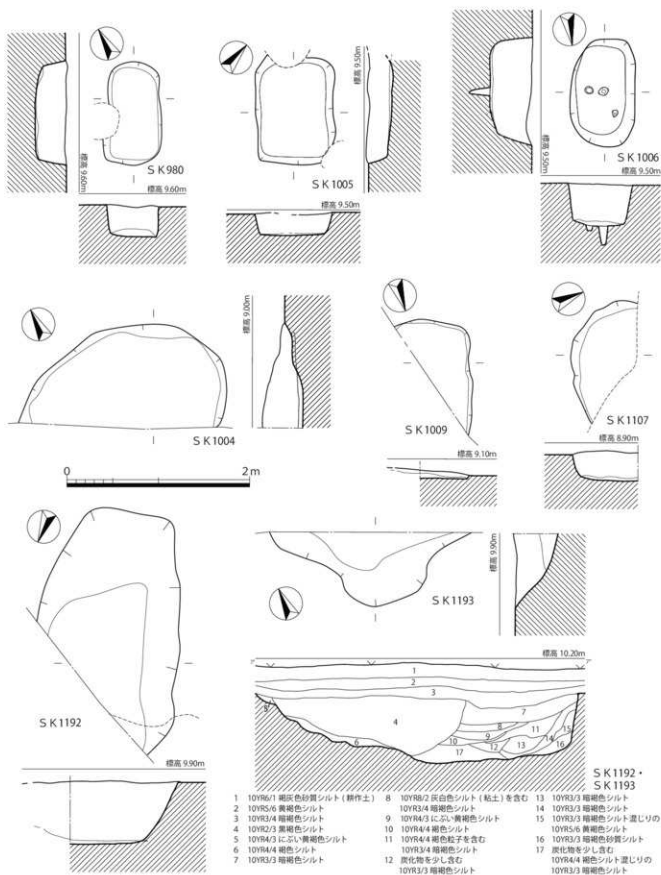
第 24 図 S K 882 実測図 (1/40)

III. 調査の記録



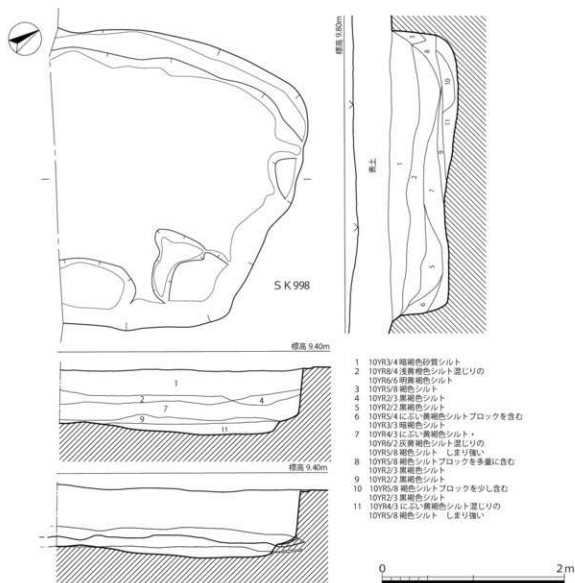
第 25 図 S K 992・994・995・996 実測図 (1/40)





第 26 図 SK 980・1004・1005・1006・1009・1107・1192・1193 実測図 (1/40)

Ⅲ. 調査の記録



第 27 図 SK 998 実測図 (1/40)

SK 834 (第 23 図、図版 9)

Ⅲ区東部で検出した平面形が長方形の土坑である。長軸 1.3 m、短軸 0.7 m、深さ 0.5 m を測る。遺物は出土していないが、平面形と埋土がにぶい黄褐色を呈することから落とし穴状遺構と判断した。

SK 864 (第 23 図)

Ⅲ区東部で検出した平面形が長方形の土坑である。西部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 1.4 m 以上、短軸 0.9 m、深さ 0.1 m を測る。遺物は、土師器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

SK 879 (第 23 図)

Ⅲ区東部で検出した平面形が方形の土坑とみられる。西部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 1.1 m、短軸 0.5 m 以上、深さ 0.4 m を測る。遺物は、土師器の坏・甕が出土した。

## S K 881 (第 23 図、図版 9)

Ⅲ区東部で検出した平面形が不整形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 3.4 m、短軸 2.9 m、深さ 0.5 m を測る。S B 986・S K 882 に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・壺・脚部・把手、須恵器の蓋・坏・甕・壺、土錘、粘土塊が出土した。

## S K 882 (第 24 図、図版 9)

Ⅲ区東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸 5.7 m、短軸 3.8 m、深さ 0.6 m を測る。平面の規模は、今回の調査で検出した土坑の中で最も大きい。S B 986 に先行し、S K 881 に後出する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・鉢・甕・壺・把手、須恵器の蓋・坏・甕・壺、土錘、粘土塊、石鏃、鉄滓が出土した。

## S K 980 (第 26 図、図版 9)

Ⅲ区東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 0.5 m、深さ 0.3 m を測る。S B 836 に先行する。遺物は出土していないが、平面形と埋土が暗褐色を呈することから落とし穴状遺構と判断した。

## S K 992 (第 25 図、図版 10)

Ⅲ区東部で検出した平面形が円形の土坑とみられる。北部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 1.8 m、短軸 0.7 m 以上、深さ 0.8 m を測る。2 段のテラスを有し、1 段目は 0.2 m、そこから 2 段目までは 0.6 m あり、掘鉢状の断面を呈する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、土錘、粘土塊、鉄滓が出土した。

## S K 994 (第 25 図、図版 10)

Ⅲ区東部で検出した平面形が楕円形の土坑とみられる。西端部を S K 995 に切れ、北東部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 2.8 m、短軸 1.1 m 以上、深さ 0.5 m を測る。S K 995 に先行する。遺物は、土師器の坏・皿・埴・高坏・鉢・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・高坏・甕、土錘、粘土塊が出土した。

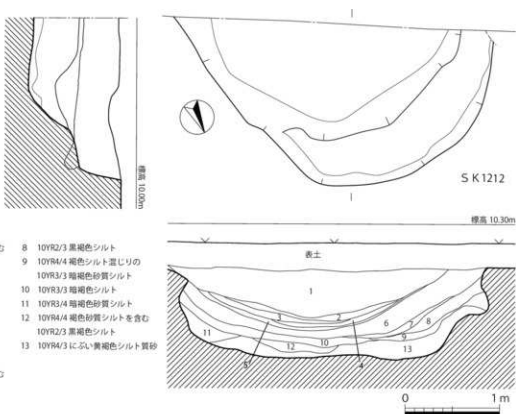
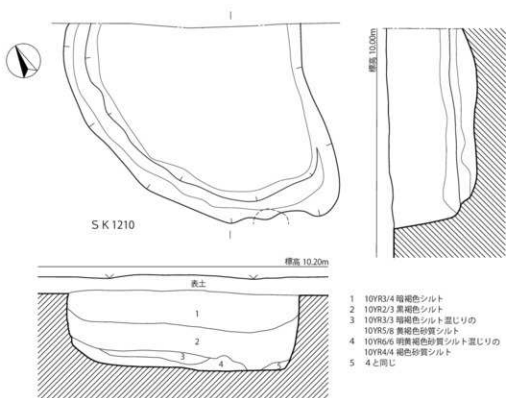
## S K 995 (第 25 図、図版 10)

Ⅲ区東部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 2.6 m、短軸 1.6 m、深さ 0.4 m を測る。西部に段を有する。S K 994 に後出する。遺物は、土師器の坏・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

## S K 996 (第 25 図)

Ⅲ区東部で検出した平面形が不整形の土坑とみられる。北部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 4.0 m、短軸 0.8 m 以上、深さ 0.6 m を測る。東側にテラスを有し、西側へ向かって緩やかに傾斜する。遺構検出時、西側の円形部分と東側の楕円形部分で切り合い関係があると考えていたが、北壁土層の観察の結果、1 つの遺構であると推定した。遺物は、土師器の蓋・坏・埴・高坏・甕・把手、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

Ⅲ. 調査の記録



第 28 図 S K 1210・1212 実測図 (1/40)

## S K 998 (第 27 図、図版 10)

Ⅲ区東部で検出した平面形が方形の土坑とみられる。南部は調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 3.2 m 以上、短軸 2.6 m、深さ 0.7 m を測る。2・7・11 層は地山の色調に近く、しまりが強いいため、何らかの理由で地山を掘削した土で埋め立てたと推測した。しかし、遺構の性格については分からなかった。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕、須恵器の蓋・坏・皿・高坏・甕、粘土塊が出土した。

## S K 1004 (第 26 図)

Ⅲ区西部で検出した平面形が円形の土坑とみられる。南部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 2.2 m、短軸 1.1 m 以上、深さ 0.4 m を測る。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・脚部、須恵器の蓋・皿・甕が出土した。

## S K 1005 (第 26 図、図版 11)

Ⅲ区東部で検出した平面形が方形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.2 m を測る。S B 986 に先行する。遺物は出土していないが、平面形から落とし穴状遺構と判断した。

## S K 1006 (第 26 図、図版 11)

Ⅲ区南東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 1.2 m、短軸 0.7 m、深さ 0.5 m を測る。遺構の底面に 3 基のピットを検出し、直径 8～12cm、深さ 6～20cm を測る。S B 836 に先行する。遺物は土師器の坏が出土したが、後出する S B 836 からの混入とみられる。平面形から落とし穴状遺構と判断した。

## S K 1009 (第 26 図、図版 11)

Ⅳ区西部で検出した平面形が方形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 1.2 m 以上、短軸 0.5 m 以上、深さ 0.1 m を測る。遺物は、土師器の蓋・坏・埴・高坏・甕・脚部、須恵器の坏・高坏・甕は出土した。特に、須恵器の甕胴部片は遺構の残存状況が劣悪にも関わらず、大振りな破片が目立った。

## S K 1107 (第 26 図)

Ⅳ区西部で検出した平面形が楕円形の土坑とみられる。南東部が攪乱によって破壊されているため正確な規模は不明であるが、長軸 1.2 m 以上、短軸 0.7 m 以上、深さ 0.3 m を測る。遺物は、土師器の坏・埴・鉢・甕、須恵器の蓋・埴・甕が出土した。

## S K 1192 (第 26 図、図版 11)

Ⅴ区中央部で検出した平面形が長方形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 2.6 m、短軸 1.5 m 以上、深さ 0.7 m を測る。S K 1193 に先行する。遺物は、土師器の蓋・坏・皿・埴・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、鉄釘、鉄鎌、不明鉄製品、鉄滓が出土した。

## S K 1193 (第 26 図、図版 11)

Ⅴ区中央部で検出した平面形が不整形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な



規模は不明であるが、長軸 2.2 m、短軸 0.8 m 以上、深さ 0.5 m を測る。重複関係から S K 1192 に後出する。遺物は、土師器の蓋・坏・甕・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊が出土した。

S K 1210 (第 28 図、図版 11)

V 区西部で検出した平面形が不整形の土坑とみられる。北部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 2.5 m 以上、短軸 2.2 m、深さ 0.9 m を測る。西部から南部にかけて深さ 0.7 m のところで段を有する。遺物は、土師器の坏・皿・埴・高坏・甕・甗・把手・脚部、須恵器の蓋・坏・甕、粘土塊、石製紡錘車、鉄釘、不明鉄製品、鉄滓が出土した。

S K 1212 (第 28 図、図版 12)

V 区西部で検出した平面形が楕円形の土坑とみられる。南部が調査区外へ延びるため、正確な規模は不明であるが、長軸 3.4 m、短軸 1.7 m 以上、深さ 0.9 m を測る。北部に深さ 0.3 m のところで段を有する。遺物は、須恵器の蓋・坏・皿・埴・高坏・甕・把手・脚部・カマド、須恵器の蓋・坏・甕、土錘、粘土塊、鉄滓が出土した。

ビット

S P 522 (第 29 図、図版 12)

Ⅱ区中央で検出したビットであり、掘立柱建物を構成する柱穴の一つと考えられる。今回の調査では、同じ建物を構成するビットは確認されていない。平面形は隅丸方形で、一辺 0.7 m、深さ 0.6 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の坏・皿・甕、掘方から土師器の坏・甕が出土した。

S P 736 (第 29 図、図版 12)

Ⅱ区西部で検出したビットである。平面形は楕円形を呈する。長軸 0.5 m、短軸 0.2 m、深さ 0.4 m を測る。ほぼ完形の須恵器の壺が出土した。遺物は他に土師器の甕が出土した。

S P 803 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したビットである。平面形は円形を呈し、直径 0.4 m、深さ 0.4 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の甕、掘方から土師器の坏・甕が出土した。

S P 806 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したビットである。平面形は円形を呈し、直径 0.4 m、深さ 0.2 m を測る。柱痕の直径は 10cm である。遺物は、掘方から土師器の坏・甕が出土した。

S P 807 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したビットである。平面形は円形を呈し、直径 0.4 m、深さ 0.3 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は出土していない。

S P 808 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したビットである。平面形は楕円形を呈し、直径 0.5 m、深さ 0.5 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、土師器の坏・甕が出土した。

Ⅲ. 調査の記録

SP 809 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.4 m、深さ 0.3 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は出土していない。

SP 810 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.5 m、深さ 0.2 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は出土していない。

SP 811 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径は 0.5 m、深さ 0.4 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の坏・甕、掘方から須恵器の蓋が出土した。

SP 812 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径は 0.5 m、深さ 0.5 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、土師器の蓋・甕が出土した。

SP 981 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.5 m、深さ 0.4 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の坏・甕、須恵器の蓋・坏、粘土塊、掘方から土師器の蓋・坏・埴・甕、須恵器の蓋・坏、粘土塊が出土した。

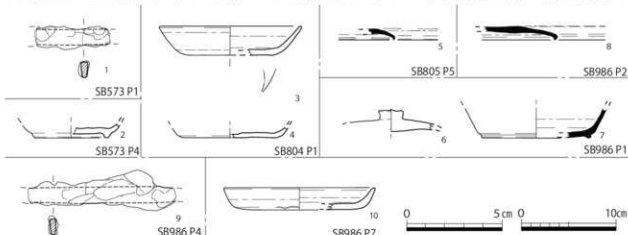
SP 982 (第 29 図、図版 12)

Ⅲ区東部で検出したピットである。平面形は円形を呈し、直径 0.5 m、深さ 0.5 m を測る。柱痕の直径は 20cm である。遺物は、柱痕から土師器の甕、須恵器の蓋、掘方から土師器の甕が出土した。

2. 出土遺物 (第 30 ~ 44 図、図版 13 ~ 35)

パンコンテナ 29 箱分の遺物が出土した。主に SK 260・882 などの土坑からの出土遺物が多い。以下、個々の遺物について述べるが、詳細については出土遺物観察表を参照されたい。

1 は SB 573 P 1 掘方から出土した刀子である。2 は SB 573 P 4 から出土した土師器の坏である。高台は逆台形を呈し、摩擦のため体部との境は不明瞭である。3・4 は SB 804 P 1 掘方から出土した土師器の坏で、3 は底部にヘラ記号を有する。3・4 共に底部と体部の境を面取りし

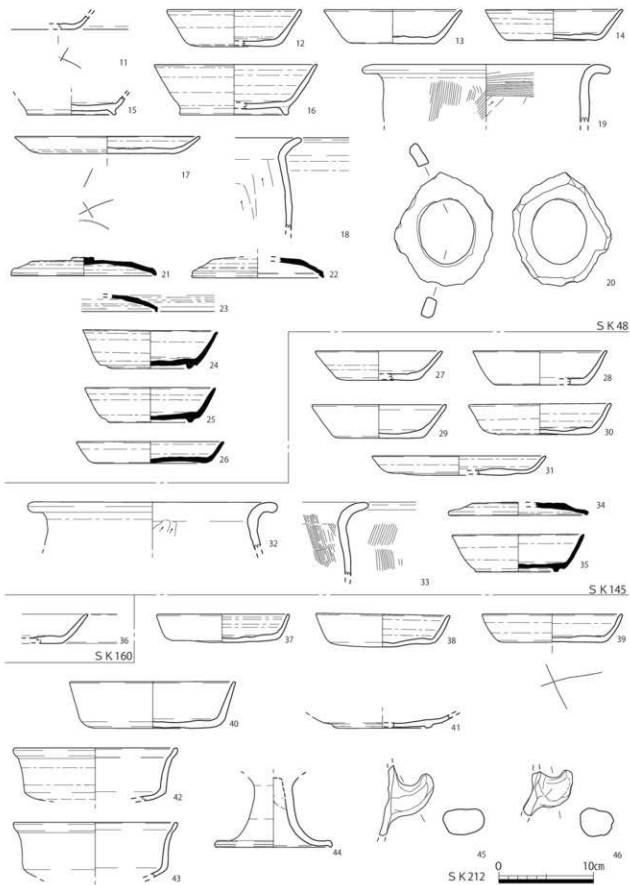


第 30 図 出土遺物実測図① (1・9 : 1/2、その他 : 1/4)



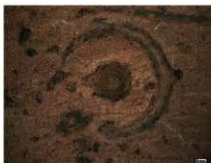
ている。5はS B 805 P 5から出土した須恵器の蓋で、口縁は短く直線的に立ち上がる。6・7はS B 986 P 1から出土した。6は土師器の蓋、7は須恵器の環で、高台の端部は丸みがありやや外反する。8はS B 986 P 2掘方出土の須恵器の蓋で、口縁断面は三角形を呈する。9はS B 986 P 4出土の刀子である。10はS B 986 P 7掘方出土の土師器の皿で、体部下半から底部にかけて、手持ちヘラケズリ後にナデで調整する。11～26はS K 48から出土した。16の土師器の環の高台は貼付しており、体部との境にナデがみられる。20は土師器の不明製品である。胎土は精良で、ケズリ後丹念にナデている。中央に6.4cm程の楕円形の穴があり、その周辺にも5ヶ所の穴とみられる部分があるため、甕底部の可能性もある。21～23は須恵器の蓋である。24・25は須恵器の環で、高台断面は丸みを帯びた台形である。27～35はS K 145から出土した。27～30は土師器の環で、27はヘラ切り後ナデで仕上げるが、28～30はヘラ切りのみである。30は底部と体部の境を面取りしている。34は須恵器の蓋で、退化した喙状口縁である。36はS K 160から出土した土師器の環。37～46はS K 212から出土した。37～40は土師器の環で、40はやや大型である。41は土師器の皿で、削り出し高台を有する。42・43は大きさから土師器の鉢と考えたが、他の器種である可能性もある。口縁端部はやや外反し、体部はほぼ直立して底部に至る。残存している底部は丸みを帯びており、平底ではない。42・43は同一個体である可能性がある。47～117はS K 260から出土した。47～49は土師器の蓋で、49の外面には格子状のヘラ記号がみられる。50～75は土師器の環である。61・63・66・67・70・71は底部と体部の境を面取りしている。65～72はヘラ記号を有する。69・70のヘラ書きは文字のようにも見えるが、判読できなかった。底部は、ヘラ切り後ナデ(50・55・57・62)、ヘラ切り(51～52・54・59・65)、ヘラ切り後回転ヘラケズリ(53・56・58・60～61・63～64・66～72)といくつかの種類がある。なお、65の底部の調整は摩滅のため判別不能である。74・75は削り出し高台である。76～80は土師器の皿で、80の底部にヘラ記号がみられる。81は土師器の高環で、口縁は大きく開く。82は土師器の壺、83～87・89は土師器の甕で、87は口縁を波状に成形しているようにみられる。また、内面の胎土欠損部分に継ぎ足した窪みがみられる。88は把手付甕である。90～94は須恵器の蓋である。90・92は口縁部と体部の境が明瞭である。91の口縁端部は短くほぼ直角に立ち上がる。95～103は須恵器の環である。95～99・103の高台断面はコの字形で、95は丸みを帯びるが、96～99はやや外反する。100～102の高台はやや細い。104～106は須恵器の皿で、104の底部に歪みがみられる。107～115は土鍾であり、いずれもナデで仕上げる。116は刀子、117は鋤先である。耳部から刃部にかけて直線的であり、丸みをほとんど帯びていない。118はS K 523から出土した土師器の塊で、接合時のナデのためか、高台上部の側面はやや窪んでいる。119・120はS K 548から出土した鉄釘である。121・122はS K 549から出土した。121は土師器の環、122は刀子。123～129はS K 560から出土した。123～126は土師器の環である。123は底部をヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。124～126は体部下半を手持ちヘラケズリを施し、その後ナデで仕上げる。127は高環の脚部。128は喙状口縁を有する須恵器の

III. 調査の記録

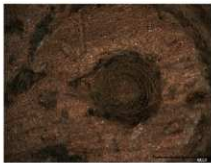


第 31 図 出土遺物実測図② (1/4)

蓋。129 は刀子。130～140 は S K 561 から出土した。130 は土師器の蓋で、口縁端部を折り返さない。131～133 は土師器の坏。133 は体部と底部の境を面取りしている。134～136 は土師器の皿。134・135 の底部はやや丸みを帯びている。136 は口縁端部がやや外反する。137 は土師器の鉢。138・139 は須恵器の坏。140 は刀子で、一部木質が残る。141～143 は S K 562 から出土した。143 は土師器鍋の脚部である。外面に被熱痕跡が残る。144・145 は S K 563 から出土した須恵器の坏である。144 は体部と底部の境が丸みを帯びる。145 は高台が底部端に位置する。146・147 は S K 564 から出土した土師器の坏である。146 は体部と底部の境を面取りしている。148 は S K 864 出土の土師器の坏である。体部と底部の境に回転ヘラケズリを施し、面取りしている。149～164 は S K 881 から出土した。149～154 は土師器の坏である。149 は内外面に煤とみられる黒色物質が付着している。150 はヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。151～154 は底部に二重丸のようにも見える直径 7mm の印（以下「●印」と記載する）がある。この●印を顕微鏡で拡大し観察したところ、回転状の擦過痕がみられたため、鼠歯錐状の回転工具で施したと推測される。151・152・154 はヘラ切り後回転ヘラケズリを施し、●印を施文する。153 は板状圧痕の上に●印がある。155・156 は土師器鍋の脚部で、脚部内側は指オサエを連続して行っている。157～160 は須恵器の蓋で、160 の内面にヘラ記号がみられる。161・162 は須恵器の坏である。163 は須恵器の長頸壺で、頸部中位に 2 条の浅い沈線を巡らす。164 は土鍾。165～212 は S K 882 から出土した。165 は土師器の蓋。166～185 は土師器の坏。166 は底部と体部の境を面取りしている。166～168・176・185 は底部がやや丸みを帯びている。169 は外面を回転ナデで仕上げるが、ナデが深く、単位が明瞭である。171・184 は体部下半から底部にかけて手持ちヘラケズリで仕上げる。173～178・182・183 は底部をヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。180～181 の底部はヘラ切である。176～183 の底部には●印が残る。186～191 は土師器の皿であり、ヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。188～190 の底部には●印が残る。192・193 は高坏であり、これらは同一個体である可能性がある。外面は回転ヘラケズリ後ナデている。その後、ヘラ記号を刻み、その上に●印を施す。194・195 は土師器の鉢、196 は土師器の甕である。196 は外面をハケ目、内面を概ね下から上方向のケズリで仕上げる。197～199 は須恵器の蓋。197・198 は嘴状口縁である。199 は口縁端部を短く折り返す。200・201 は須恵器の坏。200 は高台を持たない。201 はコの字形の高台を有す。202～204 は須恵器の高坏である。205 は須恵器の長頸壺で、胴部の上位で屈曲し、その稜は明瞭である。高台断面は三角形をなし、やや外に踏ん張る。また、高台端部の外面は打ち欠かされている。206・207 は土鍾。208～210 は刀子。211 は鉄滓で鉄分が

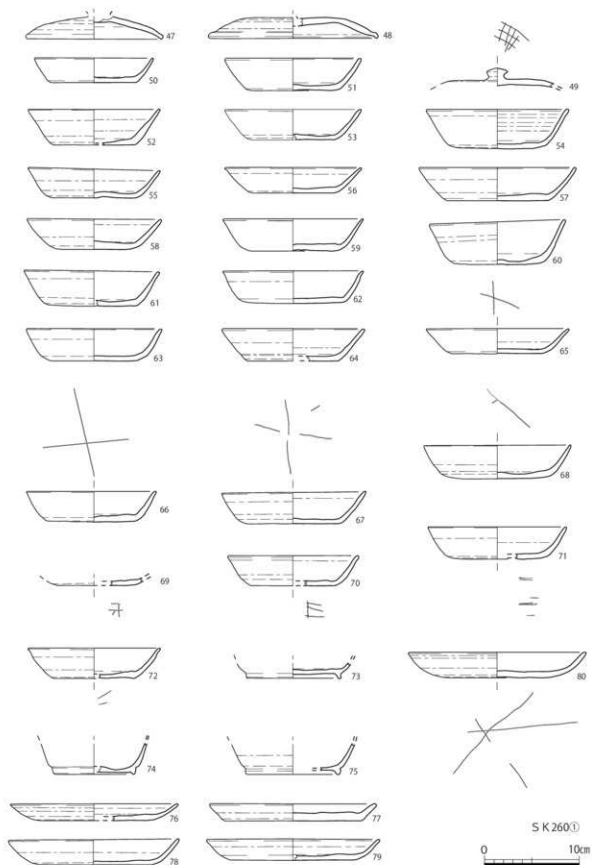


第32図 ●部分顕微鏡拡大写真1(193)



第33図 ●部分顕微鏡拡大写真2(193)

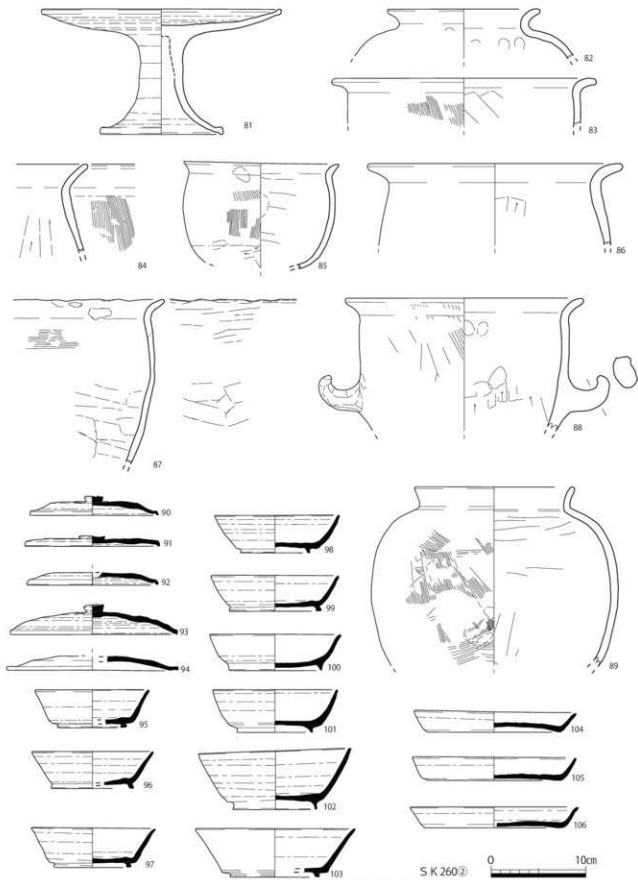
III. 調査の記録



第 34 図 出土遺物実測図③ (1/4)

多く、比重が大きい。212は黒曜石製の石鐻である。213はS K 987から出土した土師器の坏であり、内面の器壁が剥離している。214はS K 989出土の甕である。215～236はS K 992から出土した。215～218は土師器の蓋であり、口縁端部を折り返さない。219～228は土師器の坏。219～220の底面の仕上げは摩滅のため不明であるが、222～225はヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。229は高台付の皿である。高台の断面形はコの字形を呈する。230・231は土師器の皿であり、底面はヘラ切り後回転ヘラケズリで仕上げる。230は歪みが大きい。232は把手付の甕である。233は須恵器の蓋、234は須恵器の甕である。235は土鍾。236は鉄滓で鉄分が多く、比重が大きい。また、断面形は椀形である。237～254はS K 994から出土した。237は土師器の蓋であり、内外面に共に細かく回転ナデを施す。また、口縁端部は短く折り返す。238～241は土師器の坏であり、238～239・241は底面をヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。239は口縁端部がやや外反する。240はヘラ記号を刻んだ後に回転ヘラケズリを施す。243・244は土師器の鉢。245は土師器の把手付甕、246は土師器の鍋、247は土師器鍋の脚部である。248は須恵器の坏で、高台はコの字形を呈する。249は須恵器の高坏であり、見込みにヘラ記号を有する。250・251は土鍾。252～254は粘土塊である。胎土にスサ痕がみられる。また表面が平滑で、凹凸はあまりみられない。255～257はS K 995から出土した。255は土師器の坏で、底面をヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。256・257は須恵器の蓋。258～260はS K 997から出土した。258は土師器の坏で、高台を削り出す。259は須恵器の坏。260は須恵器蓋の転用硯であり、内面は平滑である。261～272はS K 998から出土した。261～263は土師器の坏で、体部中位から下部にかけてやや丸みを帯びる。262・263の底面はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。263は底部と体部の境を面取りしている。264・265は土師器の皿である。264は体部下半から細かく回転ナデを施し、底面はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。265は体部下半に丸みがあり、底面はヘラ切りである。266・267は須恵器の蓋である。267は輪状つまみを有するとみられる。268～272は須恵器の坏である。269は高台の断面形がコの字形を呈する。270は口縁の立ち上がりがほぼ直角である。271・272は高台の位置がほぼ体部との境にある。273～278はS K 1004から出土した。273は土師器の蓋。274～278は土師器の坏であり、274・277は体部から口縁にかけて大きく開く。278は体部と高台の境が若干窪む。279・280はS K 1009から出土した。279は土師器の坏で、体部から口縁にかけて大きく開く。また、口縁部は回転ナデのために若干の窪みがある。280は須恵器の甕で、内面は青海波文のタタキがみられる。281～283はS K 1107から出土した。281は土師器の鉢。282は須恵器の坏で、口縁部は外反する。また高台はコの字形を呈し、体部と底部の境は丸みを帯びる。283は須恵器の甕で、外面に波状文がみられる。284はS K 1123から出土した土師器の坏である。摩滅により内外面の調整は不明である。285～304はS K 1192から出土した。285・286は土師器の蓋で、外面は細かく回転ナデを施し、口縁端部は短く折り返す。287～293は土師器の坏。287～290は底面が丸みを帯びる。287・290・292はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。289の体部下半は手持ちヘラケズリ、291の底部は手持ちヘラケズリを施す。

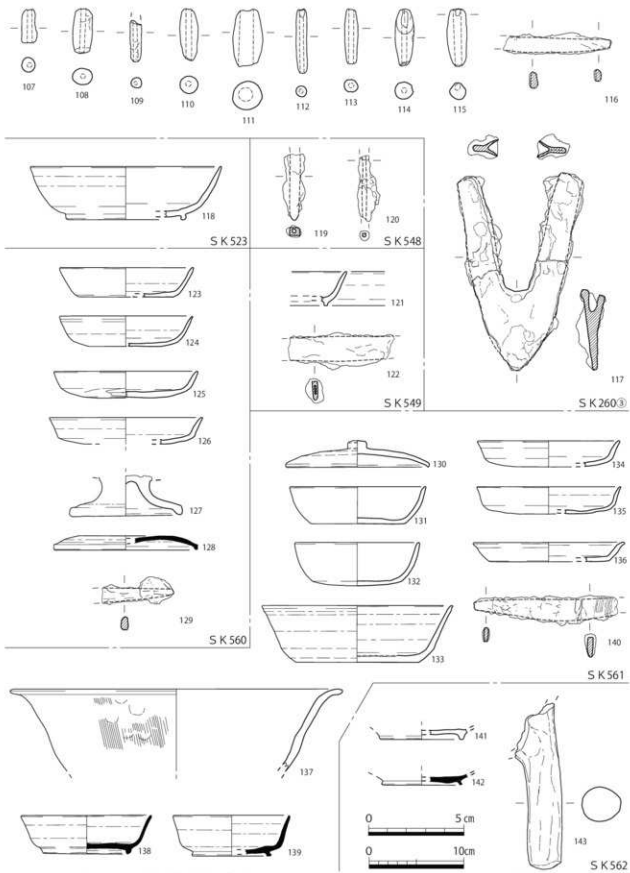
Ⅲ. 調査の記録



第 35 図 出土遺物実測図④ (1/4)

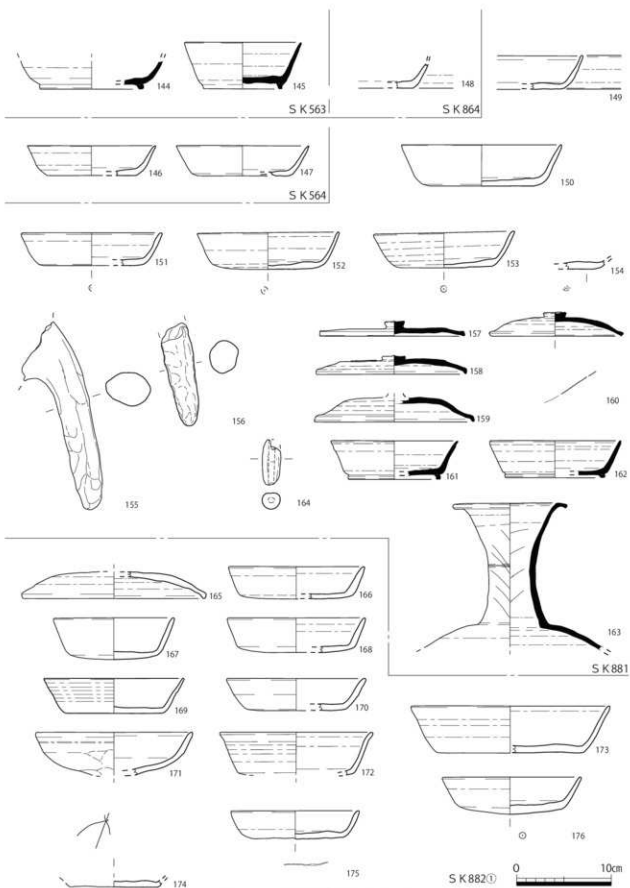
293 は高台を貼付している。294 は土師器の甕である。口縁から体部中位にかけてはケズリの後ナデを施すが、体部下半はケズリのみである。また底部に窪みがある。295 は土師器鍋の脚部である。296～299 は鉄釘である。300 は鉄鎌、301 は施、302 は鉄鎌。303・304 は不明鉄製品である。305 は S K 1193 から出土した土師器の蓋であり、口縁端部は短く折り返す。306・307 は S K 1194 から出土した。306 は須恵器の環で、高台は外に踏ん張る形である。307 は粘土塊。表面は平滑で凹凸はあまりない。308～336 は S K 1210 から出土した。308 は土師器の蓋で、内外面共に細かく回転ナデを施す。309～317 は土師器の環。309 は底面をヘラ切り後回転ヘラケズリ、ナデを施す。311 は口縁端部が外反し、底部をヘラ切り後ヘラケズリを施す。312 はヘラ切り後不定方向のヘラケズリを施す。314・315 は体部下半を手持ちヘラケズリで仕上げる。316 は高台を貼付するが、317 は高台を削り出す。318～324 は土師器の皿。318 の底部はヘラ切りのみであるが、319 はヘラ切り後回転ヘラケズリ、ナデ、320・321 はヘラ切り後不定方向のヘラケズリ、322・323 は手持ちヘラケズリ後ナデで仕上げる。324 の底部には板状圧痕がみえる。321 は底面に●印がある。325～327 は土師器の甕。328 は土師器の把手付甕。329 は土師器の甕である。底面の穿孔は外面から行っており、貫通した穿孔が5つ確認できる。また、未完了の穿孔が1か所ある。330・331 は須恵器の蓋であり、口縁端部は稜をもって直角に立ち上がる。332 は須恵器の環であり、高台底面に2条の線が刻まれる。333・334 は鉄釘である。335 は鉄滓で鉄分が多く、比重が大きい。また、断面形は椀形である。336 は滑石製紡錘車である。外面に放射状の線刻がみられる。337～355 は S K 1212 から出土した。337 は土師器の蓋で、輪状つまみを有する。338～344 は土師器の環。底部を338・344 はヘラ切り、339 はヘラ切り後不定方向のヘラケズリ、ナデ、340 はヘラ切り後回転ナデ、341 はヘラ切り後回転ヘラケズリ、ナデ、342 はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。340 は底部と体部の境を面取りしている。345・346 は土師器の高環。346 は内外面にヘラ記号を有する。347 は土師器の甕である。348 は土師器鍋の脚部。349 は土師器のカマドである。350～352 は須恵器の蓋であり、嘴状口縁である。353・354 は須恵器の環である。高台断面形は353 はほぼコの字形を呈するが、354 は外に踏ん張る形である。355 は土鍾。356 は S P 26 から出土した安山岩製の石鎌である。357 は S P 41 から出土した縄文土器(曾畑式)の鉢であり、波状口縁を呈する。358 は S P 95 から出土した須恵器蓋の転用硯で内面は平滑である。359 は S P 325 から出土した土鍾である。360 は S P 736 から出土した須恵器の壺で、体部中位から口縁にかけて歪みがある。また、外面の体部から底部の境にケズリともみられる連続した工具痕がみられる。底部は青海波文タタキがみられる。361 は S P 957 から出土した刀子である。362 は S P 970 出土の鉄滓で、鉄分が多く比重が大きい。363 は S P 1111 出土の須恵器の環。体部から口縁部にかけてやや開く器形で、高台の断面形はコの字形である。364 は S P 1162 出土の土師器の皿である。365 は S P 1216 出土の環。底部はヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。366 は S P 1279 出土の皿。底部はヘラ切り後ナデで仕上げる。367 は S P 1341 出土の土師器の環。外面に被熱痕跡がみられる。

Ⅲ. 調査の記録



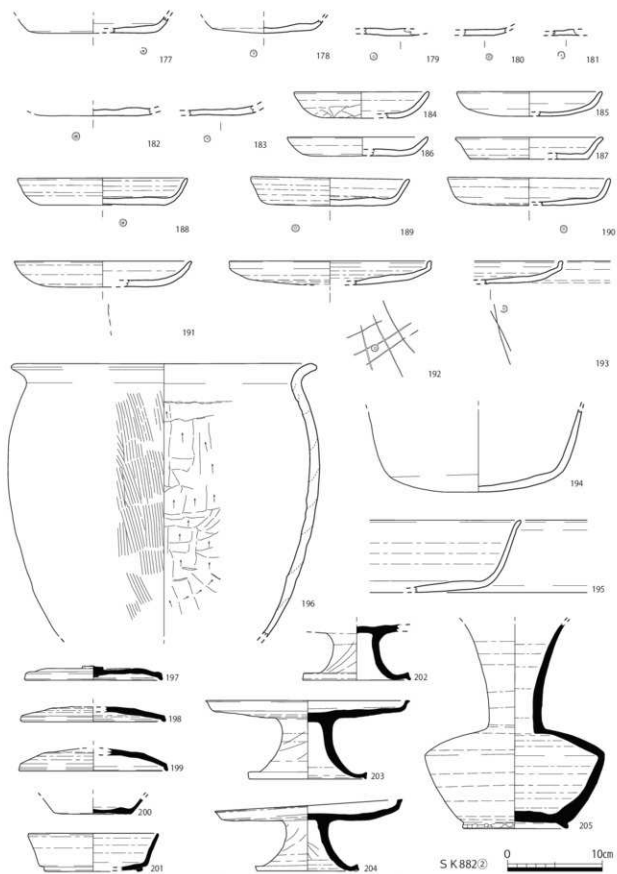
第 36 図 出土遺物実測図⑤ (116・119・120・122・129・140・1/2、その他 1/4)



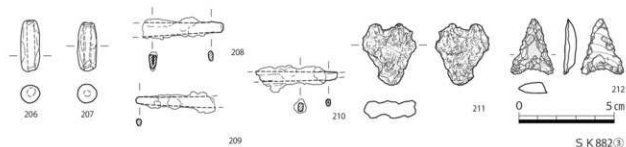


第 37 図 出土遺物実測図⑥ (1/4)

Ⅲ. 調査の記録

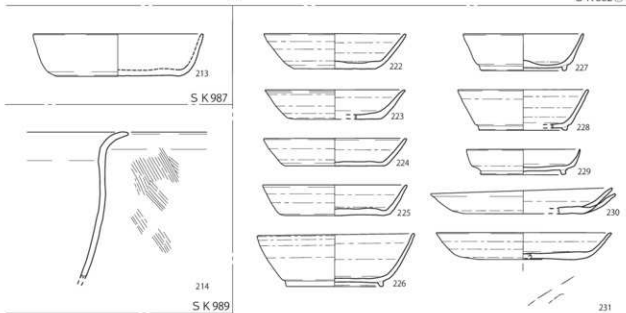


第38図 出土遺物実測図⑦(1/4)



209

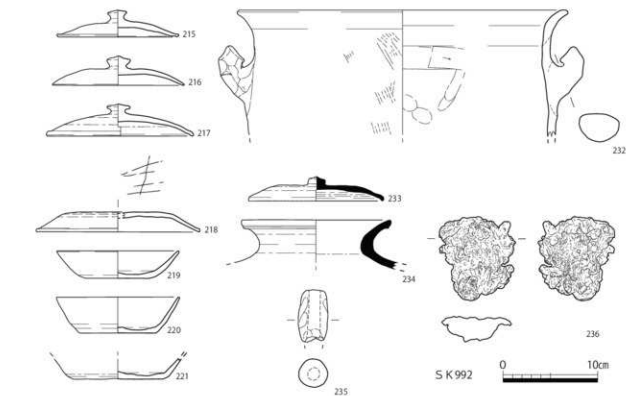
S K 882 ③



S K 987

S K 989

231

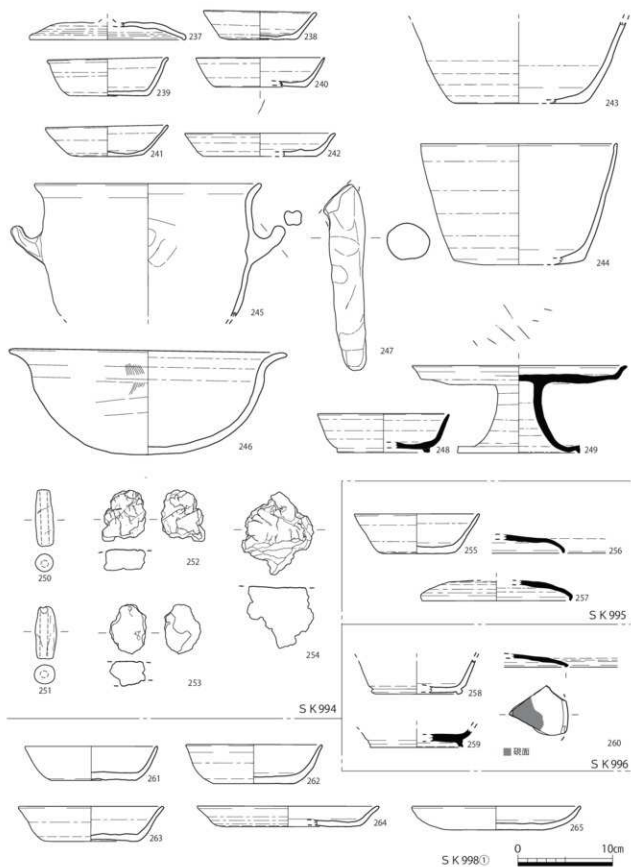


S K 992

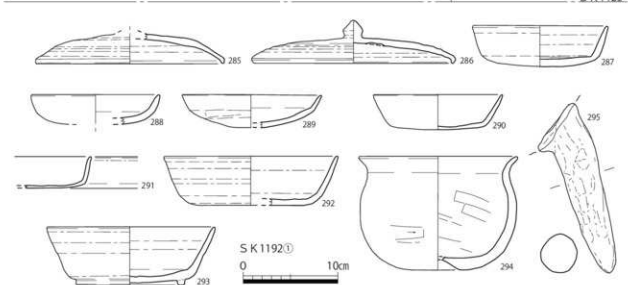
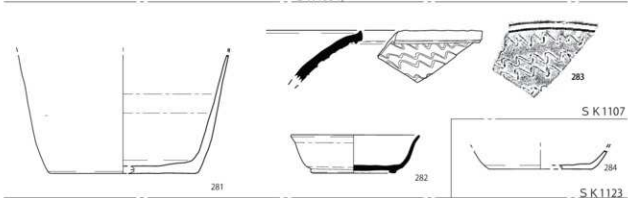
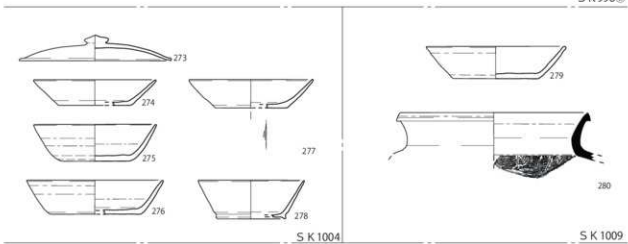
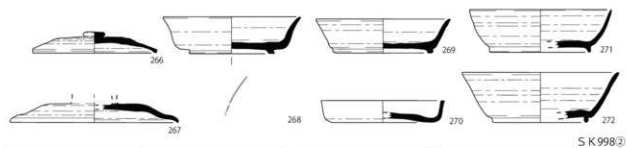
0 10cm

第 39 図 出土遺物実測図⑧ (208・209・210・212: 1/2、その他: 1/4)

Ⅲ. 調査の記録

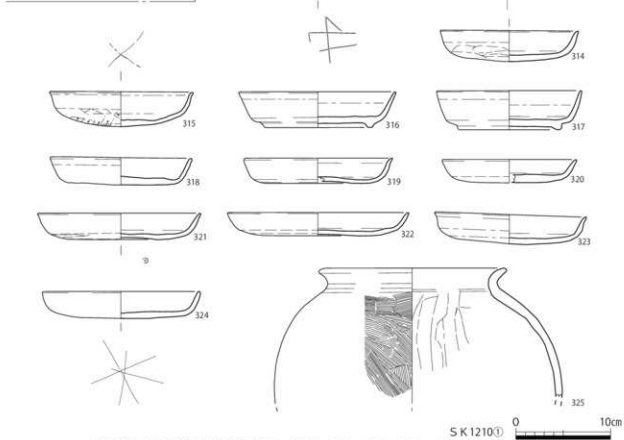
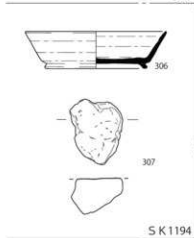
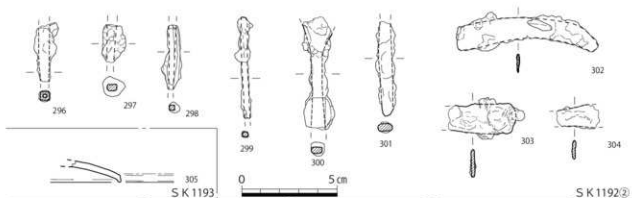


第40図 出土遺物実測図⑨ (1/4)

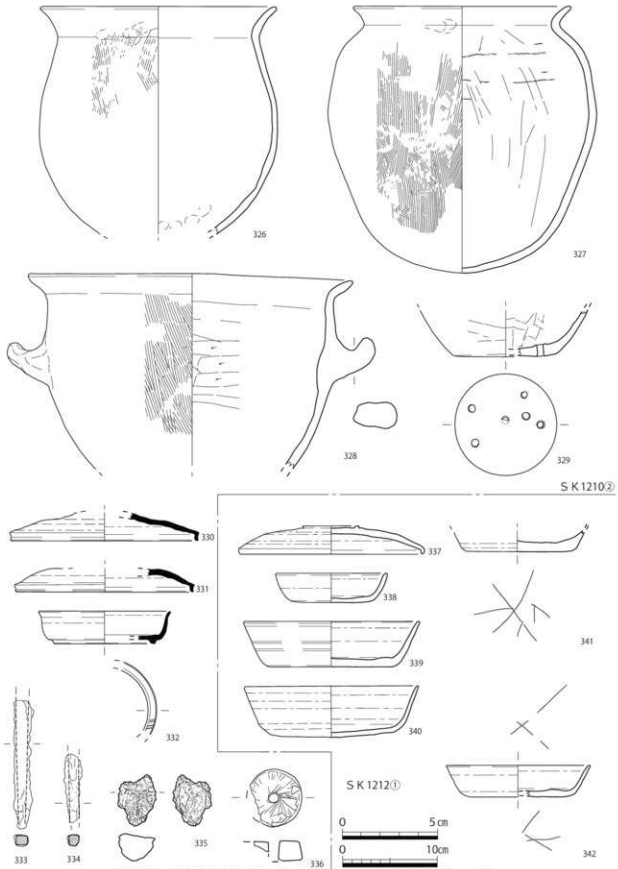


第41図 出土遺物実測図⑩ (1/4)

Ⅲ. 調査の記録

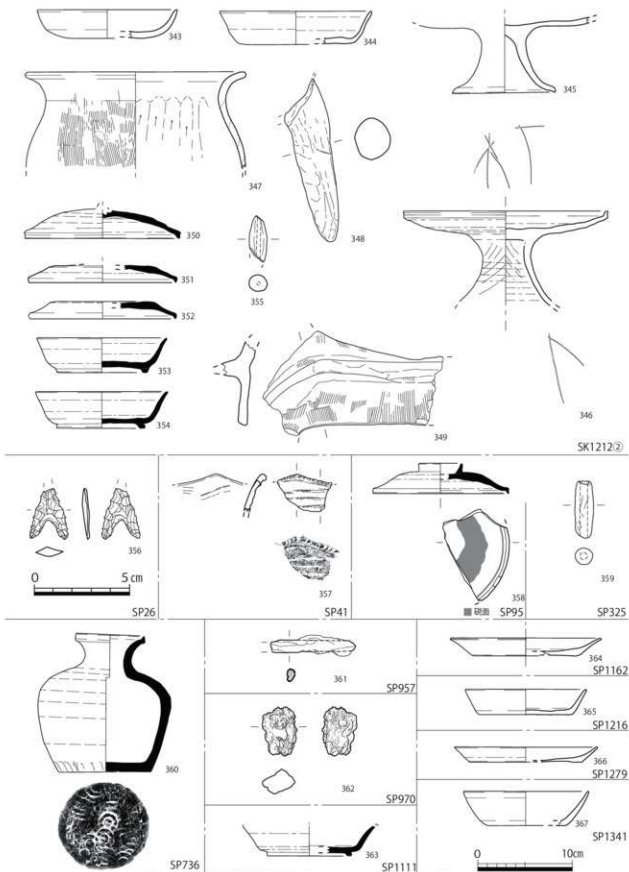


第42図 出土遺物実測図① (296・297・298・300・301: 1/2, その他: 1/4)



第 43 図 出土遺物実測図② (333・334・336 : 1/2、その他 : 1/4)

III. 調査の記録



第44図 出土遺物実測図⑬ (356・361:1/2、その他:1/4)



第1表 出土遺物観察表1

遺物 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺物 番号	位置		色調		形状		備考	記録 番号
						口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	外面	内面	外面		
1	第30号 埋蔵13	SB573 P1 東方	鉄製品	刀子	(4.0)	0.9	0.6						202114 000360
2	第30号 埋蔵13	SB573 P1	土師器	杯	-	(7.8)	0.4	焼	焼	ナデ?	ナデ?	ほぼ精良 わずかに粗粒砂を含む	202114 000361
3	第30号 埋蔵13	SB804 P1 東方	土師器	杯	(15.0)	11.4	(3.1)	焼～浅黄緑	焼	同転ナデ 同転へうケズリ	同転ナデ	赤色粘土・極粗粒砂 顕 微鏡あり	202114 000145
4	第30号 埋蔵13	SB804 P1 東方	土師器	杯	-	(9.8)	0.0	焼	焼	同転ナデ 同転へうケズリ	同転ナデ ナデ	赤色粘土・雲母を含む	202114 000146
5	第30号 埋蔵13	SB805 P5	須恵器	蓋	-	-	(1.2)	灰	灰	同転ナデ	同転ナデ	ほぼ精良 わずかに粗粒砂を含む	202114 000146
6	第30号 埋蔵13	SB896 P1	土師器	蓋	-	-	(2.2)	焼～にぶい・焼	焼	同転へうケズリ	ナデ	精良	202114 000209
7	第30号 埋蔵13	SB896 P1	須恵器	蓋	-	(11.6)	(3.2)	灰白 ～にぶい・焼	にぶい・黄緑	同転ナデ ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ ナデ	わずかに粗粒砂を含む	202114 000210
8	第30号 埋蔵13	SB896 P4 東方	須恵器	蓋	-	-	(1.5)	にぶい・焼	灰黄緑	同転ナデ 同転へうケズリ	同転ナデ ナデ	精良	202114 000208
9	第30号 埋蔵13	SB896 P4 東方	鉄製品	刀子	(7.0)	1.1	0.5						202114 000369
10	第30号 埋蔵13	SB896 P7 東方	土師器	皿	(16.0)	(13.6)	2.3	灰緑 ～にぶい・焼	にぶい・焼	同転ナデ 手持ち へうケズリ後ナデ	同転ナデ ナデ	雲母・粗粒砂を含む	202114 000212
11	第31号 埋蔵13	SK48	土師器	杯	-	-	(1.3)	焼 ～にぶい・焼	焼	同転ナデ	同転ナデ?	ほぼ精良 赤色粘土を含む	202114 000003
12	第31号 埋蔵13	SK48	土師器	杯	(14.2)	(9.6)	3.0	焼	焼	同転ナデ 同転へうケズリ	同転ナデ ナデ	精良	202114 000007
13	第31号 埋蔵13	SK48	土師器	杯	(14.6)	(9.4)	3.5	焼	焼～灰黄緑	同転ナデ 数珠(断面)	同転ナデ	極粗粒砂 わずかに粗粒砂を含む	202114 000008
14	第31号 埋蔵13	SK48	土師器	杯	(14.5)	10.2	3.2	焼	焼	同転ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ ナデ	精良 赤色粘土を含む	202114 000015
15	第31号 埋蔵13	SK48	土師器	杯	-	9.4	(1.9)	焼 ～にぶい・焼	焼	同転ナデ ナデ へう切り後ナデ	ナデ?	精良	202114 000006
16	第31号 埋蔵14	SK48	土師器	杯	(17.2)	11.5	5.3	焼～にぶい・焼	にぶい・焼	同転ナデ ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ ナデ	精良 赤色粘土を含む	202114 000014
17	第31号 埋蔵14	SK48	土師器	皿	(19.6)	(15.8)	1.8	明赤緑	明赤緑	同転ナデ 同転へうケズリ	同転ナデ	雲母・中粒砂を含む	202114 000016
18	第31号 埋蔵13	SK48	土師器	蓋	-	(9.8)	0.0	焼灰	焼～焼灰	同転ナデ 同転へうケズリ	同転ナデ ケズリ	雲母・粗粒砂を含む	202114 000004
19	第31号 埋蔵14	SK48	土師器	蓋	(26.2)	-	(6.1)	にぶい・焼 ～にぶい・焼	にぶい・焼	同転ナデ ハケ目	同転ナデ ケズリ ハケ目	精良 雲母を含む	202114 000018
20	第31号 埋蔵14	SK48	土師器	不明	12.0	10.4	1.2～ 1.3	にぶい・焼	焼	ナデ	ケズリ ナデ	雲母・角閃石・粗粒砂・ 細砂・中粒砂を含む	202114 000010
21	第31号 埋蔵14	SK48	須恵器	蓋	15.4	2.0	2.0	黄灰	灰	同転ナデ ナデ 同転へうケズリ後ナデ	同転ナデ ナデ	ほぼ精良 わずかに粗粒砂を含む	202114 000013
22	第31号 埋蔵14	SK48	須恵器	蓋	(14.0)	-	(2.2)	黄灰	黄灰～灰	同転ナデ 同転へうケズリ後ナデ	同転ナデ ナデ	ほぼ精良 わずかに極粗 粒砂を含む	202114 000017
23	第31号 埋蔵14	SK48	須恵器	蓋	-	-	(1.8)	黄灰	黄灰	同転ナデ 同転へうケズリ後ナデ	同転ナデ	ほぼ精良 わずかに粗粒砂を含む	202114 000018
24	第31号 埋蔵14	SK48	須恵器	杯	14.3	8.9	4.1	焼灰～ 灰黄緑	焼灰	同転ナデ ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ	ほぼ精良 わずかに粗粒砂を含む	202114 000011
25	第31号 埋蔵14	SK48	須恵器	杯	(13.8)	(9.0)	4.0	焼灰～黄灰	焼灰～黄灰	同転ナデ ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ ナデ	ほぼ精良 わずかに極粗 粒砂・粗粒砂を含む	202114 000012
26	第31号 埋蔵14	SK48	須恵器	皿	(15.6)	(12.4)	2.3	黄灰～ 焼灰黄	黄灰～ 焼成黄	同転ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ ナデ	わずかに中粒砂を含む	202114 000005
27	第31号 埋蔵14	SK145	土師器	杯	(13.4)	(9.0)	3.1	焼	焼	同転ナデ へう切り後ナデ	ナデ?	精良	202114 000020
28	第31号 埋蔵14	SK145	土師器	杯	(14.2)	(9.8)	3.6	にぶい・焼 ～焼灰	にぶい・焼 ～焼灰	同転ナデ へう切り	同転ナデ ナデ?	精良 赤色粘土を含む	202114 000023
29	第31号 埋蔵14	SK145	土師器	杯	(14.2)	(9.6)	3.5	明赤緑 ～焼灰	にぶい・焼 ～灰黄緑	同転ナデ へう切り	同転ナデ ナデ?	赤色粘土・粗粒砂をわず かに含む	202114 000024
30	第31号 埋蔵14	SK145	土師器	杯	15.1	10.6	3.3	にぶい・焼 ～焼灰	にぶい・焼 ～焼灰	同転ナデ へう切り 同転へうケズリ	同転ナデ ナデ	精良 赤色粘土・雲母を含む	202114 000027
31	第31号 埋蔵14	SK145	土師器	皿	(18.4)	2.0	0.0	焼	焼	同転ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ ナデ	精良	202114 000106
32	第31号 埋蔵14	SK145	土師器	蓋	(26.4)	-	(5.0)	焼～にぶい・ 焼	にぶい・焼	同転ナデ ナデ ハケ目	同転ナデ ナデ ハケ目	雲母・角閃石・細砂 を含む	202114 000022
33	第31号 埋蔵14	SK145	土師器	蓋	-	-	(7.8)	焼～にぶい・ 焼	にぶい・焼	同転ナデ? ハケ目	同転ナデ? ハケ目	雲母・細砂・粗粒砂を含む	202114 000026
34	第31号 埋蔵15	SK145	須恵器	蓋	(14.8)	-	(1.4)	黄灰	黄灰	同転ナデ へう切り	同転ナデ ナデ	わずかに粗粒砂を含む	202114 000025
35	第31号 埋蔵15	SK145	須恵器	杯	14.0	8.7	4.0	灰	灰	同転ナデ ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ ナデ	細砂・粗粒砂を含む	202114 000025
36	第31号 埋蔵15	SK160	土師器	杯	-	-	(3.2)	焼 ～にぶい・焼	焼	同転ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ ナデ	精良	202114 000029
37	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	杯	(14.0)	12.0	3.0	焼～にぶい・ 焼	焼～にぶい・ 焼	不明	同転ナデ ナデ	わずかに粗粒砂を含む	202114 000038
38	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	杯	14.1	11.1	3.3～ 3.5	にぶい・焼 ～焼灰	にぶい・焼 ～焼灰	同転ナデ? へう切り	同転ナデ	精良	202114 000396
39	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	杯	(14.8)	(11.6)	3.0	にぶい・焼	焼	同転ナデ へう切り後ナデ	同転ナデ	精良 赤色粘土・雲母を含む	202114 000037
40	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	杯	(17.5)	(13.6)	4.9	焼	焼	同転ナデ? 同転へうケズリ	同転ナデ?	精良	202114 000029
41	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	皿	-	(10.4)	(1.1)	にぶい・焼 ～焼	にぶい・焼	同転ナデ? へう切り後ナデ	同転ナデ?	わずかに赤色粘土を含む	202114 000030
42	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	鉢?	(17.4)	-	(5.5)	焼	焼	同転ナデ 同転へうケズリ	同転ナデ?	わずかに赤色粘土・極粗 粒砂を含む	202114 000033
43	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	鉢?	(17.4)	-	(5.8)	にぶい・焼	にぶい・焼	同転ナデ 同転へうケズリ?	同転ナデ?	精良	202114 000034
44	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	高杯	-	節部径 (12.4)	(7.4)	焼	焼	同転ナデ	同転ナデ	精良 わずかに赤色粘土を含む	202114 000035
45	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	把手	(7.4)	4.4	-	にぶい・焼	にぶい・焼	ケズリ後ナデ	ケズリ?	雲母・粗粒砂を含む	202114 000031
46	第31号 埋蔵15	SK212	土師器	把手	(4.8)	3.5	-	焼	焼	ケズリ後ナデ	ナデ	雲母・粗粒砂を含む	202114 000032

III. 調査の記録

第2表 出土遺物観察表2

発掘 層号	発掘 期号	遺構	材質	形状	法量		高さ (cm)	色調	調査			備考	登録 番号		
					口径 (cm)	底径 (cm)			外面	内面	外面			内面	粘土
47	第34期 階15	SK260	土師器	蓋	(14.0)	-	0.0	橙	橙～浅黄緑	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	黒色粘土 わずかに中粒砂含む	全体的に摩滅	202114 000094	
48	第34期 階15	SK260	土師器	蓋	(18.0)	-	0.0	橙	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ ナデ	精良			202114 000102	
49	第34期 階15	SK260	土師器	蓋	-	2.1	0.2	橙	同様ナデ? ナデ 同様へうケズリ?	同様ナデ? ナデ?	精良 わずかに赤色粘土含む		へう記号あり 全体的に摩滅	202114 000042	
50	第34期 階15	SK260	土師器	坪	(12.5)	9.7	2.6	橙	同様ナデ ナデ へう切り後ナデ	同様ナデ	赤色粘土含む わずかに 黒石・中粒砂含む		全体的に摩滅	202114 000085	
51	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(14.4)	9.9	3.4	橙 ～にぶい	同様ナデ へう切り	同様ナデ ナデ	精良 黒石含む		黒石あり	202114 000039	
52	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(14.0)	9.0	3.8	橙 ～にぶい	同様ナデ へう切り	同様ナデ	ほぼ精良 赤色粘土・角 閃石・黒石含む			202114 000040	
53	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(14.4)	8.0	2.2	橙 ～にぶい	浅黄緑 同様ナデ	同様ナデ				202114 000063	
54	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(15.0)	10.1	4.3	橙 ～にぶい	同様ナデ へう切り	同様ナデ ナデ	精良		一部摩滅	202114 000049	
55	第34期 階16	SK260	土師器	坪	14.0	10.0	4.2	橙～浅黄緑	同様ナデ 同様へうケズリ へう切り後ナデ	同様ナデ	赤色粘土含む わずかに 黒石・粗粒砂含む		全体的に摩滅	202114 000084	
56	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(14.0)	9.0	2.8	橙	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	粗粒砂含む			202114 000060	
57	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(10.8)	11.5	3.5	橙	同様ナデ へう切り後ナデ	同様ナデ	赤色粘土・粗粒砂含む		全体的に摩滅	202114 000091	
58	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(14.2)	11.5	4.1	橙～にぶい 赤黒	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	ほぼ精良 黒石含む 粗粒砂・粗粒砂含む		黒石あり	202114 000089	
59	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(14.8)	8.5	3.4	橙 ～にぶい	同様ナデ へう切り	同様ナデ	赤色粘土・黒石含む			202114 000055	
60	第34期 階16	SK260	土師器	坪	14.4	8.0	4.7 ～4.2	橙～浅黄緑 ～橙	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	赤色粘土含む			202114 000068	
61	第34期 階16	SK260	土師器	坪	14.3	9.9	3.6	橙 ～にぶい	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	赤色粘土・黒石含む			202114 000067	
62	第34期 階17	SK260	土師器	坪	14.8	11.6	3.4	橙 ～にぶい	同様ナデ ナデ へう切り後ナデ	同様ナデ?	赤色粘土含む わずかに中粒砂含む		全体的に摩滅	202114 000088	
63	第34期 階17	SK260	土師器	坪	(14.3)	9.0	4.4	橙 ～にぶい	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	粗粒砂含む			202114 000109	
64	第34期 階17	SK260	土師器	坪	(15.2)	10.0	3.4	橙 ～にぶい	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	ほぼ精良 黒石・粗粒砂含む			202114 000060	
65	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(15.0)	10.0	2.6	橙～にぶい ～黒	同様ナデ へうケズリ	同様ナデ ナデ	赤色粘土 赤石が多く含む		へう記号あり 黒石あり	202114 000062	
66	第34期 階16	SK260	土師器	坪	(13.7)	9.2	3.2	橙～黒	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	赤色粘土・黒石・石英含む		へう記号あり	202114 000066	
67	第34期 階16	SK260	土師器	坪	15.2	11.6	3.4	明赤黒	同様ナデ へう切り後同様へうケズリ	同様ナデ	ほぼ精良 赤石・黒石含む		へう記号あり	202114 000077	
68	第34期 階17	SK260	土師器	坪	(15.6)	11.9	3.5	橙～にぶい ～黒	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ ナデ	ほぼ精良 赤色粘土含む		へう記号あり	202114 000109	
69	第34期 階17	SK260	土師器	坪	-	9.0	9.0	明赤黒～橙	へう切り後同様へうケズリ	同様ナデ	精良 赤石・黒石含む		丹塗り 黒石層分	202114 000077	
70	第34期 階17	SK260	土師器	坪	(13.8)	10.8	3.1	橙～灰黄緑	同様ナデ へう切り後同様へうケズリ	同様ナデ	赤色粘土・黒石含む		へう記号あり	202114 000069	
71	第34期 階17	SK260	土師器	坪	(14.2)	9.8	3.4	橙	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	赤色粘土含む		門面あり	202114 000092	
72	第34期 階17	SK260	土師器	坪	(14.0)	8.8	3.2	橙	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	精良		へう記号あり	202114 000064	
73	第34期 階17	SK260	土師器	坪	-	10.0	0.0	橙 ～にぶい	同様ナデ ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ ナデ	赤色粘土・黒石・中粒砂 含む		黒石あり	202114 000103	
74	第34期 階17	SK260	土師器	坪	-	8.6	3.2	橙～にぶい	同様ナデ 同様へうケズリ後ナデ	同様ナデ	わずかに黒石・中粒砂 含む		削り出し高台	202114 000102	
75	第34期 階17	SK260	土師器	坪	-	10.0	0.0	橙 ～にぶい	同様ナデ ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	赤色粘土・黒石・中粒砂 含む		削り出し高台	202114 000104	
76	第34期 階17	SK260	土師器	蓋	(17.5)	14.0	2.1	橙 ～にぶい	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	わずかに赤色粘土・黒石・ 粗粒砂含む			202114 000113	
77	第34期 階17	SK260	土師器	蓋	(17.0)	(15.2)	1.8	橙 ～にぶい	同様ナデ へう切り後同様へうケズリ	同様ナデ	ほぼ精良 赤色粘土・黒石含む			202114 000114	
78	第34期 階18	SK260	土師器	蓋	(18.0)	13.5	2.6	橙	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	黒石・ 赤石・赤色粘土含む わずかに粗粒砂含む		外周部?付着	202114 000062	
79	第34期 階18	SK260	土師器	蓋	(14.6)	-	0.2	橙 ～にぶい	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ ナデ	ほぼ精良 赤色粘土・黒石含む			202114 000093	
80	第34期 階18	SK260	土師器	蓋	(18.8)	(13.3)	2.7	橙 ～にぶい	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ ナデ	わずかに赤色粘土含む		へう記号あり 黒石あり	202114 000047	
81	第35期 階18	SK260	土師器	高坪	(25.4)	(13.0)	13.2	橙 ～にぶい	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ ナデ	精良		門面あり	202114 000047	
82	第35期 階18	SK260	土師器	蓋	(16.2)	-	4.2	明赤黒 ～にぶい	同様ナデ ナデ 削オセエ	同様ナデ ナデ 削オセエ	黒石含む わずかに粗粒砂含む			202114 000049	
83	第35期 階18	SK260	土師器	蓋	(28.0)	-	0.0	橙 ～にぶい	同様ナデ ナデ 削オセエ	同様ナデ ナデ 削オセエ	黒石含む わずかに黒石・粗粒砂含む		全体的に摩滅	202114 000044	
84	第35期 階18	SK260	土師器	蓋	-	-	0.0	橙	同様ナデ 削オセエ	同様ナデ	黒石・粗粒・粗粒砂含む		全体的に摩滅	202114 000041	
85	第35期 階18	SK260	土師器	蓋	(16.3)	-	(11.0)	橙～にぶい ～黒	同様ナデ 削オセエ	ナデ ナデ 削オセエ	赤色粘土・黒石含む		黒石あり	202114 000116	
86	第35期 階18	SK260	土師器	蓋	(27.0)	-	0.0	橙	同様ナデ 削オセエ	ナデ ナデ	角閃石・粗粒砂含む		工具あり	202114 000046	
87	第35期 階18	SK260	土師器	蓋	-	-	(17.3)	橙	ナデ 削オセエ	ナデ ナデ 削オセエ	赤色粘土・黒石・角閃石・ 粗粒砂・中黒石含む			202114 000095	
88	第35期 階18	SK260	土師器	肥子付 蓋	(25.2)	-	(14.0)	橙 ～にぶい	同様ナデ 削オセエ	へうケズリ ナデ 削オセエ	へうケズリ ナデ 削オセエ	ほぼ精良 赤色粘土・角 閃石・黒石含む		黒石あり	202114 000115
89	第35期 階18	SK260	土師器	蓋	(16.9)	-	(18.8)	明赤黒 ～灰	削オセエ 削オセエ	削オセエ ナデ 削オセエ	ほぼ精良 赤色粘土・黒石含む		黒石あり	202114 000070	
90	第35期 階18	SK260	須恵器	蓋	(13.4)	2.0	2.0	灰	同様ナデ ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	ほぼ精良 粗粒砂・粗 粒石・粗粒砂含む			202114 000085	
91	第35期 階18	SK260	須恵器	蓋	(14.3)	-	1.1	灰	同様ナデ ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	中粒砂含む			202114 000078	
92	第35期 階18	SK260	須恵器	蓋	(14.0)	-	(1.4)	黄灰	同様ナデ 同様へうケズリ	同様ナデ	ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む			202114 000057	

第3表 出土遺物観察表3

遺物 番号	遺物 図面 番号	遺構	材質	形状	位置			色調				調査		備考	記録 番号
					口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	外面	内面	外面	内面	内面	土質		
93	第35期 図版18	SK260	須恵器	蓋	17.6	2.1	3.2	灰	灰	灰	同輪ナデ	同輪ナデ	ほぼ黒目 地相砂・粗粒砂含む	工肌あり?	202114 000556
94	第35期 図版18	SK260	須恵器	蓋	19.2	-	(1.5)	にふい～ 灰白	灰～灰白	灰	同輪ナデ	同輪ナデ	含む含む、わずかに中粒・ 粗粒砂含む	全体的に摩滅	202114 000557
95	第35期 図版18	SK260	須恵器	坪	(12.2)	(7.4)	4.4	灰	灰	灰	同輪ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	同輪ナデ	中粒砂・粗粒砂含む		202114 000552
96	第35期 図版19	SK260	須恵器	坪	(12.8)	(8.8)	3.9	灰	灰	灰	同輪ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	同輪ナデ ナデ	ほぼ黒目 含む・粗粒砂含む		202114 000552
97	第35期 図版19	SK260	須恵器	坪	(13.2)	(8.2)	4.1	灰	灰	灰	同輪ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	同輪ナデ ナデ	粗粒砂含む		202114 000551
98	第35期 図版19	SK260	須恵器	坪	(13.2)	7.4	4.0	灰	灰	灰	同輪ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	同輪ナデ	ほぼ黒目 わずかに粗粒 砂・粗粒砂含む		202114 000556
99	第35期 図版19	SK260	須恵器	坪	13.6	9.8	3.7	灰	灰	灰	同輪ナデ ナデ 同輪ヘラケズリ	同輪ナデ ナデ	わずかに粗粒・粗粒砂含む		202114 000596
100	第35期 図版19	SK260	須恵器	坪	14.0	9.8	3.8	灰白 ～黄灰	灰白	灰	同輪ナデ ナデ	同輪ナデ	粗粒・粗粒砂含む	全体的に摩滅	202114 000598
101	第35期 図版19	SK260	須恵器	坪	(13.6)	(8.8)	4.0	灰	灰	灰	同輪ナデ ナデ ヘラ切り	同輪ナデ	ほぼ黒目 ごくわずかに 粗粒・粗粒砂含む	内面に焼き跡も 多数あり	202114 000553
102	第35期 図版19	SK260	須恵器	坪	16.1	(8.8)	6.5～ 5.9	にふい黄緑 ～灰	にふい黄緑	灰	同輪ナデ 同輪ヘラケズリ ヘラ切り	同輪ナデ	黒目		202114 000575
103	第35期 図版19	SK260	須恵器	坪	(18.0)	(9.4)	5.1	灰白	にふい黄緑	灰	同輪ナデ ナデ	同輪ナデ ナデ	わずかに粗粒砂含む		202114 000597
104	第35期 図版19	SK260	須恵器	皿	17.2	14.8	2.3	にふい黄～ 黄灰	黄灰	灰	同輪ナデ ヘラ切り後ナデ	同輪ナデ	粗粒砂含む		202114 000599
105	第35期 図版19	SK260	須恵器	皿	17.4	14.2	2.5	灰～灰白	灰～灰白	灰	同輪ナデ ヘラ切り後ナデ	同輪ナデ	ほぼ黒目 わずかに粗粒 砂・粗粒砂含む		202114 000554
106	第35期 図版19	SK260	須恵器	皿	(17.8)	(14.6)	2.2	灰	灰	灰	同輪ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	同輪ナデ	ほぼ黒目 わずかに粗粒・ 中粒砂・粗粒砂含む		202114 000555
107	第36期 図版19	SK260	土製品	土埴	3.6	1.5	1.5	にふい～ 黄	にふい～ 黄	ナデ			含む含む		202114 000662
108	第36期 図版19	SK260	土製品	土埴	4.7	2.0	1.7	黄	-	ナデ					202114 000673
109	第36期 図版19	SK260	土製品	土埴	4.4	1.2	1.1	浅黄緑	浅黄緑	ナデ					202114 000683
110	第36期 図版19	SK260	土製品	土埴	5.5	1.9	1.8	灰白～黄灰	-	ナデ					202114 000672
111	第36期 図版19	SK260	土製品	土埴	6.1	3.1	3.1	にふい～ 黄灰	-	ナデ					202114 000674
112	第36期 図版19	SK260	土製品	土埴	6.9	1.1	1.1	にふい黄～ にふい黄	にふい黄	ナデ					202114 000661
113	第36期 図版19	SK260	土製品	土埴	5.8	1.4	1.3	灰白	灰白	ナデ					202114 000681
114	第36期 図版20	SK260	土製品	土埴	6.0	2.0	1.8	黄～黄灰	黄～黄灰	ナデ					202114 000482
115	第36期 図版20	SK260	土製品	土埴	6.1	2.1	1.7	にふい～ 黄	-	ナデ					202114 000671
116	第36期 図版20	SK260	土製品	土埴	5.8	1.0	0.4	-	-	ナデ					202114 000354
117	第36期 図版20	SK260	土製品	土埴	20.9	13.4	0.5～ 1.8	黄	黄	同輪ナデ ナデ 同輪ヘラケズリ	同輪ナデ				202114 000361
118	第36期 図版20	SK523	土師器	丸	(20.1)	(12.6)	5.6	黄	黄	同輪ナデ ナデ 同輪ヘラケズリ	同輪ナデ				202114 000117
119	第36期 図版20	SK548	土師器	釘	3.9	0.6	0.5								202114 000355
120	第36期 図版20	SK548	土師器	釘	3.9	0.6	0.5								202114 000356
121	第36期 図版20	SK549	土師器	坪	-	-	3.6	灰黄～黄	灰黄	同輪ナデ ナデ	同輪ナデ				202114 000118
122	第36期 図版20	SK549	土師器	坪	5.6	1.7	0.3								202114 000557
123	第36期 図版20	SK560	土師器	坪	(14.1)	(10.8)	3.1	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ 同輪ヘラケズリ	同輪ナデ ナデ	赤色砂子・雲母・粗粒砂	門部あり 全体的に摩滅	202114 000119	
124	第36期 図版20	SK560	土師器	坪	(14.8)	(12.8)	3.1	にふい黄緑 ～黄	にふい黄緑 ～黄	同輪ナデ 同輪ヘラケズリ	同輪ナデ	ほぼ黒目 赤色砂子・雲母含む	全体的に摩滅	202114 000120	
125	第36期 図版20	SK560	土師器	坪	(15.2)	(8.9)	2.8	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ ヘラ切り後ナデ	同輪ナデ ナデ	わずかに赤色砂子・雲母 含む		202114 000123	
126	第36期 図版20	SK560	土師器	坪	(16.2)	(14.1)	2.8	黄～黄灰	黄	同輪ナデ ナデ 手切ヘラケズリ?	同輪ナデ ナデ	赤色砂子・雲母多く含む		202114 000125	
127	第36期 図版20	SK560	土師器	高坪	-	12.0	(4.3)	黄	黄	同輪ナデ	同輪ナデ ナデ	赤色砂子・黒石・雲母含む		202114 000121	
128	第36期 図版20	SK560	須恵器	蓋	(15.2)	-	(1.5)	灰	灰	同輪ナデ	同輪ナデ	ほぼ黒目 わずかに粗粒砂含む		202114 000124	
129	第36期 図版20	SK560	土師器	坪	3.8	0.7	0.4								202114 000358
130	第36期 図版20	SK561	土師器	坪	(15.2)	-	2.8	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ ナデ 同輪ヘラケズリ	同輪ナデ ナデ?	黒目	門部あり 全体的に摩滅	202114 000128	
131	第36期 図版20	SK561	土師器	坪	(14.4)	(10.2)	3.9	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ ナデ?	ナデ?	赤色砂子・黒石・雲母・ 中粒砂含む	外面摩滅	202114 000125	
132	第36期 図版21	SK561	土師器	坪	(13.2)	(9.4)	4.5	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ? ヘラケズリ?	同輪ナデ?	わずかに赤色砂子・雲母 含む	全体的に摩滅	202114 000130	
133	第36期 図版21	SK561	土師器	坪	(20.2)	(14.2)	6.7	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ 同輪ヘラケズリ後ナデ	同輪ナデ	赤色砂子・雲母・中粒砂 含む	内面一部剥離	202114 000126	
134	第36期 図版21	SK561	土師器	皿	(15.6)	(13.6)	2.7	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ ヘラケズリ	同輪ナデ? ナデ?	黒目		202114 000131	
135	第36期 図版21	SK561	土師器	皿	(15.2)	(13.8)	2.8	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ ヘラケズリ	同輪ナデ	黒目 わずかに雲母含む	全体的に摩滅	202114 000132	
136	第36期 図版21	SK561	土師器	皿	(16.0)	(12.2)	2.0	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ?	同輪ナデ? ナデ?	雲母・粗粒砂含む	全体的に摩滅	202114 000127	
137	第36期 図版21	SK561	土師器	鉢	(35.2)	-	(9.7)	にふい～ 黄	にふい～ 黄	同輪ナデ ナデ ハケ目 削ぎエ	同輪ナデ ナデ	赤色砂子・雲母・粗粒砂	外面一部剥離 裏面あり	202114 000133	
138	第36期 図版21	SK561	須恵器	坪	(13.8)	9.3	4.1	灰黄～黄灰	黄灰	同輪ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	同輪ナデ ナデ	黒目		202114 000129	

Ⅲ. 調査の記録

第4表 出土遺物観察表4

探検号	調査 番号	遺構	材質	形状	位置		深さ (M)	色別				備考	記録 番号		
					口縁 (M)	底径 (M)		外面	内面	外面	内面			粘土	
139	第36回 探検21	SK561	須磨器	坪	(12.4)	(8.0)	4.3	灰白～黄灰	黄灰	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 わずかに中粒砂含む	202114 000134
140	第36回 探検21	SK561	須磨器	刀子	(7.0)	1.3	0.5							遺失(2.2.2) 本頁が現存	202114 000139
141	第36回 探検21	SK562	土師器	坪	-	(8.9)	1.0	にぶい黄褐色 ～にぶい褐色	にぶい黄褐色	回転ナデ?	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良	全体的に摩滅 202114 000136
142	第36回 探検21	SK562	土師器	坪	-	(8.5)	1(2)	黄	灰	回転ナデ	ナデ	ナデ		ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む	202114 000137
143	第36回 探検21	SK562	土師器	腰皿	(17.5)	4.1	3.6	明赤褐色 ～にぶい黄褐色		ナデ	ナデ?	ナデ?		赤色粘土・雲母・角閃石・ 輪郭粒砂～中等多く含む	焼熱あり 202114 000135
144	第37回 探検21	SK563	須磨器	坪	-	(11.0)	0(0)	灰白	灰黄褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 わずかに中粒砂含む	202114 000138
145	第37回 探検21	SK563	須磨器	坪	(12.4)	(8.2)	4.9	灰	灰	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む	202114 000139
146	第37回 探検21	SK564	土師器	坪	(13.6)	(9.4)	3.1	にぶい黄褐色 ～浅黄褐色	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 わずかに赤色 粘土・雲母・中粒砂含む	全体的に摩滅 202114 000140
147	第37回 探検21	SK564	土師器	坪	(14.0)	(10.6)	3.1	黄	黄	ナデ	ナデ	ナデ		ほぼ精良	全体的に摩滅 202114 000141
148	第37回 探検21	SK864	土師器	坪	-	-	02.0	黄灰～ にぶい黄褐色	黄	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 わずかに粗粒砂含む	外面加蓋あり 202114 000142
149	第37回 探検21	SK881	土師器	坪	-	-	03.0	にぶい褐色	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	灰白	又(4.7.6) 黒炭あり 202114 000163
150	第37回 探検22	SK881	土師器	坪	(17.0)	(12.4)	4.3	にぶい黄褐色 ～にぶい褐色	にぶい褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	雲母を含む わずかに粗粒 輪郭粒砂含む	202114 000148
151	第37回 探検22	SK881	土師器	坪	(14.9)	10.9	3.4	にぶい黄褐色 ～黄灰	にぶい黄褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	輪郭粒を含む	■田あり 202114 000156
152	第37回 探検22	SK881	土師器	坪	15.0	11.8	3.9	にぶい褐色	にぶい黄褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	精良	■田あり 202114 000157
153	第37回 探検22	SK881	土師器	坪	14.9	10.8	3.8	にぶい褐色 ～黄灰	にぶい褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	精良	■田あり 202114 000159
154	第37回 探検22	SK881	土師器	坪	-	-	03.0	にぶい褐色 ～黄	にぶい褐色	回転ナデ?	ナデ	回転ナデ	ナデ	雲母を含む わずかに粗粒 砂・輪郭粒砂含む	■田あり 202114 000149
155	第37回 探検22	SK881	土師器	腰皿	(19.9)	4.7	3.5	黄	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	雲母・輪郭粒砂多く含む	202114 000160
156	第37回 探検22	SK881	土師器	腰皿	(10.8)	3.0	3.5	灰白～ 明黄褐色	灰白 ～明黄褐色	胎サセ	ナデ	胎サセ	ナデ	雲母・角閃石・細砂・輪 郭粒砂含む	202114 000150
157	第37回 探検22	SK881	須磨器	蓋	15.3	1.6	1.6			回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	わずかに粗粒砂	202114 000158
158	第37回 探検22	SK881	須磨器	蓋	15.9	2.0	1.6			回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	雲母・中砂・輪郭粒砂・ 粗粒砂含む	202114 000154
159	第37回 探検22	SK881	須磨器	蓋	(17.0)	-	03.1	灰黄～黄灰	灰黄～黄灰	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 輪郭粒砂・粗粒砂含む	202114 000153
160	第37回 探検22	SK881	須磨器	蓋	(14.2)	2.5	2.5	灰～灰白	灰	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	精良	ヘラ記号あり 202114 000161
161	第37回 探検22	SK881	須磨器	蓋	(12.4)	(9.8)	4.1	黄灰～灰	灰	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 輪郭粒砂・粗粒砂含む	202114 000151
162	第37回 探検22	SK881	須磨器	蓋	(13.9)	(10.6)	4.4	灰白～ にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	粗粒砂・中粒砂含む	202114 000152
163	第37回 探検22	SK881	須磨器	腰皿	(12.1)	(15.6)	13.9	黄灰～黄灰	灰黄～黄灰	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	わずかに粗粒砂 しじり粉	202114 000162
164	第37回 探検23	SK881	土師器	土師	(4.8)	1.9	1.7	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	雲母・角閃石・中粒砂 含む	202114 000155
165	第37回 探検23	SK882	土師器	蓋	(19.2)	-	02.8	灰白	灰白	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	精良	全体的に摩滅 202114 000179
166	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(14.4)	(11.9)	3.4	黄	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	雲母多く含む 赤色粘土少し含む	202114 000186
167	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(12.7)	(9.1)	4.4	黄	黄	回転ナデ	不明	回転ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・中粒砂・ 中等多く含む	外面摩滅 202114 000192
168	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(14.6)	(12.4)	3.4	黄～にぶい 黄褐色	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・赤色粘土・ 中粒砂少し含む	全体的に摩滅 202114 000195
169	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(14.8)	(10.5)	3.7	明赤褐色	明赤褐色～黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	赤色粘土多く含む 雲母・粗粒砂を含む	焼熱あり 202114 000200
170	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(14.7)	(10.3)	3.4	明赤褐色～黄	にぶい黄褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	雲母・中粒砂多く含む 赤色粘土・細砂を含む	全体的に摩滅 202114 000188
171	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(16.5)	(14.8)	(4.5)	黄～にぶい褐色	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂 含む	202114 000186
172	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(16.2)	(12.3)	(4.5)	黄	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 赤色粘土・雲母少し含む	202114 000201
173	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(21.0)	(15.4)	4.9	黄～ にぶい黄褐色	黄～浅黄褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・輪郭粒 砂含む	202114 000197
174	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	-	10.1	09.9	にぶい褐色	にぶい褐色	回転ナデ?	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 わずかに赤色 粘土	ヘラ記号あり 202114 000193
175	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(13.5)	(10.9)	2.9	にぶい黄褐色 ～浅黄褐色	浅黄褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 雲母を含む	ヘラ記号あり 202114 000175
176	第37回 探検23	SK882	土師器	坪	(14.7)	10.7	3.9	黄～にぶい褐色	にぶい黄褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・中粒砂 含む 輪郭粒砂少し含む	202114 000184
177	第38回 探検23	SK882	土師器	坪	-	(13.6)	(1.7)	にぶい褐色	にぶい褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	精良	■田あり 202114 000164
178	第38回 探検23	SK882	土師器	坪	-	10.9	(1.4)	黄～にぶい褐色	にぶい褐色	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・中粒砂 含む	■田あり 202114 000194
179	第38回 探検23	SK882	土師器	坪	-	-	01.0	にぶい黄褐色	浅黄褐色	不明	ナデ	ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・中粒砂 含む 輪郭粒砂少し含む	外面摩滅 202114 000193
180	第38回 探検24	SK882	土師器	坪	-	-	01.0	にぶい褐色	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	ほぼ精良 雲母・輪郭粒砂含む	■田あり 202114 000172
181	第38回 探検24	SK882	土師器	坪	-	-	01.0	にぶい褐色	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	精良	■田あり 202114 000169
182	第38回 探検24	SK882	土師器	坪	-	-	03.0	黄～黄灰	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂 含む 中等多く含む	■田あり 202114 000199
183	第38回 探検24	SK882	土師器	坪	-	-	(1.0)	にぶい褐色 ～にぶい褐色	にぶい黄褐色	回転ナデ?	ナデ	回転ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂 含む	■田あり 202114 000191
184	第38回 探検24	SK882	土師器	坪	(14.4)	(9.7)	2.8	黄	黄	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 雲母を含む	202114 000177

第5表 出土遺物観察表5

調査 番号	調査 区画 番号	遺物 の種類	材質	形状	法量		色相		用途		備考	記録 番号		
					口径 (長)	底径 (短)	高さ (厚)	外面	内面	外面			内面	
185	第38回 調査区 画24	SK882	土師器	坪	(15.4)	(13.0)	2.6	にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ナデ ヘラ切り?	同軸ナデ ナデ	赤色粘土・雲母・中粒砂 含む 施粒粗砂少し含む	門前福あり 全体的に摩滅	202114 000188
186	第38回 調査区 画24	SK882	土師器	皿	(14.8)	(11.6)	2.0	橙	にぶい・橙	同軸ナデ ナデ 付付付ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良 わずかに雲母含む	202114 000189	
187	第38回 調査区 画24	SK882	土師器	皿	(15.5)	(12.7)	2.3	にぶい・橙 ～黄	にぶい・橙 ～黄	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良 わずかに赤色粘土含む	門前福あり	202114 000176
188	第38回 調査区 画24	SK882	土師器	皿	(18.0)	(13.1)	2.9	にぶい・橙 ～灰黄	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	同軸ナデ ナデ	赤色粘土・雲母・中粒砂 含む 陶器内少し含む	●目あり	202114 000202
189	第38回 調査区 画24	SK882	土師器	皿	16.8	12.6	3.1 ～2.8	にぶい・黄	同軸ナデ ヘラ切り後ナデ	同軸ナデ ナデ	同軸ナデ ナデ	わずかに雲母・細粒砂 含む	●目あり	202114 000203
190	第38回 調査区 画24	SK882	土師器	皿	17.2	12.6	3.0	にぶい・橙	同軸ナデ ヘラ切り後ナデ	同軸ナデ ナデ	同軸ナデ ナデ	わずかに赤色粘土・雲母 含む	●目あり	202114 000204
191	第38回 調査区 画24	SK882	土師器	皿	(18.8)	(13.8)	2.7	にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ?	同軸ナデ ナデ	精良	門前福か? ヘラ記あり	202114 000178
192	第38回 調査区 画24	SK882	土師器	高坪	(21.4)	-	(2.5)	にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ナデ ナデ ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良	●目・ヘラ記あり ●目・ヘラ記あり	202114 000165
193	第38回 調査区 画24	SK882	土師器	高坪	-	-	(2.4)	にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ後ナデ	同軸ナデ ナデ	精良	●目・ヘラ記あり ●目・ヘラ記あり	202114 000166
194	第38回 調査区 画25	SK882	土師器	鉢	-	18.1	(8.7)	橙	同軸ナデ	同軸ナデ	同軸ナデ	赤色粘土・雲母含む 細粒砂・中量少し含む	全体的に摩滅	202114 000180
195	第38回 調査区 画25	SK882	土師器	鉢	-	7.6	橙	同軸ナデ	同軸ナデ	同軸ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	同軸ナデ ナデ	赤色粘土・雲母含む わずかに中粒砂含む	施粒粗砂あり 全体的に摩滅	202114 000181
196	第38回 調査区 画25	SK882	土師器	鉢	(32.2)	-	(2.8)	明黄緑～橙	同軸ナデ	同軸ナデ	同軸ナデ ナデ ケズリ ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂・ 細粒砂・中量含む	黒染あり	202114 000182
197	第38回 調査区 画25	SK882	須恵器	蓋	(14.6)	-	(1.8)	黄灰	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	同軸ナデ ナデ	精良	粘土付着	202114 000205
198	第38回 調査区 画25	SK882	須恵器	蓋	(15.4)	-	(1.0)	黄灰	同軸ナデ	同軸ナデ	同軸ナデ ナデ	精良		202114 000167
199	第38回 調査区 画25	SK882	須恵器	蓋	(15.8)	-	2.4	にぶい・黄緑 ～灰白	にぶい・黄緑	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	わずかに細粒砂含む		202114 000206
200	第38回 調査区 画25	SK882	須恵器	坪	-	8.2	(1.7)	黄灰	灰白	同軸ナデ ヘラ切り	同軸ナデ ナデ	雲母・細粒砂含む		202114 000183
201	第38回 調査区 画25	SK882	須恵器	坪	(13.8)	(10.4)	4.0	黄灰	灰白	同軸ナデ ナデ ヘラ切り	同軸ナデ	雲母・中粒砂・細粒砂 含む		202114 000184
202	第38回 調査区 画25	SK882	須恵器	高坪	-	11.4	(5.0)	黄灰～灰	灰白	同軸ナデ ナデ しぼり肌	同軸ナデ ナデ	中粒砂含む		202114 000198
203	第38回 調査区 画25	SK882	須恵器	高坪	(21.6)	(12.4)	(8.3)	にぶい・橙 ～黄灰	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ 数ヶヶ	同軸ナデ ナデ	精良		202114 000179
204	第38回 調査区 画25	SK882	須恵器	高坪	19.9	10.7	6.3 ～7.0	灰	灰白	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ しぼり肌	精良		202114 000171
205	第38回 調査区 画25	SK882	須恵器	高坪	-	11.2	(1.1)	黄灰	灰白	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良		202114 000207
206	第39回 調査区 画25	SK882	土師器	土師	5.4	2.0	1.9	にぶい・橙	-	ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母含む		202114 000168
207	第39回 調査区 画25	SK882	土師器	土師	5.2	2.0	2.0	にぶい・橙	-	ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母含む		202114 000190
208	第39回 調査区 画25	SK882	須恵器	刀子	(4.3)	1.0	0.3						長さ 3.0 g	202114 000364
209	第39回 調査区 画25	SK882	須恵器	刀子	(4.2)	0.6	0.4						長さ 3.6 g	202114 000365
210	第39回 調査区 画25	SK882	須恵器	刀子	(4.3)	0.7	0.6						長さ 5.4 g	202114 000366
211	第39回 調査区 画26	SK882	須恵器	鉄押	6.6	5.6	1.7						長さ 81.1 g	202114 000367
212	第39回 調査区 画26	SK882	石製品	石環	2.9	2.0	0.5	黒					黒着色	202114 000368
213	第39回 調査区 画26	SK987	土師器	坪	(18.0)	(13.4)	4.5	橙 ～にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ヘラケズリ	同軸ナデ?	わずかに細粒・中粒砂 含む	黒染あり 全体的に摩滅	202114 000213
214	第39回 調査区 画26	SK989	土師器	甕	-	-	(15.5)	橙～黄灰	黄灰	ハケ目 ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂 含む 中量少し含む		202114 000214
215	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	蓋	(12.9)	-	2.3	橙	同軸ヘラケズリ ナデ	同軸ナデ ナデ	同軸ナデ ナデ	赤色粘土・細粒砂含む	門前福あり 全体的に摩滅	202114 000332
216	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	蓋	(13.9)	-	3.1	浅黄緑	同軸ナデ	同軸ナデ	同軸ナデ ナデ	赤色粘土含む	門前福あり 全体的に摩滅	202114 000333
217	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	蓋	15.5	-	3.4	浅黄緑～橙	同軸ナデ	同軸ナデ	同軸ナデ ナデ	赤色粘土含む	口縁部のみあり	202114 000233
218	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	蓋	(17.2)	(12.7)	2.1	にぶい・橙	にぶい・黄緑	同軸ナデ ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	ほぼ精良 赤色粘土含む	ヘラ記あり	202114 000234
219	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	坪	(13.0)	(8.5)	2.9	灰白～橙	浅黄緑～橙	不明	不明	ほぼ精良 赤色粘土多く含む	全体的に摩滅	202114 000217
220	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	坪	(13.0)	(10.6)	3.8	橙	同軸ナデ	同軸ナデ	同軸ナデ	ほぼ精良 赤色粘土含む	全体的に摩滅	202114 000235
221	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	坪	-	(11.0)	(2.2)	にぶい・黄緑	にぶい・黄緑	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	ほぼ精良 赤色粘土含む		202114 000227
222	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	坪	(15.0)	(10.0)	3.7	橙	にぶい・橙	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	ほぼ精良 赤色粘土含む	門前福あり	202114 000228
223	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	坪	(14.8)	(10.1)	3.1	橙	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	同軸ナデ ナデ	ほぼ精良 わずかに赤色 粘土・雲母含む		202114 000211
224	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	坪	(15.1)	(11.4)	2.9	橙	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	同軸ナデ ナデ	ほぼ精良 わずかに赤色 粘土・雲母含む		202114 000212
225	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	坪	(15.2)	(11.7)	3.2	橙	にぶい・橙	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	ほぼ精良 わずかに赤色 粘土・雲母含む		202114 000219
226	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	坪	16.6	10.2	5.6	にぶい・橙	同軸ナデ	同軸ナデ	同軸ナデ ナデ	赤色粘土・粗粒砂含む	門前福・黒染あり 全体的に摩滅	202114 000230
227	第39回 調査区 画26	SK992	土師器	坪	(12.8)	(9.0)	3.9	橙～にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	赤色粘土・粗粒砂含む	黒染あり	202114 000228
228	第39回 調査区 画27	SK992	土師器	坪	(13.8)	(9.3)	4.3	明黄緑～橙	浅黄緑～橙	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂 含む	黒染あり?	202114 000227
229	第39回 調査区 画27	SK992	土師器	高坪付 蓋	(13.0)	(9.0)	2.7	橙～明黄緑	同軸ナデ ナデ ヘラ切り	同軸ナデ	同軸ナデ	赤色粘土・粗粒砂含む	黒染あり	202114 000229
230	第39回 調査区 画27	SK992	土師器	坪	(18.8～ 19.9)	(12.6)	2.1 ～2.7	にぶい・橙 ～橙	にぶい・橙 ～橙	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	ほぼ精良 わずかに赤色 粘土・雲母含む	赤み強い	202114 000225

Ⅲ. 調査の記録

第6表 出土遺物観察表6

調査 番号	遺物 番号	遺物 種類	材質	形状	法量		色澤		用途		備考	記録 番号	
					口径 (長)	底径 (短)	高さ (厚)	外面	内面	外面			内面
231	SK992	土師器	甕	(18.5)	(14.5)	2.8	灰～浅黄褐色	にぶい・黄褐色	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	赤色粘土・雲母・糊状砂を含む	門前福あり ヘラ記号あり	201214 000226
232	SK992	土師器	肥子付 壺	(35.0)	-	(13.2)	灰	浅黄褐色	同軸ナデ ヘラ目 ナデ ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	同軸粘土	門前福あり 全体的に厚縁	201214 000239
233	SK992	須恵器	甕	(14.3)	-	2.6	灰	灰	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良	201214 000275	
234	SK992	須恵器	甕	(15.8)	-	(5.3)	黄灰	暗赤灰	同軸ナデ 浅黄	同軸ナデ	精良 わずかに角閃石を含む	201214 000245	
235	SK992	土師器	土罽	5.3	3.1	3.0	橙～黄褐色	明赤褐色	筒サエテ		赤色粘土を含む	201214 000235	
236	SK992	須恵器	鉄浮 罽	8.8	8.1	2.5						高さ 209.7 ㎖	201214 000268
237	SK994	土師器	甕	(16.5)	-	(1.8)	にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 雲母を含む	門前福あり	201214 000253
238	SK994	土師器	灰	12.8	8.7	3.3	にぶい・黄褐色 ～黄灰	にぶい・黄褐色	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良	内面厚縁	201214 000238
239	SK994	土師器	罽	(12.8)	8.7	4.1	にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ後同軸ナデ	同軸ナデ ナデ	赤色粘土を含む	門前福あり	201214 000238
240	SK994	土師器	罽	(13.6)	(9.8)	3.1	浅黄褐色～ 黄灰	橙	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ?	同軸ナデ ナデ	赤色粘土・雲母を含む	門前福あり ヘラ記号あり	201214 000236
241	SK994	土師器	罽	13.0	8.1	3.3	橙	橙	ナデ?	ナデ?	赤色粘土を含む	門前福あり 全体的に厚縁	201214 000237
242	SK994	土師器	甕	(15.9)	(12.0)	2.4	にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 雲母を含む	201214 000252	
243	SK994	土師器	鉢	-	(13.8)	(8.6)	橙	橙～ にぶい・黄褐色	ナデ? 同軸ヘラケズリ ナデ	同軸ナデ?	赤色粘土を含む	全体的に厚縁	201214 000241
244	SK994	土師器	鉢	(22.3)	(14.8)	13.7	橙～灰黄	同軸ナデ? ヘラ切り?	不明	不明	わずかに赤色粘土を含む	黒灰あり 全体的に厚縁	201214 000240
245	SK994	土師器	肥子付 罽	(24.0)	-	(14.0)	橙	橙	ナデ ヘラ目 ナデ	ナデ	わずかに雲母・糊状砂を含む	外周一部割離	201214 000243
246	SK994	土師器	罽	29.4	-	23.7	にぶい・橙 ～灰黄	にぶい・橙	同軸ナデ ヘラケズリ後ナデ	不明	赤色粘土・糊状砂を含む	黒灰あり 全体的に厚縁	201214 000242
247	SK994	土師器	罽	(19.6)	3.8	4.5	にぶい・黄褐色 ～黄灰	にぶい・黄褐色	ナデ? 筒サエテ	不明	雲母・糊状砂を含む	黒灰あり	201214 000244
248	SK994	須恵器	罽	(14.0)	(9.8)	4.1	黄灰～灰	黄灰	同軸ナデ ナデ ヘラ切り	同軸ナデ	糊状砂・中粒砂を含む		201214 000245
249	SK994	須恵器	高杯	(22.8)	(13.0)	9.2	黄灰～黄灰	黄灰～黄灰	同軸ナデ ナデ	同軸ナデ ナデ	糊状砂を含む		201214 000246
250	SK994	土師器	土罽	5.9	1.9	1.8	にぶい・黄褐色		ナデ		精良 わずかに赤色粘土・ 雲母を含む	201214 000254	
251	SK994	土師器	土罽	5.4	2.2	2.0	橙		ナデ		精良 わずかに赤色粘土・ 雲母を含む	201214 000255	
252	SK994	土師器	粘土土罽	5.4	4.4	2.1	橙				赤色粘土・雲母・角閃石 糊状砂を含む	スズ福あり	201214 000248
253	SK994	土師器	粘土土罽	(5.2)	(3.7)	(2.6)	橙				雲母・角閃石・糊状砂 砂を含む	スズ福あり	201214 000249
254	SK994	土師器	粘土土罽	8.8	7.6	4.6	橙				雲母・中粒砂・糊状砂 砂を含む	スズ福あり	201214 000247
255	SK995	土師器	罽	(13.2)	(8.2)	4.2	にぶい・橙 ～黄灰	にぶい・橙	同軸ナデ ヘラ切り後同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	ほぼ精良 赤色粘土多く含む	門前福あり	201214 000256
256	SK995	須恵器	甕	-	(22.0)		黄灰	黄灰	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良	201214 000258	
257	SK995	須恵器	甕	(15.8)	-	(2.1)	黄灰	黄灰	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	精良	201214 000257	
258	SK996	土師器	罽	-	(9.6)	(3.5)	橙～明赤褐色	にぶい・赤褐色	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	ほぼ精良 赤色粘土・雲母を含む	201214 000259	
259	SK996	須恵器	罽	-	9.8	2.0	灰白	灰白	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	雲母・糊状砂を含む	201214 000260	
260	SK996	須恵器	転用罽	-	-	1.4	灰白～灰黄	灰黄	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	赤色粘土を含む	蓋の転用	201214 000261
261	SK998	土師器	罽	(14.0)	9.7	3.6	にぶい・橙 ～黄灰	にぶい・橙	同軸ナデ 不明	同軸ナデ ナデ	ほぼ精良 赤色粘土を含む	門前福・黒灰あり 全体的に厚縁	201214 000268
262	SK998	土師器	罽	(14.4)	10.4	4.1	にぶい・橙 ～黄灰	にぶい・黄褐色	同軸ヘラケズリ	不明	わずかに雲母・中粒砂 を含む	門前福あり 全体的に厚縁	201214 000269
263	SK998	土師器	罽	(15.4)	(11.2)	3.7	灰黄～ にぶい・橙	にぶい・橙	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 雲母を含む	201214 000262	
264	SK998	土師器	罽	(19.2)	(15.0)	2.1	橙～浅黄褐色	にぶい・黄褐色	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 雲母を含む	201214 000265	
265	SK998	土師器	甕	(17.8)	(11.0)	2.5	橙～ にぶい・黄褐色	にぶい・橙	同軸ナデ ヘラ切り	同軸ナデ	わずかに雲母・糊状砂 砂を含む	内面厚縁	201214 000274
266	SK998	須恵器	甕	13.1	-	2.3	黄灰	灰白～黄灰	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 雲母を含む	201214 000267	
267	SK998	須恵器	甕	(17.8)	-	2.2	黄灰	浅黄褐色	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	角閃石・糊状砂・ 中粒砂を含む	201214 000272	
268	SK998	須恵器	甕	(14.6)	(9.0)	3.9	灰	灰	同軸ナデ ナデ ヘラ切り	同軸ナデ	精良	ヘラ記号あり	201214 000270
269	SK998	須恵器	罽	(14.2)	11.2	3.6	灰	灰	同軸ナデ ヘラ切り	同軸ナデ ナデ	精良	内面に粘土残存	201214 000264
270	SK998	須恵器	罽	(13.0)	(10.8)	2.3	灰	灰	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	糊状砂を含む	201214 000271	
271	SK998	須恵器	罽	(15.0)	(11.6)	4.5	黄灰～ にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色	同軸ナデ ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	精良	201214 000266	
272	SK998	須恵器	罽	(16.6)	(11.3)	5.3	黄灰	灰白	同軸ナデ ナデ ヘラ切り	同軸ナデ ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 中粒砂を含む	201214 000270	
273	SK1004	土師器	甕	(16.2)	-	2.7	橙	橙	ナデ	ナデ?	赤色粘土・雲母・中粒 砂を含む	全体的に厚縁	201214 000280
274	SK1004	土師器	罽	(13.0)	(9.8)	2.7	橙	不明	不明	不明	赤色粘土・糊状砂を含む	黒灰あり 全体的に厚縁	201214 000276
275	SK1004	土師器	罽	(13.0)	(9.6)	3.9	にぶい・黄褐色 ～黄灰	灰白	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ ナデ	雲母・中粒砂を含む	黒灰あり	201214 000277
276	SK1004	土師器	罽	(14.4)	(9.6)	3.6	橙～ にぶい・黄褐色	灰白	同軸ナデ 同軸ヘラケズリ	同軸ナデ	赤色粘土・中粒砂・糊 状砂を含む	黒灰あり	201214 000275

第7表 出土遺物観察表7

調査 番号	遺物 番号	遺物 説明	材質	形状	法量		色相		用途		備考	記録 番号		
					口径 (長)	直径 (幅)	高さ (厚)	外面	内面	外面			内面	
277	第41回 調査30	SK1004	土師器	杯	(13.2)	(8.2)	3.0	橙	橙	不明	不明	赤色粘土含む 全体的に摩滅	202114 000278	
278	第41回 調査30	SK1004	土師器	杯	(11.2)	(7.4)	4.1	橙	ナデ?	ナデ?	不明	赤色粘土・細粒砂含む 全体的に摩滅	202114 000289	
279	第41回 調査30	SK1009	土師器	甕	(14.8)	(10.0)	3.4	橙	橙一灰黄 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	不明	赤色粘土・細粒砂含む 全体的に摩滅	202114 000281	
280	第41回 調査30	SK1009	土師器	甕	(24.6)	-	5.1	灰黄褐 ～灰黄	灰	回転ナデ	タタキ	はば箱蓋 回転砂含む	自然焼付着	202114 000282
281	第41回 調査30	SK1107	土師器	鉢	-	(16.0)	(12.5)	橙	橙	回転ナデ? ナデ	回転ナデ	赤色粘土・角閃石・輪 切り後回転砂含む	自然焼付着	202114 000287
282	第41回 調査30	SK1107	土師器	杯	(13.6)	(8.9)	4.0	灰～黄灰	灰	回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	粗粒砂多く含む 赤色粘土・角閃石	202114 000288	
283	第41回 調査30	SK1107	土師器	甕	-	-	(5.5)	灰	灰	回転ナデ 流紋文	不明	赤色粘土・角閃石・輪 切り後回転砂含む	202114 000288	
284	第41回 調査30	SK1123	土師器	甕	-	(10.8)	2.0	橙	不明	不明	不明	はば箱蓋	全体的に摩滅	202114 000285
285	第41回 調査30	SK1192	土師器	蓋	(20.0)	-	3.2	橙	にぶい・橙 ～橙	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	わずかに雲母・角閃石・ 細砂・中粒砂含む	202114 000296	
286	第41回 調査30	SK1192	土師器	蓋	(21.5)	-	4.5	橙	にぶい・黄橙	回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ?	はば箱蓋 赤色粘土・赤色粘土含む	202114 000295	
287	第41回 調査30	SK1192	土師器	杯	(14.3)	(12.3)	4.3	橙	にぶい・橙	回転ナデ	不明	赤色粘土・赤色粘土含む わずかに角閃石・中 粒砂含む	202114 000291	
288	第41回 調査30	SK1192	土師器	杯	(13.6)	-	(3.1)	にぶい・橙	にぶい・橙	回転ナデ? ナデ	不明	赤色粘土・雲母多く含む わずかに細砂含む	全体的に摩滅	202114 000293
289	第41回 調査30	SK1192	土師器	杯	(14.7)	(10.6)	3.5	明赤黄	明赤黄	手持ちヘラケズリ ナデ?	ナデ?	赤色粘土・雲母・角閃石・ 粗粒砂含む	黒炭あり 全体的に摩滅	202114 000300
290	第41回 調査30	SK1192	土師器	杯	(13.6)	(9.6)	3.7	橙	不明	回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ	回転ナデ	はば箱蓋 赤色粘土・雲母少し含む	202114 000292	
291	第41回 調査30	SK1192	土師器	杯	-	-	(3.3)	橙	不明	回転ナデ ナデ 手持ちヘラケズリ?	回転ナデ ナデ?	赤色粘土・雲母含む 粗粒砂少し含む	202114 000290	
292	第41回 調査31	SK1192	土師器	杯	(18.4)	(13.0)	5.2	橙	不明	回転ナデ 回転ヘラケズリ	不明	赤色粘土 わずかに中粒砂含む	202114 000299	
293	第41回 調査31	SK1192	土師器	杯	(17.8)	11.5	6.2	にぶい・黄橙 ～橙	にぶい・黄橙 ～橙	回転ナデ ナデ ヘラ切り	不明	赤色粘土・雲母含む 粗粒砂少し含む	202114 000294	
294	第41回 調査31	SK1192	土師器	甕	(16.8)	(9.0)	12.0	にぶい・橙 ～橙	橙	ケズリ ナデ	ケズリ ナデ?	角閃石・中粒・粗粒砂含む	202114 000297	
295	第41回 調査31	SK1192	土師器	甕	(17.3)	(9.5)	4.1	にぶい・橙	不明	不明	不明	雲母・角閃石・輪切り砂 含む	202114 000298	
296	第42回 調査31	SK1192	土師器	蓋	(3.1)	0.6	0.6					高さ 3.7 g	202114 000377	
297	第42回 調査31	SK1192	土師器	蓋	(2.0)	0.5	0.3					高さ 3.4g	202114 000374	
298	第42回 調査31	SK1192	土師器	蓋	(3.4)	-	-					高さ 2.7 g	202114 000375	
299	第42回 調査31	SK1193	土師器	蓋	(0.7)	0.7	0.7					高さ 18.6 g	202114 000371	
300	第42回 調査31	SK1192	土師器	蓋	(5.9)	0.6	0.3					高さ 9.3 g	202114 000373	
301	第42回 調査31	SK1192	土師器	蓋	(5.0)	0.8	0.6					高さ 4.5 g	202114 000376	
302	第42回 調査31	SK1192	土師器	蓋	(5.0)	2.3	0.6					高さ 55.0 g	202114 000378	
303	第42回 調査31	SK1192	土師器	蓋	(8.1)	4.4	0.4					高さ 36.9 g	202114 000379	
304	第42回 調査31	SK1192	土師器	蓋	(4.6)	2.4	0.3					高さ 9.2 g	202114 000380	
305	第42回 調査31	SK1193	土師器	蓋	-	-	(2.2)	橙	にぶい・橙	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	雲母・粗粒砂含む	202114 000381	
306	第42回 調査31	SK1194	土師器	杯	(15.0)	(10.8)	3.9	灰黄～黄灰 ～黄灰	黄灰 ～黄灰	回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	不明	はば箱蓋 こくまわずかに中粒砂含む	202114 000382	
307	第42回 調査31	SK1194	土師器	杯	(6.9)	(5.6)	(3.8)	にぶい・橙	不明	不明	不明	わずかに雲母・中粒砂 含む	202114 000383	
308	第42回 調査31	SK1210	土師器	蓋	(21.0)	-	(2.1)	にぶい・橙	不明	不明	不明	赤色粘土・輪切り砂含む	202114 000384	
309	第42回 調査32	SK1210	土師器	杯	(12.8)	(10.8)	3.0	橙	不明	不明	不明	赤色粘土含む	全体的に摩滅	202114 000318
310	第42回 調査32	SK1210	土師器	杯	(8.0)	(15.3)	4.5	橙	不明	不明	不明	赤色粘土	全体的に摩滅	202114 000317
311	第42回 調査32	SK1210	土師器	杯	(16.8)	(14.8)	(3.7)	橙	橙一灰黄 手持ちヘラケズリ後ナデ?	回転ナデ ナデ	不明	赤色粘土・角閃石・輪 切り後回転砂含む	202114 000312	
312	第42回 調査32	SK1210	土師器	杯	-	(13.5)	(2.8)	橙	にぶい・橙	不明	不明	赤色粘土・雲母含む	202114 000319	
313	第42回 調査32	SK1210	土師器	杯	-	(13.2)	(2.8)	にぶい・橙	にぶい・橙	不明	不明	赤色粘土・雲母含む わずかに粗粒砂含む	202114 000305	
314	第42回 調査32	SK1210	土師器	杯	(14.6)	(14.0)	3.3	にぶい・橙	にぶい・橙	不明	不明	赤色粘土・雲母含む	202114 000317	
315	第42回 調査32	SK1210	土師器	杯	(15.2)	(13.7)	3.7	橙	橙一明赤黄 手持ちヘラケズリ	回転ナデ ナデ	不明	赤色粘土・角閃石・輪 切り後回転砂含む	202114 000308	
316	第42回 調査32	SK1210	土師器	杯	(16.6)	11.4	3.8	灰白	灰白	不明	不明	わずかに角閃石・輪 切り後回転砂含む	202114 000310	
317	第42回 調査32	SK1210	土師器	杯	(15.4)	10.9	4.1	黄灰橙	黄灰橙	不明	不明	雲母・輪切り砂・粗粒 砂含む	202114 000307	
318	第42回 調査32	SK1210	土師器	蓋	(15.0)	(12.9)	2.9	橙	不明	不明	不明	わずかに赤色粘土・雲母 含む	全体的に摩滅	202114 000324
319	第42回 調査32	SK1210	土師器	蓋	(15.7)	13.5	2.6	橙	不明	不明	不明	赤色粘土・雲母・角閃石・ 細砂・中粒砂含む	202114 000319	
320	第42回 調査32	SK1210	土師器	蓋	(14.2)	(12.2)	2.5	橙	にぶい・黄橙	不明	不明	赤色粘土・雲母含む わずかに粗粒砂含む	全体的に摩滅	202114 000325
321	第42回 調査32	SK1210	土師器	蓋	(17.5)	14.8	2.7	黄灰橙 ～黄橙	黄灰橙	不明	不明	赤色粘土・雲母・角閃石 含む	202114 000309	
322	第42回 調査32	SK1210	土師器	蓋	(19.0)	(16.6)	2.4	橙一灰黄	不明	不明	不明	赤色粘土・雲母・角閃石 含む	202114 000310	

Ⅲ. 調査の記録

第8表 出土遺物観察表8

遺物 番号	調査 番号	遺構	材質	形状	寸法			色澤				備考	記録 番号			
					口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	外底	内底	外壁	内壁					
323	第42回 調査32	SK1210	土師器	皿	16.0	14.9	3.2	焼	焼	黄緑	回転ナデ 手持ちヘラケズリ造ナデ?	回転ナデ ナデ 指オサエ	角閃石含む	202114 000311		
324	第42回 調査32	SK1210	土師器	皿	16.7	-	13.7	にぶい・焼	にぶい・黄	焼	回転ナデ	回転ナデ ナデ	赤色粘土・雲母含む わずかに粗粒砂含む	へつろい・内面粗砂 0.8mm程度	202114 000320	
325	第42回 調査32	SK1210	土師器	甕	19.8	-	28.8	にぶい・焼	焼	明赤	ハタ目 ナデ	ケズリ ナデ	雲母・赤色粘土・粗粒砂含む	黒炭あり	202114 000325	
326	第42回 調査32	SK1210	土師器	甕	25.0	-	24.0	明赤	明赤	焼	ハタ目 ナデ	指オサエ	赤色粘土・細粒砂・細砂・ 中粒砂含む	腐付着か	202114 000326	
327	第43回 調査33	SK1210	土師器	甕	23.0	-	28.2	焼	焼	焼	ハタ目 ナデ	ナデ	雲母・角閃石・中粒・細砂・ 粗粒砂含む	黒炭あり	202114 000327	
328	第43回 調査33	SK1210	土師器	把手付 甕	34.2	-	20.0	焼	焼	黄緑	焼	ハタ目 オサエ	ケズリ ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂 含む	外底粗砂あり	202114 000328
329	第43回 調査33	SK1210	土師器	甕	-	10.9	4.9	焼	焼	焼	ケズリ	ケズリ	赤色粘土・雲母・粗粒砂 含む	底部から中上、未完 了穿孔1箇所あり	202114 000329	
330	第43回 調査33	SK1210	土師器	蓋	19.8	-	3.0	灰	灰～暗灰	焼	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	細粒砂含む	0.00314		
331	第43回 調査33	SK1210	土師器	蓋	18.9	-	2.5	灰	灰	焼	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	赤色粘土・細粒砂含む	202114 000315		
332	第43回 調査33	SK1210	土師器	杯	14.0	10.0	3.4	灰	黄灰	焼	回転ナデ ナデ ヘラ切り	回転ナデ	赤色粘土含む	202114 000330		
333	第43回 調査33	SK1210	鉄製品	釘	6.8	0.8	0.6						長さ 8.3 g	202114 000382		
334	第43回 調査33	SK1210	鉄製品	釘	3.6	0.6	0.6						長さ 3.3 g	202114 000384		
335	第43回 調査33	SK1200	鉄洋	鉄洋	5.4	4.0	2.7						長さ 53.5 g	202114 000381		
336	第43回 調査33	SK1210	石製品	結核棒	3.0	-	1.0	灰					暗赤色、微細孔 傾斜 長さ1.19g	202114 000316		
337	第43回 調査33	SK1212	土師器	蓋	19.6	-	3.0	焼	焼	焼	回転ナデ ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	精良 雲母含む	202114 000344		
338	第43回 調査33	SK1212	土師器	杯	11.8	8.6	3.1	にぶい・焼	にぶい・黄	焼	回転ナデ 回転ナデ ヘラ切り?	回転ナデ	精良	202114 000332		
339	第43回 調査33	SK1212	土師器	杯	18.6	13.8	4.8	焼	にぶい・焼	焼	回転ナデ ヘラケズリ造ナデ?	回転ナデ ナデ	赤色粘土含む	202114 000333		
340	第43回 調査34	SK1212	土師器	杯	18.4	14.4	5.3	焼	にぶい・焼	焼	回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 雲母含む	202114 000343		
341	第43回 調査34	SK1212	土師器	杯	-	12.2	2.2	にぶい・焼	にぶい・焼	焼	回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリナデ	回転ナデ ナデ	精良 わずかに赤色粘土・ 角閃石・雲母含む	へつろいあり	202114 000341	
342	第43回 調査34	SK1212	土師器	杯	15.2	12.4	3.3	焼	にぶい・焼	焼	回転ナデ ヘラ切り後回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	精良 わずかに赤色粘土 含む	へつろいあり	202114 000341	
343	第43回 調査34	SK1212	土師器	杯	14.8	12.8	3.1	にぶい・焼	にぶい・焼	焼	回転ナデ ヘラ切り	ナデ	ほぼ精良 角閃石・雲母含む	全体的に摩滅	202114 000340	
344	第43回 調査34	SK1212	土師器	杯	16.0	12.2	3.5	にぶい・焼	にぶい・焼	焼	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	ほぼ精良 わずかに赤色粘土含む	全体的に摩滅	202114 000339	
345	第43回 調査34	SK1212	土師器	高杯	-	10.7	8.1	焼	黄緑	焼	回転ナデ?	回転ナデ ナデ	赤色粘土・雲母・細粒砂 含む	全体的に摩滅	202114 000348	
346	第43回 調査34	SK1212	土師器	高杯	23.6	-	19.9	焼	にぶい・焼	焼	回転ナデ ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂・ 粗粒砂含む	へつろいあり	202114 000345	
347	第43回 調査34	SK1212	土師器	甕	23.4	-	10.2	にぶい・焼	にぶい・焼	焼	ハタ目 ナデ	ケズリ ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂・ 粗粒砂含む	へつろいあり	202114 000346	
348	第43回 調査34	SK1212	土師器	脚部	17.3	4.7	4.4	焼	にぶい・焼	焼	ナデ	ナデ	雲母・角閃石・粗粒砂・ 粗粒砂含む	黒炭あり	202114 000347	
349	第43回 調査34	SK1212	土師器	ケマド	18.0	10.0	2.8	黄緑	黄緑	焼	ハタ目 ナデ	ハタ目 ナデ	中粒・粗粒粗粒砂含む	一部磨滅	202114 000348	
350	第43回 調査34	SK1212	土師器	蓋	16.3	-	0.31	にぶい・焼 ～黄灰	にぶい・焼 ～黄灰	焼	回転ナデ 回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	雲母・中粒砂・細粒砂含む	202114 000334		
351	第43回 調査34	SK1212	土師器	蓋	15.6	-	1.0	灰	黄灰	焼	回転ナデ ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	中粒砂含む	202114 000337		
352	第43回 調査34	SK1212	土師器	蓋	15.6	-	1.0	灰黄～灰	灰黄～灰	焼	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	粗粒砂含む	内面摩滅	202114 000336	
353	第43回 調査34	SK1212	土師器	杯	13.8	9.6	3.7	灰黄～灰	黄灰	焼	回転ナデ ナデ ヘラ切り造ナデ	回転ナデ ナデ	細粒・中粒砂含む	202114 000349		
354	第43回 調査34	SK1212	土師器	杯	14.0	9.4	3.9	焼	焼	焼	回転ナデ ナデ ヘラ切り造ナデ	回転ナデ ナデ	角閃石・粗粒砂含む	202114 000350		
355	第44回 調査35	SK1212	土製品	土師	4.9	1.9	1.7	焼			指オサエ ナデ	ナデ	赤色粘土・雲母・粗粒砂 砂含む	202114 000335		
356	第44回 調査35	SP26	石製品	石籠	2.7	1.5	0.6	灰						安山岩 長さ 1.4g	202114 000311	
357	第44回 調査35	SP41	銅土器	鉢	-	-	0.31～ 14.0	灰黄	焼	緑	銅目 押引文	黒銅	赤色粘土・雲母・粗粒砂・ 粗粒砂含む	管筒式	202114 000002	
358	第44回 調査35	SP95	土師器	転用果	14.4	16.0	3.2	灰黄	にぶい・黄	焼	回転ナデ ナデ	回転ナデ	わずかに粗粒砂・中粒砂 含む	蓋の転用	202114 000319	
359	第44回 調査35	SP325	土製品	土師	6.0	2.0	1.7	焼			ナデ	ナデ	雲母・角閃石・粗粒砂含む	202114 000108		
360	第44回 調査35	SP736	土師器	甕	17.2	9.8	14.7	灰黄 ～にぶい・赤	灰黄～灰	焼	回転ナデ タタキ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	ほぼ精良 粗粒砂含む	202114 000145		
361	第44回 調査35	SP957	鉄製品	刀子	4.5	0.7	0.4						長さ 3.7 g	202114 000370		
362	第44回 調査35	SP970	鉄洋?	鉄洋	5.2	3.7	2.3						長さ 33.3 g	202114 000310		
363	第44回 調査35	SP1111	土師器	杯	-	9.0	3.2	灰白	灰白	焼	回転ナデ ナデ	回転ナデ	わずかに粗粒砂・中粒 砂含む	202114 000284		
364	第44回 調査35	SP1162	土師器	皿	16.0	11.4	1.9	焼			回転ナデ?	回転ナデ?	ほぼ精良 赤色粘土含む	黒炭あり 全体的に摩滅	202114 000286	
365	第44回 調査35	SP1216	土師器	甕	12.8	9.8	3.7	焼			回転ヘラケズリ ナデ	ナデ	雲母・細砂・粗粒砂含む	202114 000353		
366	第44回 調査35	SP1279	土師器	皿	16.0	12.0	1.6	焼			回転ナデ ヘラ切り造ナデ	回転ナデ	赤色粘土・雲母含む わずかに中粒砂含む	外底摩滅	202114 000351	
367	第44回 調査35	SP1341	土師器	杯	13.2	8.6	3.6	焼			回転ナデ ヘラ切り? ナデ	ナデ	赤色粘土・中粒砂含む	外底粗砂あり 外底摩滅	202114 000352	



## IV. 総括

今回の調査では、縄文時代の落とし穴状遺構5基・ピット1基と奈良時代（8世紀中頃～後半）の柵列1条、掘立柱建物13棟、井戸1基、土坑29基、ピット多数を確認した。

縄文時代の遺構としては、S P 41、S K 833～834・980・1005・1006が挙げられる。

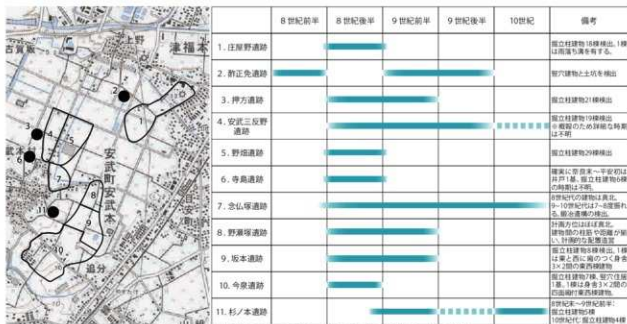
S P 41からは曾畑式土器が出土しており、縄文時代前期に位置付けられる。また、S K 833～834・980・1005・1006は落とし穴状遺構とみられる。いずれも縄文時代を示す遺物は出土していないが、平面形が隅丸長方形を呈し、過去の調査で縄文時代の落とし穴状遺構とされたものと類似することや、奈良時代に属する遺構の埋土の色調が黒～黒褐色であるのに対し、S K 833～834・980・1005～1006の埋土の色調はにぶい黄褐色～暗褐色土で明確に区別できたことから、これらを縄文時代の落とし穴状遺構として考えた。第Ⅱ章で触れたように、安武地区ではこれまでの調査でも落とし穴状遺構は検出されており、落とし穴状遺構の底面のピット数によって大きく3つのタイプに分類されている<sup>(1)</sup>。今回検出した落とし穴状遺構のうち、S K 1006のみ底面にピットが2つ以上掘削されているためC類に分類されるが、それ以外については底面は平坦でピットを有しないためA類に分類される。庄屋野台地では、A類がC類よりも多い割合であることが指摘されている<sup>(1)</sup>が、今回の調査でも同様の傾向であることが分かった。

Ⅳ区からは8世紀後半代のピットに先行する南北方向の地割れ痕跡を確認した。第8次調査地から南西に60mの地点に所在する庄屋野遺跡第9次調査においても南北方向の地割れ痕跡を確認している。また、東鳥遺跡の地割れ痕跡や噴砂痕が天武天皇七年（678）の筑紫大地震に相当すると考えられている<sup>(2・3)</sup>。ピットとの重複関係から、8世紀以前に起こった地震による地割れと考えられ、それが筑紫大地震である可能性を指摘できる。

今回検出した奈良時代（8世紀中頃～後半）の掘立柱建物の計画方位は、①ほぼ真北を向くもの

第9表 掘立柱建物一覧表

遺構番号	調査区	規模(m)	棟方向	間数	主軸方位
SB573	Ⅱ区	2.6 × (2.0)		2間 × 1間以上	N-20.4°-W
SB702	Ⅱ区	(1.6) × (1.5)		1間以上 × 1間以上	N-8.7°-W
SB804	Ⅲ区	(4.0) × (3.3)		2間以上 × 2間以上	N-10.9°-W
SB805	Ⅲ区	(4.8) × 3.6	東西	3間以上 × 2間	N-100.3°-W
SB813	Ⅲ区	(4.9) × (3.8)	南北か	3間以上 × 2間以上	N-11.8°-W
SB836	Ⅲ区	9.2	南北か	5間以上	N-0.2°-E
SB986	Ⅲ区	(6.7) × (3.7)	東西	4間以上 × 2間以上	N-93.7°-E
SB1074	Ⅳ区	2.6 ~ 3.1 × 2.0		2間 × 2間	N-9.4°-W
SB1219	V区	(5.4) × 3.8	南北	3間以上 × 2間	N-13.1°-W
SB1220	V区	(5.3) × 3.7	南北か	3間以上 × 2間	N-1.0°-W
SB1242	V区	(4.5) × 1.9		3間以上 × 1間以上	N-0.8°-E
SB1243	V区	(4.0) × (2.0)		2間以上 × 1間以上	N-4.7°-W
SB1345	Ⅲ区	2.4 ~ 2.5 × 2.2		2間以上 × 2間以上	N-37.5°-W



第45図 安武地区における古代の集落の位置とその消長

(S B 836・986・1220・1242・1243)、②西に8～13°振れるもの(S B 702・804・805・813・1074・1219)、③西に20～37°振れるもの(S B 573・1345)の3つのグループに大別されるが、有意な時期差はみられない。また、S B 804・805、S B 1220・1242の重複関係から、2時期が想定されるが、出土遺物から明確な時期差を見出すことはできなかった。

第8次調査地からおおよそ400mほど南下した地点で行われた第1～3次調査では、8世紀後半から9世紀にかけての掘立柱建物群を確認しており、そのうち1棟は、雨落ち溝を有する東西棟の建物である。第1～3次調査地と第8次調査地の中間にあたる第4・9次調査でも8世紀代の土坑や古代のピットは確認されているものの、掘立柱建物は確認されていない。第8次調査地から北側または北西側にあたる第5・6次調査では、弥生時代の溝や竪穴住居は確認されているが、古代の遺構は確認されていない。以上のことから、掘立柱建物によって構成される古代の集落が第8次調査地まで広がっており、ほぼ北限にあたることが分かった。

これまでの安武地区の調査では、古代の竪穴建物は酢正免遺跡、押方遺跡、今泉遺跡で計3棟しか見つかっておらず、集落を構成する建物は、掘立柱建物が中心である。II章でも触れているが、ここでは掘立柱建物を検出した古代の集落に着目して一度整理したい。

まず、安武地区の古代を語る上で中心となる野瀬塚遺跡と、近接する坂本遺跡・今泉遺跡について述べる。野瀬塚遺跡では、掘立柱建物が48棟検出されているが、建物群は柱筋を揃え、主軸方位を統一するなどの建物群全体が計画的な設計をもとに造営配置した様子が明らかであり、「三万大領」「□領」「三万少」などの墨書土器、「田主」のへら書き土器や陶硯・転用硯の出土を併せ、官衙施設の一部を構成する遺跡という理解がある。その性格を郷家、郡衙の機能を兼ね備えた施設や郡の出先として捉える説と「調」「庸」の製作のため、郡役人の管理下に郷単位に設けられた工房的機能を有する施設とする説が提示されている<sup>(4)</sup>。野瀬塚遺跡から南方に250mの地点に所在

する今泉遺跡では、四面廂建物と計画的に配置された建物が検出されており、野瀬塚遺跡の管理・運営を行った在地有力者でもある郡司層の居宅だとされている<sup>(3)</sup>。なお、野瀬塚遺跡と今泉遺跡の中間地点にあたる坂本遺跡でも掘立柱建物群が確認されており、大きく3時期に分けられ、方位にまとまりがみられる地点(第1次調査地)とみられない地点(第4次調査地)があるが、「福」のヘラ書きのある須恵器や越州窯系青磁碗や「西少」のヘラ書き土師器などが出土している。その性格を野瀬塚遺跡の管理・運営を行った三瀨郡の徴税実務を担当する官衙とする説もある<sup>(5)</sup>。

野瀬塚遺跡から北西に350mの地点にある野畑遺跡では、計画方位の揃った掘立柱建物群25棟の検出の他に、8世紀後半代の「市」「大印」「小印」墨書土器が出土している。野畑遺跡の南方にあたる念仏塚遺跡では、8世紀代の建物の計画方位が真北を示すため、野瀬塚遺跡と同じ計画方位の規制の下で営まれた建物だと考えられている。9～10世紀代の建物は7～8度西に振れるようになり、鍛冶遺構とされる遺構が検出された。また、9世紀後半の「大印」「小印」と判読できる墨書土器が出土するようになるが、野畑遺跡の墨書土器よりも1世紀ほど新しい<sup>(5)</sup>。なお、野畑遺跡の西方にある安武三反野遺跡においても古代の掘立柱建物群が計17棟検出されているが、概要報告のため、計画方位や遺跡の性格は不明である。

このように、掘立柱建物で構成され、識字層の存在を示唆する墨書土器・ヘラ書き土器などが出土する官衙的性格のある集落が、遺構の密度の濃淡はありながらもおよそ南北1km、東西500mの範囲の中でみられる。そしてその中心は、建物間の柱筋や計画方位を揃えた造営、墨書土器などの出土量からみて、野瀬塚遺跡と考えられる。庄屋野遺跡についても、掘立柱建物で構成されている点や、明確に判読できないものの文字が刻まれた土師器・転用硯が出土している点からも、官衙的性格を有する集落の広がり的一角として理解できよう。一方、郡や郷の施設との関係を含むより具体的な性格については、今回の調査では明らかにできなかった。なお、野瀬塚遺跡を中心に展開する官衙的な性格を有する集落は、短期間で廃絶することが特徴で、念仏塚遺跡を除くと、8世紀後半から9世紀初頭、長くて9世紀前半には一度廃絶する。庄屋野遺跡においても同様で、8世紀中頃から後半代の半世紀ほどで終焉を迎えるようである。

(1) 富永直樹 1989 「第8章 まとめと考察」『安武地区遺跡群Ⅱ 県営安武地区圃場整備事業関係に伴う埋蔵文化発掘調査報告書』

久留米市文化財調査報告書第60集

A類：坑底は平坦でピット等を有しないもの。

B類：坑底の中央に径20cm程のピットを一つだけ有するもの。

C類：坑底にピットが二つ以上有するもの。

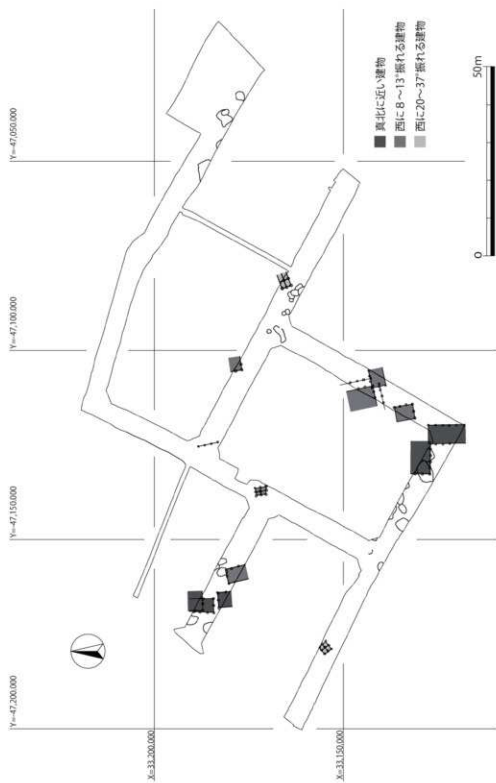
庄屋野台地においては、55基中A類35基(63.6%)、B類14基(22.5%)、C類6基(10.9%)

(2) 松村一良 1990 「『日本書紀』天武天皇七年条にみえる地震と上津土塁について」『九州史学』第98号九州史学会

(3) 松村一良 1994 「3 山川前田遺跡」『久留米市史』第12巻 資料編 久留米市

(4) 富永直樹 1994 「19 野瀬塚遺跡」『久留米市史』第12巻 資料編 久留米市

(5) 松村一良 1994 「21 安武今泉遺跡」『久留米市史』第12巻 資料編 久留米市



第46図 奈良時代の主要遺構配置図 (1/1,000)

# 圖 版



(1) I区全景 (南上空から)



(2) II区全景 (南上空から)

## 図版 2



(1) III区全景 (南上空から)



(2) IV・V区全景 (南上空から)



(1) S A 701 P 1 土層断面 (東から)



(2) S A 701 P 2 土層断面 (東から)



(3) S A 701 P 3 完掘状況 (西から)



(4) S A 701 P 4 完掘状況 (西から)



(5) S B 573 P 1 土層断面 (南から)



(6) S B 573 P 2 土層断面 (南から)



(7) S B 573 P 3 土層断面 (南から)



(8) S B 804 P 1 土層断面 (東から)



(9) S B 804 P 2 土層断面 (東から)



(10) S B 804 P 3 土層断面 (南から)



(11) S B 804 P 4 土層断面 (南から)



(12) S B 804 P 6 土層断面 (東から)



(13) S B 804 P 7 土層断面 (東から)



(14) S B 804 P 8 土層断面 (東から)



(15) S B 804 P 10 土層断面 (南から)



(16) S B 804 P 11 土層断面 (南から)



(17) S B 804 P 13 土層断面 (南から)



(18) S B 805 P 1 土層断面 (南から)



# 図版 4



(1) S B 805 P 2 土層断面 (南から)



(2) S B 805 P 3 土層断面 (南から)



(3) S B 805 P 4 土層断面 (東から)



(4) S B 805 P 5 土層断面 (東から)



(5) S B 805 P 6 土層断面 (東から)



(6) S B 813 P 1 土層断面 (東から)



(7) S B 813 P 2 土層断面 (東から)



(8) S B 813 P 3 土層断面 (東から)



(9) S B 813 P 4 土層断面 (南から)



(10) S B 813 P 5 土層断面 (南から)



(11) S B 813 P 6 土層断面 (南から)



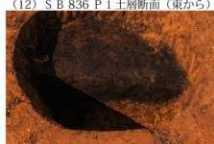
(12) S B 836 P 1 土層断面 (東から)



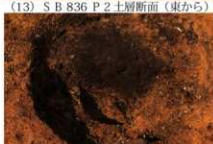
(13) S B 836 P 2 土層断面 (東から)



(14) S B 836 P 3 土層断面 (東から)



(15) S B 836 P 4 土層断面 (東から)



(16) S B 836 P 5 土層断面 (東から)



(17) S B 836 P 6 土層断面 (西から)



(18) S B 836 P 7 土層断面 (北から)



(1) S B 836 P 9 土層断面 (東から)



(2) S B 986 P 2 土層断面 (南から)



(3) S B 986 P 3 土層断面 (南から)



(4) S B 986 P 4 土層断面 (南から)



(5) S B 986 P 5 土層断面 (南から)



(6) S B 1074 P 1 土層断面 (南から)



(7) S B 1074 P 2 土層断面 (南から)



(8) S B 1074 P 3 土層断面 (南から)



(9) S B 1074 P 4 土層断面 (南から)



(10) S B 1074 P 5 土層断面 (南から)



(11) S B 1074 P 6 土層断面 (南から)



(12) S B 1074 P 7 土層断面 (南から)



(13) S B 1074 P 8 土層断面 (南から)



(14) S B 1074 P 9 土層断面 (南から)



(15) S B 1219 P 2 土層断面 (南東から)



(16) S B 1219 P 3 土層断面 (南東から)



(17) S B 1219 P 4 土層断面 (北西から)



(18) S B 1220 P 2 土層断面 (南から)

# 図版 6



(1) S B 1220 P 3 土層断面 (南から)



(2) S B 1220 P 4 土層断面 (北から)



(3) S B 1220 P 5 土層断面 (南から)



(4) S B 1220 P 6 土層断面 (南西から)



(5) S B 1243 P 1 土層断面 (北東から)



(6) S B 1243 P 4 土層断面 (南から)



(7) S B 1345 P 4 土層断面 (東から)



(8) S B 1345 P 5 土層断面 (東から)



(9) S B 1345 P 6 土層断面 (東から)



(10) S E 1194 土層断面 (東から)



(11) S E 1194 掘削状況 (北西から)



(12) S K 48 土層断面 (東から)



(13) S K 48 完掘状況 (北から)



(1) S K 121 遺物出土状況 (北東から)



(2) S K 145 土層断面 (西から)



(3) S K 145 土層断面 (南から)



(4) S K 145 完掘状況 (北東から)



(5) S K 260 土層断面 (北西から)



(6) S K 260 遺物出土状況 (東から)



(7) S K 523 完掘状況 (東から)



(8) S K 548 土層断面 (南西から)

# 図版 8



(1) S K 549 土層断面 (南から)



(2) S K 560 土層断面 (南から)



(3) S K 560 完掘状況 (北から)



(4) S K 561 土層断面 (東から)



(5) S K 562 土層断面 (東から)



(6) S K 563 焼土出土状況 (北東から)



(7) S K 564 完掘状況 (北から)



(8) S K 761 土層断面 (南から)



(1) S K 833 土層断面 (東から)



(2) S K 834 土層断面 (東から)



(3) S K 881 土層断面 (東から)



(4) S K 881 完掘状況 (北西から)



(5) S K 882 土層断面 (南西から)



(6) S K 882 土層断面 (北西から)



(7) S K 882 完掘状況 (北西から)



(8) S K 980 土層断面 (東から)

# 図版 10



(1) S K 992 土層断面 (南から)



(2) S K 994 土層断面 (東から)



(3) S K 994 完掘状況 (南東から)



(4) S K 995 土層断面 (南から)



(5) S K 995 完掘状況 (北から)



(6) S K 998 土層断面 (東から)



(7) S K 998 土層断面 (北から)



(8) S K 998 完掘状況 (北東から)



(1) S K 1005 完掘状況 (南から)



(2) S K 1006 完掘状況 (北西から)



(3) S K 1009 完掘状況 (南から)



(4) S K 1192 完掘状況 (南西から)



(5) S K 1193 完掘状況 (南東から)



(6) S K 1192・1193 土層断面 (南から)



(7) S K 1210 土層断面 (東から)



(8) S K 1210 土層断面 (南から)



# 図版 12



(1) S K 1212 土層断面 (東から)



(2) S K 1212 土層断面 (北から)



(3) S P 522 土層断面 (西から)



(4) S P 736 遺物出土状況 (南西から)



(5) S P 803 土層断面 (南から)



(6) S P 806 完掘状況 (北から)



(7) S P 807 土層断面 (南から)



(8) S P 808 土層断面 (南から)



(9) S P 809 土層断面 (南から)



(10) S P 810 土層断面 (南から)



(11) S P 811 土層断面 (南から)



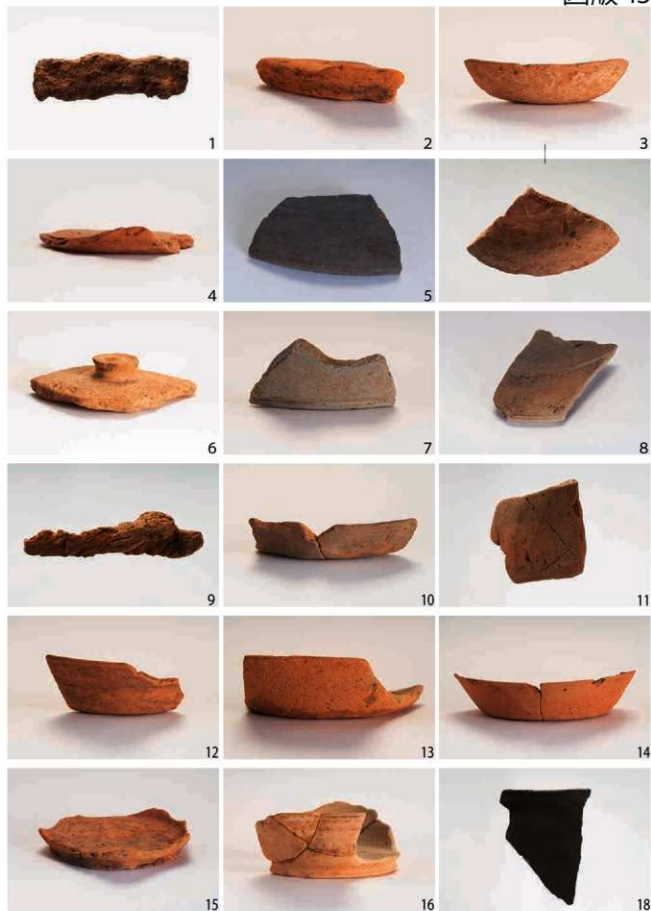
(12) S P 812 土層断面 (南から)



(13) S P 981 土層断面 (南から)



(14) S P 982 土層断面 (南から)



出土遺物 1

図版 14

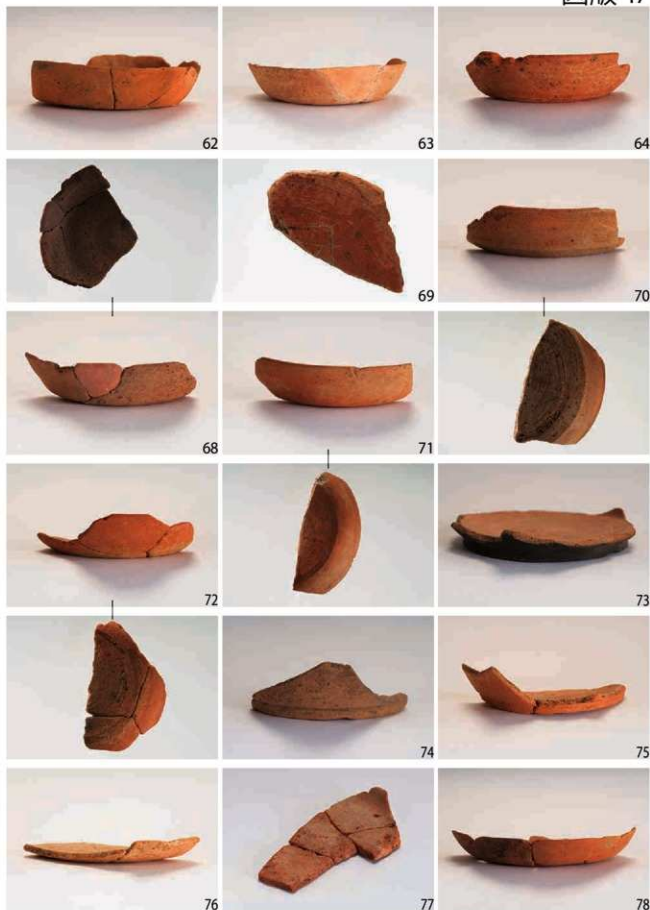




図版 16



出土遺物 4



出土遺物 5

図版 18

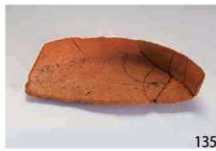






図版 20





図版 22





164



165



166



167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



178



179

図版 24





194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



205



206



207



208



209



210



213

図版 26



211



214



212



215



216



217



219



220



218



221



222



223



224



225



226





图版 28



242



243



244



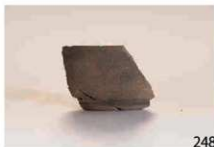
245



246



247



248



249



250



251



249



253



252



252



254



255



256



257

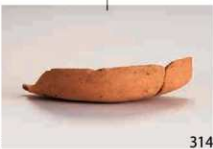


図版 30





図版 32





324



326



327



328



329



330



331



332



333



334



335



336



337



338



339

図版 34



340



341



342



343



344



345



347



348



349



350



351



352



353



354



355





報告書抄録

ふりがな	しょうやのいせき—だい8じはつくちちようさほうこく—							
書名	庄屋野遺跡 一第8次発掘調査報告一							
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第451集							
編著者名	長谷川 桃子							
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課							
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番3 TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714 Email: bunkazai@city.kurume.lg.jp							
発行年月日	2024(令和6)年3月31日							
所収遺跡名	所在地		コード		発掘期間	発掘面積	調査原因	
	市町村	遺跡番号	北緯	東経				
庄屋野遺跡 第8次調査	福岡県久留米市安武町安 武本字庄屋野五 2932-1、 2938、2940-1、2940-3、 2940-4、2957、2958、 2959、2961、2963-1、 2963-3、2964-1	40203	031131	33° 17' 53"	130° 29' 39"	20211201 ～ 20220621	3,074㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
庄屋野遺跡 第8次調査	集落	縄文 奈良	ビット 落とし穴状遺構 柵列 掘立柱建物 井戸 土坑 ビット	1基 5基 4条 13棟 1基 24基 多数	縄文土器、土師器、須恵器、 転用硯、土鍾、鉄製鋤先、 鉄製鎌、鉄滓	古代の集落を 確認した		
要約								
<p>庄屋野遺跡は、標高10mほどの台地上に立地する。今回の調査では、縄文時代の落とし穴状遺構と8世紀中頃～後半の掘立柱建物、井戸、土坑などを検出した。落とし穴状遺構は、底面がフラットで、小さなビットを持たないものがほとんどである。掘立柱建物は主軸方位から大きく3つのグループに分けられるが、出土遺物から時期差は見出せない。また、識字層の存在を示唆する転用硯の出土から、官衙的性格があると考えられる。古代の安武地区では、郷家、または郡衙の関連施設ともされる野瀬塚遺跡(調査地から南方800m)を中心に、掘立柱建物で構成された官衙的性格を有する集落が周辺に展開しており、庄屋野遺跡もその一つであると考えられる。</p>								
土木工事の届出日	令和3年11月18日		遺物の発見通知日		令和3年6月24日 (4文財第835号)			

<p>庄屋野遺跡 一第8次発掘調査報告一 久留米市文化財調査報告書 第451集 令和6(2024)年3月31日</p>	
発行	久留米市教育委員会
編集	久留米市市民文化部文化財保護課
印刷	中村印刷株式会社 久留米市梅崎町972